

教 学 の 理 念

学長 大城 光正

京都産業大学は1965年、学祖荒木俊馬によって創設された。戦後日本の精神文化の荒廃を憂慮された学祖は、「建学の精神」を根本理念として、国際社会で活躍できる人材の育成に心血を注ぎ、本学は極めて順調な発展を遂げた。この学祖による「建学の精神」は、その後も歴代の学長により力強く受け継がれ現在に至っている。

本学が創設以来、終始一貫して掲げてきた教育理念は、「建学の精神」に謳われているように、自らを厳しく律しつつ、創造力に富み、社会的な義務を怠ることなく、国内外を問わず活躍できる人材の育成である。そのためには、日本固有の文化の特質や歴史的な意義を深く理解するのみならず、世界各国の文化や文明に通暁し、世界で通用し得る見識と国際感覚を身につける必要がある。

急速に進展する国際化、情報化社会において、本学は、時代のスピードに乗り遅れることなく、常に国際社会の動向に注視しながら、豊かな国際感覚と世界に雄飛する行動力のある人材育成のためのカリキュラム編成とその充実に取り組んでいる。特に、科学技術の進展や文化・文明が作り出した地球規模の課題解決が急務の現代社会に対応するために、本学は、一拠点総合大学の利点を最大限に生かし、体系化された教養教育と専門教育、さらには学部間の壁を取り払ったカリキュラム編成と、特色のある大学院の専門教育のカリキュラムの充実に意欲的に取り組んでいる。

本学が、特に重視するのは、幅広い教養知識と国際社会で活躍できる専門知識の修得に加えて、「建学の精神」に謳われている豊かな人間性と高い倫理観を持った人格形成の確立である。

外国語学部のポリシー

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

外国語学部は、多様な言語とその関連領域、および国際関係に関わる教育を行うことにより、京都産業大学の建学の精神に適う人材を育成することをその教育の目的としている。とりわけ、日本国内に限らず国際社会においても信頼され活躍できる人材を育成するため、言語についての体系的理解を基礎とした実践的な言語運用能力と異文化理解および国際社会の今日的課題に関する体系的な知識の習得を可能にする教育課程を編成・実践している。したがって、4年間の教育課程を修了する際には、以下の知識・技能・資質を身につけていることが求められる。

専門分野の知識と理解

1. 効果的な言語運用のために必要な言語知識を有している。
2. 異文化を理解すると同時に自国文化を相対化して理解している。
3. 学習言語そのものの構造や規則に関して体系的に理解している。
4. 国際関係と学習言語圏の文化・社会に関して体系的に理解している。

技能

1. 専門的技能
 - ①国際社会で要求される言語運用の土台となる言語スキルを身につけている。
 - ②卒業後も自律的かつ効果的に外国語学習を行う技能を身につけている。
 - ③学習言語を利用して多様な情報を収集し適切に評価する能力を身につけている。
2. 汎用的技能
 - ①複雑な事象の中から、自ら課題を発見する能力を身につけている。
 - ②課題を論理的に分析し、解決策を提示する基本的方法を身につけている。
 - ③IT機器を利用して情報を収集し効果的に発表する方法を身につけている。

態度・志向性

1. 異なる文化や多様な価値観を柔軟に理解しようとする積極性を持っている。
2. 習得した知識や技能を活用して、国際社会の中で主体的に活躍・貢献しようとする気概を持っている。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

外国語学部は、多様な言語とその関連領域、および国際関係に関わる教育を行うことにより、京都産業大学の建学の精神に適う人材を育成することをその教育の目的としている。とりわけ、日本国内に限らず国際社会においても信頼され活躍できる人材を育成するため、言語についての体系的理解を基礎とした実践的な言語運用能力の習得と異文化理解および国際社会の今日的課題に対する理解の涵養を可能とするために以下の特色を持った教育課程を編成している。

1. 4年間の学習成果が最大限となるように、入学時から各学科・専攻に別れて専門教育を行う。
2. 専攻語の運用能力に関して、各学科・専攻に具体的な到達目標を設定し、所属する学生が所定の目標に到達できるようにする。
3. 1・2年次は、基礎的な言語運用能力を身につけるために、母語話者教員を中心とした小人数かつ集中的トレーニングを行う。
4. 専攻語で情報を収集・処理する能力を獲得するために、IT機器を用いた情報教育を行う。
5. 国際社会の今日的課題への基本的理解を涵養するために、専攻語に拘わらずすべての学科・専攻で国際関係科目を履修する。
6. 専攻語の運用能力だけでなく、専門領域に関わる幅広い知識を獲得するために、多様な分野の講義科目を履修する。
7. 専門教育で得た知見をさらに主体的に掘り下げ、論理的思考力・課題解決能力を伸ばすために、3・4年次で研究演習を履修する。
8. 異文化理解、国際関係理解、専攻語の運用能力獲得を促進するために、海外研修・海外留学を積極的に行う。

※入学者の受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）については、本学HP⇒〈教育情報〉参照

外国語学部の教育目標

外国語学部では、建学の精神にのっとり、優れた語学力と高い教養を身につけ、国際社会で活躍できる人材を育成することを教育目標としています。

今日の国際社会は、ますます複雑・多様化の様相を呈しています。また、科学技術の進歩・発展によって世界は、物理的にますます小さくなっています。人的交流がこれまで以上に盛んになり、異文化理解と国際協力の必要性が増大しています。しかし、ことばの壁を乗り越えなければ、真の異文化理解も国際協力も望めません。

言語は、その言語を話す人々のものの見方・考え方、すなわち思考様式と密接な関係があると言われています。つまり、外国語を学ぶことは、その言語を話す国民や民族の立場にたつてものを考えることができるようになることであり、その言語が用いられている国や地域の社会・文化について深く理解することを意味します。それが異文化理解や国際協力を推進するための原動力になることは言うまでもありません。また同時に、グローバル化が進展する今日、国際政治・経済・法・文化への深い理解がますます必要となっています。

ひるがえって、外国語を学ぶことは、私たちの母語である日本語や日本の社会・文化を新しい視点から見つめ直す機会を与えてくれます。それは、何よりも私たちの思考方法や思考過程をより柔軟性のある豊かなものにしてくれます。これまで、とかく外国からの文化を吸収することに急であった日本が、今後、相互依存型の国際社会に生きてゆくためには、相手の考えを理解するだけでなく、自らの考えを相手に理解してもらうことが非常に必要となってきます。

外国語の学習を通じて、高い教養を身につけ、堂々と自己主張のできる、しかも日本人の心を失わない人間が、今後の国際社会に生きる日本に求められる人材といえます。外国語学部は、このような人材の育成をめざしています。

Contents ◆ 外国語学部 ◆

◆ 教学の理念

◆ 外国語学部のポリシー

◆ 教育目標

履修要項と履修要項別冊ガイド	a-1
大学からの連絡事項	a-2
学生証	a-3

◆ 履修一般事項

Semester制	a-6
学年と Semester制	
開講形式	
開講形態	
授業科目と単位制	a-7
授業科目	
単位制度	
履修登録	a-8
履修計画	
履修登録	
履修登録の流れ	
履修登録方法	
Web履修登録日程等	
履修登録単位数の制限	
履修登録の注意事項	
履修ガイダンス	
履修中止(ドロップ)制度	
授 業	a-13
授業時間	
出席の重要性	
休 講	
補 講	
オフィスアワー	
試 験	a-15
試験の種類	
定期試験	
追試験	
臨時試験	
試験に関する注意事項	
受験に際してのアドバイス	
学業成績	a-18
評価と点数	
成績発表	
卒 業	a-20
卒業要件	
卒業時期	
卒業の延期	
卒業見込証明書の発行(7・8 Semester生)	

◆ 学 籍

◆ 単位互換制度

◆ 教育課程

履修方法

英語学科	b-3
ヨーロッパ言語学科	b-21
アジア言語学科	b-39
国際関係学科	b-61

外国語検定試験合格等の単位認定制度

融合教育(フレキシブルカリキュラム)

グローバルな学び(GET)

共通教育の必修英語科目	b-100
英語による科目	b-100
在学留学	b-103
海外インターンシップ	b-108

教職課程

図書館司書課程

学芸員課程	b-113
学校図書館司書教諭課程	

◆ 規 程

京都産業大学	学則(抜粋)	c-3
京都産業大学	履修一般規程	c-10
京都産業大学	学籍に関する規程	c-13

履修要項

履修要項は、大学での学修におけるルールや履修についての規則、卒業に必要な単位などを示しています。入学時にのみ配付され、卒業するまで使用しますので掲載内容を熟読のうえ、大切に保管し、活用してください。

なお、掲載事項に変更が生じた場合は、履修ガイダンスまたは電子掲示板POSTでお知らせします。

履修要項別冊ガイド

履修要項別冊ガイドは、当該年度に必要な学修における情報を提供することを目的に配付しています。

当該年度に開講される授業科目や履修登録手続きなど、学修に必要な詳細情報、年間のスケジュール等を掲載しています。

自らの充実した履修計画の策定に、入学時に配付された履修要項と併せて活用してください。

教職免許状取得希望者は、教職課程ガイダンスにおいて配付される「教職課程履修要項」も併せて活用してください。

大学からの連絡事項

1. 電子掲示板POST

大学からの連絡事項は、電子掲示板POSTで伝達します。

パソコンやスマートフォン等から1日に1回は必ずアクセスして、必要な情報を逃さずに確認する習慣をつけてください。

〔主な伝達事項〕

- 緊急連絡事項
- 休講・補講・教室変更等の授業情報
- 定期試験・レポート試験の情報
- 各種行事の情報
- 呼出等、学生個人に向けた情報

〔電子掲示板POSTへのアクセス方法〕

- ① 本学のトップページを開く
- ② トップページの「在学生の方」をクリック
- ③ 「POSTへのLogin」をクリック
- ④ 本学発行の「ユーザID」と「パスワード」を入力

電子掲示板POST URL : <https://portal.kyoto-su.ac.jp/portal/>

携帯電話版URL : <https://portal.kyoto-su.ac.jp/portal/ktop.do>

スマートフォン版URL : <https://portal.kyoto-su.ac.jp/portal/sptop.do>



〈携帯電話版〉



〈スマートフォン版〉

【休講・補講情報、教室変更情報 検索】

休講・補講及び教室変更は、履修している科目だけではなくすべての情報を検索できます。

休講・補講情報は15分毎に1回更新します。



【試験情報 検索】

試験期間開始の10日前頃から情報を検索できます。



2. 掲示板（紙掲示）

電子掲示板POST以外に、学内に設置されている掲示板（紙掲示）で大学からの連絡事項を伝達する場合があります。

電子掲示板POSTでお知らせした内容は、周知されたものとみなします。

電子掲示板POSTを見なかったために生じる不利益は、学生本人の責任となります。

また、掲載後、内容が変更される場合もありますので、電子掲示板POSTを1日に1回はチェックする習慣および登校の際は必ず学内に設置されている掲示板（紙掲示）に目をとす習慣をつけてください。

学生証

1. 学生証

学生証は本学学生としての身分を証明する大切なものです。学内外を問わず常に携帯し、紛失や盗難等がないように注意してください。なお、学生証は、在籍期間中継続して使用しますので大切に扱ってください。

〈表面〉



〈裏面〉



卒業留年および休学等の事由により、在籍期間を延長する場合は、教学センターで必ず更新手続き（磁気の手換え、延長する有効期間を記載したシールの取得）を行ってください。

〔学生証番号〕

本学に入学を許可された人に学籍番号を付与し、これを学生証番号とします。この学生証番号は在籍中も卒業後も変わりません。本学でのすべての事務手続きはこの学生証番号で処理されますので、学生証番号を間違えないように注意してください。

〔顔写真〕

顔写真は本人確認に利用されます。第三者から見て本人確認が行えないと判断される場合は速やかに再交付の手続きをとるようにしてください。特に定期試験やレポート提出の際は注意してください。

〔こんなときには学生証が必要です！〕

- ① 授業に出席するとき
- ② 試験を受験、またレポートを提出するとき
- ③ 各種書類等を提出または受け取るとき
- ④ 図書館で本を借りるとき
- ⑤ 学内施設を利用するとき
- ⑥ 通学定期券を購入するとき
- ⑦ 学割、各種証明書の発行を受けるとき
- ⑧ 本学教職員から提示を求められたとき

【注意】 学生証の取り扱いについて

- ① 学生証を他人に貸与、譲渡してはいけません。
学生証は本人以外、使用できません。他人に貸したりして悪用されると、大きな被害を受けることになりますので他人に貸与、譲渡してはいけません。
- ② 学生証は、ICチップが搭載された磁気カードです。
磁気が消えてしまうことがありますので、磁気の強い携帯電話や鉄道などのICカード（定期券）と一緒に保管しないようにしてください。
また、学生証内のICチップが破損すると、建物への入館の際など、データが読み取れなくなります。
破損による再交付には1,000円の手数料が必要となります。

2. 学生証の再交付および返還

〔学生証の再交付〕

学生証を紛失、破損又は汚損したときは、直ちに教学センターで再交付の手続きをしてください。

再交付手続き後、新しい学生証は、3日後に再交付します。再交付の手続きには、手数料1,000円と証明写真（カラー、縦4cm×横3cm、上半身、無帽、正面向き、3カ月以内に撮影したもの）が必要です。

なお、氏名変更等により学生証の記載事項に変更が生じた場合は、現学生証と引換えに無料で再交付します。ただし、証明写真は必要としますので提出してください。

注意！ 学生証を紛失（盗難等）した場合は、悪用される恐れがありますので、必ず最寄りの警察署に届け出てください。

〔学生証の返還〕

卒業、退学又は除籍により本学の学籍を離れるときは、学生証を必ず教学センターに返還してください。

なお、卒業時には、学位記授与の際に返還していただきます。

再交付を受けた学生で、後日、旧学生証が見つかったときは、旧学生証を教学センターに返還してください。

3. 仮学生証

試験受験時およびレポート提出時には学生証が必要です。当日に学生証を忘れた場合は、証明書自動発行機で「仮学生証」の交付を受けてください。

仮学生証は、定期試験期間中のみ発行し、当日限り学内でのみ有効で、試験以外の目的で使用することはできません。年間5回まで交付します。

なお、使用後の仮学生証は、教学センターに返却してください。

4. 通学証明書

通学定期券購入時には、本学発行の通学証明書が必要になります。

教学センターで通学証明書発行の手続きを行ってください。

ただし、京都バスについては、本学発行の通学証明書は不要で、交通機関窓口に備付けの所定様式の記入にて通学定期券を購入することが可能です。

注意！ 通学区間の申請は自宅から大学までの最短で適正なルートに限ります。

また、大学に届出ている現住所以外からの申請は認めません。現住所を変更した場合は、速やかに教学センターで「住所変更」の手続きをしてください。

5. その他

〔仮パスワードの変更〕

学割や各種証明書等を証明書自動発行機で入手する場合は、学生証とともにパスワードが必要です。入学時の仮パスワードは、入学手続き時に届け出た保証人（保護者）住所の電話番号下4桁となっています。

必ず各自、パスワードの変更手続きを証明書自動発行機で行ってください。

履修一般事項

セメスター制

1. 学年とセメスター制

本学では、1つの学年を春学期と秋学期に分け、学期（1つのセメスター）ごとに単位を修得し、8セメスター（4年間）を積み重ねて卒業要件を満たす、セメスター制をとっています。

また、授業科目については、履修上「年次」を用いて配当しています。

「年次」は、単純に入学年度からの年数をカウントし、休学期間や修得単位数を考慮しません。これらの関係を図に示すと次のようになります。

春学期 第1セメスター	秋学期 第2セメスター	春学期 第3セメスター	秋学期 第4セメスター	春学期 第5セメスター	秋学期 第6セメスター	春学期 第7セメスター	秋学期 第8セメスター
1年次		2年次		3年次		4年次	

注：休学等により在学しない期間は、年次は進みますがセメスターは進みません。

その年次に単位を修得しなければ上級年次に進級できないということはありません。

2. 開講形式

各授業科目は、次の3つのうち、いずれかの開講形式をとっています。

学期完結	春学期もしくは秋学期の半年間で授業が完結される。 成績評価および単位認定は各学期ごとに行われる。
学期連結	春学期・秋学期を継続して授業が行われる。 成績評価は春学期は暫定点（中間点）として評価され、秋学期終了時に春学期・秋学期の成績を総合評価して単位認定が行われる。 春学期のみもしくは秋学期のみ休学や在学留学する場合は、成績評価および単位認定はされない。
通年	春学期・秋学期を継続して授業が行われる。 基本的に、春学期終了時での成績評価は行われず、春学期・秋学期の成績を総合評価して単位認定される。 ただし、暫定点（中間点）が公表される場合もある。 春学期のみもしくは秋学期のみ休学や在学留学する場合は、成績評価および単位認定はされない。

3. 開講形態

通常、一つの講義は、週1回90分1時限で行われます。

また、授業を効果的に行うため、科目によっては次のように開講されるものがあります。

複数開講科目	1週間に同じ講義内容を複数回繰り返して行われる科目をいいます。 毎年、履修者数が多い科目を、多くの学生が履修できるように、週に数回開講しています。
連続講義科目	授業の効果をあげるため、同一曜日に連続した時限（〔例〕月3・4時限連続）で行われる場合と、異なる曜日（〔例〕月3・金2）で行われる場合があります。 該当する時限をすべて履修しなければなりません。
リレー講義科目	一つの講義を担当者が複数名で引き継いで行う科目をいいます。
集中講義科目	授業の効果をあげるため、一定期間に集中して行われる科目をいいます。

授業科目と単位制

1. 授業科目

大学の授業科目は次のいずれかに指定され、各年次に配当されています。

必修科目	【必ず修得しなければならない科目】 この科目の単位が未修得の場合は、卒業要件単位数を修得していても、卒業することができません。
選択必修科目	【特定されている科目の中から一定の単位数を必修とする科目】 この科目も、必修科目と同様に未修得の場合は、卒業要件単位数を修得していても、卒業することができません。
選択科目	【特定されている科目の中から自由に選んで履修できる科目】
自由(随意)科目	【所属する学部の教育課程以外として取り扱われる科目】 単位修得があっても卒業要件単位数に充当されません。

2. 単位制度

大学における学修は、単位制で行われています。

【単位制】

単位制とは、修業年限(最低4年間)中に、卒業に必要な単位数を修得する制度です。

【単位とは】

すべての授業科目に、単位数を設定しています。

単位とは、科目を修得するために必要な学修量(時間)を数値で表したものです。

本学では、授業時間だけでなく、事前・事後学習等教室外での自主学修も含めた45時間の学修時間をもって1単位と定めています。事前・事後学習の内容については必ずシラバスで確認してください。

【授業時間と単位】

本学では、1時限90分の授業が年30週(春学期15週、秋学期15週)行われます。単位数は、90分(1時限)の授業時間を2時間相当の学修時間とみなし、事前・事後学習もあわせた時間で設定されています。

考え方(例)

2単位の講義・演習科目			
事前学習 2時間	週1回授業 2時間	事後学習 2時間	… 6(時間/週) × 15(週間) = 90時間 = 2単位
授業1: 自主学修2			
1単位の実験・実習科目			
	週1回授業 2時間	事前・事後学習 1時間	… 3(時間/週) × 15(週間) = 45時間 = 1単位
授業2: 自主学修1			

※学期連結の開講形式をとる授業科目や連続講義科目については、上記の考え方を倍にして計算してください。

卒業論文・卒業研究・卒業制作等の授業科目

学修の成果を評価して、単位を授与することが適切と認められる場合に、これらに必要な学修を考慮のうえ単位が与えられます。

【単位の認定】

履修登録を行い、その授業科目を履修し、試験に合格(60点以上)することにより、単位が与えられます。

ただし、その授業科目が開講されている期間の学期末まで在学している必要があります。

履修登録

1. 履修計画

大学における学修の特徴は、自ら学びたい領域や分野を決め、多くの授業科目から関連する科目を選択し、決定することにあります。

大学での学びを充実したものとするため、科目選択にあたっては、自分の好きな科目を何の関連もなく自由に選択するのではなく、入学した学部・学科の特色や特性、自分の将来の進路等を考慮し、自身の学びの向上に必要な科目を中心に履修計画を立てましょう。「1年次の自分は、どんな科目を履修すべきか」、「将来の目標を実現するためには、どのくらいのペースで履修すべきか」、「受講科目には、どれくらいの学習時間が必要なのか」等の目安を把握することで、系統的・段階的な学びが可能になります。

履修計画の作成にあたっては、履修要項やシラバス、科目ナンバリング一覧のほか、各学部で実施されるオリエンテーションや履修計画相談への参加で得られる情報が参考になります。必ず出席し、各学部・学科のカリキュラムの特徴を理解したうえで、履修登録を行うようにしましょう。

[履修計画の作成手順]

- ①オリエンテーションに参加し、履修要項（本冊子）で卒業に必要な単位（専門教育と共通教育、必修・選択必修の区分等）、1学期で履修可能な単位数、そのための学修時間を把握する。
- ②履修計画相談会等で、シラバス、科目ナンバリング一覧等を参照しながら、自身の興味関心や進路にあった履修計画を相談する。
- ③履修要項別冊ガイド、カリキュラムマップ等を参考に、各年次で履修できる科目を把握し、卒業までのプラン（履修計画）を描く。

2. 履修登録

履修登録は、自らの履修計画に基づき、授業科目について履修（授業を受ける）の意思表示をすることであり、学修のスタート地点になります。履修要項別冊ガイド、時間割表等を活用して履修登録を行いましょ。

なお、履修登録を行っていない授業科目を受講することはできません。

また、履修登録を行わない場合には、修学意志がないものとして除籍（a-23ページ）となります。何らかの事情で履修登録ができない場合には、履修登録期間内に学部事務室の窓口で相談してください。

3. 履修登録の流れ

履修計画の作成

履修要項、科目ナンバリング一覧、シラバス等を参考に、系統的・段階的な学びを意識した4年間の履修計画を策定する。

履修登録

シラバスで授業内容や事前・事後学習の内容を確認し、時間割表に照らし合わせて時間割を組む。

【Web履修登録】

- (1) クラス指定科目（語学科目等）の曜日時限を確認
- (2) ①必修→②選択必修→③選択科目の優先順位で登録
※履修制限科目を含む
- (3) 履修制限科目の抽選結果を確認
- (4) 履修登録の確認・確定

※履修登録期間最終日までにWeb履修登録画面を必ず確認し、エラーがあれば修正してください。

授業への出席

学部で実施される履修計画相談等を積極的に活用しましょう。

[必ずチェック]

- ・履修要項
- ・Webシラバス
- ・科目ナンバリング一覧
- ・履修要項別冊ガイド
- ・時間割表
- ・Web履修登録エントリーガイド

大学での学修に慣れるまでの低年次は、しっかりと予習や復習する時間を考えて授業を登録しましょう。予習復習を十分に行うことで授業がしっかり理解でき、確実な単位修得につながります。

授業への出席は大変重要です。必ず初回授業から出席してください。シラバスに掲載されている評価方法が期末テスト100%と書かれていても、原則として、授業回数の3分の2以上を出席しなければ、単位の認定は行われません。

履修計画の作成、履修登録にはシラバス、科目ナンバリング一覧を活用しましょう！

[シラバス]

大学での学修は、単に授業に対して受け身の姿勢で臨むのではなく、自ら履修計画を立て、自分の立てた計画の中で授業や準備学習(予習・復習)を位置づけ、授業の到達目標を達成していくことが重要です。それらを支え、手引書として機能するのがシラバスです。

シラバスには、各授業科目の「内容・実施計画、準備学習(事前・事後学習)の内容、到達目標、授業で身に付く力、履修上の注意、必要教材、評価方法」等が記載されています。

シラバスには大きくわけて2つの利用方法があり、1つは、履修計画の作成や履修登録の際、どのような授業を受けるかを決めるために活用するものです。シラバスに記載されている各科目の授業概要、準備学習(事前・事後学習)、身に付く力等に目をとおし、大学で特に学びを深めていきたい分野の科目、自身が伸ばしたい能力を身に付けられる科目、同時に学ぶことで学びの相乗効果につながる科目の選択等に活用してください。

2つめの活用方法は、日々の授業の予習・復習に役立てるものです。シラバスを活用することによって、「今回の授業が全体の位置づけではどうなっていたのか」、「次回はどのような内容で、どのような学習の準備が必要なのか」等を確認し、教科書や参考図書としてあげられているものに目をとおす等、予習・復習に役立てることができます。

シラバスは、大学ホームページで公開されています。

https://syllabus.kyoto-su.ac.jp/syllabus_search/

[科目ナンバリング]

科目ナンバリングは、各授業科目の分野やレベル等を特定の記号で分類することで、カリキュラムの体系的性を明示するものです。

大学では、授業科目をつまみ食いの(脈略もなく)履修しても、その学問分野の内容を深く理解することは困難です。科目ナンバリングを活用することで、体系的に学修していくためにはどの科目から学修していけばよいかかわかるようになり、順次性のある履修計画の作成が可能となります。

時間割を作成する段階においても、単に必修科目か選択科目かといった視点からだけでなく、自身が希望する進路や興味関心をもとにナンバリング一覧表から分野を選び、難易度を確認しながら科目を選択することで、無理なく学びを深めていくことができます。

さらに同じ分野・難易度に含まれる科目を同時に学ぶことで、学びの相乗効果も期待できます。例えば、専門用語の意味を理解しやすくなったり、ある授業科目ではわかりにくかった内容が、近接領域にある別の授業科目を学ぶことで新たな視点からの気づきもたらされたりするからです。

科目ナンバリングの一覧は、大学ホームページで公開されています。

https://syllabus.kyoto-su.ac.jp/syllabus_search/

科目ナンバリングの見方(例：法学部)

<u>JJ</u>	<u>bas</u>	<u>2</u>	<u>05</u>
学部番号	科目の分野	科目の難易度	科目番号
JJ=法律学科	sem=総合演習	難易度5 高い	
JP=法政策学科	lng=外国語	難易度4 ↑	
	bas=基礎法学	難易度3	
	pub=公法学	難易度2	
	int=国際法学	難易度1 低い	
	scc=社会法学		
	cri=刑事法学		
	civ=民事法学		
	pol=政治学		
	rel=国際関係論		
	oth=他分野融合		

4. 履修登録方法

履修登録する科目は、自ら決定し、登録してください。

履修登録は、春学期と秋学期の学期始めに年2回あり、定められた期間内にWeb上のシステム「Web履修登録システム」で行います。

ただし、以下の科目は、履修登録方法が異なりますので注意してください。該当する科目や具体的な登録方法については、「履修要項別冊ガイド」に記載、または電子掲示板POSTにて案内しますので、よく確認して登録を行ってください。

クラス指定科目	人数制限等の関係から、あらかじめ指定(曜日時限を指定)されたクラスで履修する科目
予備登録科目	演習科目等、あらかじめ募集を行い、書類選考等により履修登録者を決定する科目
履修制限科目	履修登録希望者が多く、人数制限の関係から、抽選等により登録を許可する科目

抽選結果やクラス指定の結果については、各自で各科目の指示に従って確認してください。

また、これらの結果発表後は、登録の変更ができない場合がありますので、よく検討したうえで登録するようにしてください。

なお、履修制限科目等で落選した場合のことも考えて時間割を組み立ててください。

5. Web履修登録日程等 ※履修要項別冊ガイドで日程を確認!!

〔Web履修登録〕

履修登録を行うにあたっては、自分が修得しなければならない授業科目をよく理解し、事前にシラバスの内容(授業内容、事前・事後学習の内容、科目ナンバリング一覧)を確認のうえ、系統的・段階的な学びを意識して、自ら登録を行ってください。

Web履修登録期間

春学期：3月下旬～4月初旬

秋学期：9月中旬～9月下旬

〔履修登録の確認〕

Web履修登録のトップページから「履修申請チェック」のボタンをクリックして表示される「登録内容確認表」画面に記載されている科目が、実際に登録された履修科目です。

履修登録を行った科目がすべて正確に登録されているか確認してください。

(エラーメッセージのない科目も必ず確認してください。)

確認後は、Web履修登録「登録内容確認表」画面から「登録内容確認表」をプリントアウトし、登録内容を確認後、「登録内容確認表」は保管しておいてください。

6. 履修登録単位数の制限(キャップ制)

1学期間に履修登録できる単位数には、上限が設けられています。

これは、単位の過剰登録を防ぐことにより、履修登録した科目ごとに十分な学修時間(予習復習を含む1単位当たりに必要な学修時間)を確保し、履修登録した科目の学修効果を高めることが目的です。

「上限単位まで履修登録しなければならない」という意味ではありませんので、履修計画に基づき、しっかりと学修ができる量の科目を登録し、一つひとつの科目の理解をより深めてください。

7. 履修登録の注意事項

- ①登録期間を過ぎると、履修登録はできません。病気その他やむを得ない理由で、所定の期日までに登録手続きができない場合は、事前に学部事務室に申し出て、指示を受けてください。
- ②春学期の履修登録は、春学期開講科目、学期連結および通年開講科目が対象となります。春学期に秋学期開講科目を履修登録することはできません。
- ③秋学期の履修登録は、秋学期開講科目が対象となります。
- ④秋学期履修登録時に、春学期に登録した学期連結科目および通年開講科目を変更することはできません。
なお、秋学期休学や在学留学する場合、学期連結および通年開講科目の履修登録は削除されます。
- ⑤複数開講科目を重複して登録することはできません。
- ⑥修得済の授業科目を再度登録することはできません（科目名が変更された場合も同一科目扱いとなります）。
- ⑦単位互換科目を履修している学生は、単位互換科目と本学履修科目の授業曜日・時間帯が重複していないか、移動時間も考慮のうえ確認してください。
- ⑧その他、授業科目の詳細については、「履修要項別冊ガイド」でよく確認してください。

8. 履修ガイダンス

履修ガイダンスでは、履修登録およびその他の手続き等重要な説明を行います。当日出席できないということがないよう、事前に日程を確認し、必ず出席してください。

9. 履修中止（ドロップ）制度

履修中止（ドロップ）制度とは、履修登録確定後に、下記理由により履修を放棄したい場合、授業期間の途中で履修を中止することができる制度です。

履修を中止した科目の代わりに、その単位数相当分の別の科目を登録することはできません。

また、履修を中止した科目は、いかなる理由があっても、その学期中の復活はできません。

ただし、履修を中止した科目を、次学期以降に改めて履修することは可能です。

【履修中止が認められる理由】

- ①授業を受けたものの、授業内容が勉強したいものと違っていた場合
- ②授業スピードについていけないだけの事前知識が不足していた場合
- ③健康上の理由から履修科目を減らしたい場合
- ④その他、本学が特にやむを得ないと認めた場合

【履修中止の願い出ができないケース】

履修を中止することにより、履修登録科目のすべてがなくなる場合は、履修中止できません。

【履修中止の願い出ができない科目】

次の科目は、履修中止の願い出ができません。

- ①秋学期における通年・学期連結科目
- ②単位互換科目（大学コンソーシアム京都 等）
- ③教育実習
- ④介護等体験
- ⑤博物館実習
- ⑥キャリア形成支援教育科目のうち、指定された科目
- ⑦外国語学部、文化学部、理学部の学生のみ、専門教育科目の必修科目
- ⑧共通教育科目の言語教育科目のうち、必修の科目

〔履修中止の願い出〕 ※履修要項別冊ガイドで日程を確認!!

履修中止の願い出は、所定の期間にWebにて申請してください。願い出期間後の申請および履修中止を申請した科目の取消は一切認めません。

なお、履修中止の申請理由や申請者の修学状況により、学部事務室から内容の確認を行う場合があります。電子掲示板POSTの伝言または学部事務室からの電話により連絡しますので、対応できるようにしておいてください。確認に応じない場合には履修中止の願出を許可しません。

また、履修中止の願い出後、履修中止が許可された科目については、「Web履修登録システム」の「登録内容確認表」から削除されますので、必ず点検・確認してください。

履修中止願い出期間

春学期：5月下旬

秋学期：11月上旬

授 業

1. 授業時間

大学の授業は、連続2時間（正味90分）を1時限として行います。授業の時間帯は下記のとおりです。

時 限	時 間 帯
第1時限	9：00～10：30
第2時限	10：45～12：15
第3時限	13：15～14：45
第4時限	15：00～16：30
第5時限	16：45～18：15

2. 出席の重要性

大学での授業は高校までとは異なり、出席の確認が行われないものがあります。しかし、それは決して出席が自由という意味ではなく、出席することは大学での学修の前提、すなわち当たり前と考えているからです。大学生活では、そのような主体的・自律的な姿勢が強く求められます。

また、授業は、教員と学生が直接人間のふれあいをおして学問を教え学ぶ場であり、学生生活の基本になるものです。したがって、授業への出席は重要であり、自主的な学問への探究心なくしてその成果を期待することはできません。なお、定められた理由により授業を欠席した場合は、公欠扱いとなります。

〔公欠扱い〕

- ① 教職課程の教育実習及び介護等体験のため欠席した場合
 - ただし、介護等体験は、7日を限度とする。
 - 教職課程教育センターに申し出て、指示に従い手続きをする。
- ② 博物館実習のため欠席した場合
 - 教学センターへ申し出て、指示に従い手続きをする。
- ③ 学校保健安全法施行規則に定める感染症罹患により欠席した場合
 - 教学センターへ申し出て、指示に従い手続きをする（診断書要）。
- ④ 学校保健安全法施行規則に定める感染症罹患の疑いにより医者（医療機関）から出校停止の指示を受けた場合
 - 教学センターへ申し出て、指示に従い手続きをする（診断書要）。
- ⑤ 裁判員制度により、裁判員候補者として呼出しを受けた場合、または裁判員に選任された場合
 - 教学センターへ申し出て、指示に従い手続きをする（公的証明書要）。

※学校保健安全法施行規則に定める感染症

第一種	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘瘡、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、ポリオ、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群（病原体がベータ SARS コロナウイルス属 SARS コロナウイルスであるものに限る。）、中東呼吸器症候群（病原体がベータ SARS（サーズ）コロナウイルス属 MERS コロナウイルスであるものに限る。）、特定鳥インフルエンザ（感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律に規定する特定鳥インフルエンザをいう。） ※上記の他、新型インフルエンザ等感染症、指定感染症及び新感染症。
第二種	インフルエンザ（特定鳥インフルエンザを除く。）、百日咳、麻疹、流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）、風疹、水痘（みずぼうそう）、咽頭結膜熱（プール熱）、結核、髄膜炎、菌性髄膜炎
第三種	コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎、その他の感染症

〔公欠の手続き〕

公欠扱いの手続きは、事前申請とします。

ただし、**感染症罹患による欠席の場合等やむを得ず事後申請となる場合は、出校可能となった日からその日を含めて7日以内（土・日・祝日を含む）を申請期間**とします。

申請期間を過ぎての受付はしませんので注意してください。

〔その他〕

- ①3ヵ月以上欠席しなければならない場合
 - 学部事務室へ申し出て、「休学願」を提出する。(学籍「休学」を参照)
- ②授業への出席
 - 原則として、授業回数の3分の2以上を出席しなければ、単位の認定が行われない。

3. 休講

特別な理由による臨時の全学休講および教員の都合による休講については、電子掲示板POSTにより伝達します。休講の掲載がなく、30分待っても授業が行われない場合は、教学センターで確認してください。

〔交通機関がストライキを実施した場合の授業〕

JR(米原～西明石)、京阪電気鉄道、阪急電鉄、近畿日本鉄道の各京都線および京都市バス、京都市営地下鉄のいずれかがストライキを実施した場合は、下記のとおり取り扱います。

- ①午前6時30分までに解除した場合は、平常どおり行います。
- ②午前6時30分までに解除せず、午前10時までに解除した場合は、午前中を休講とし、午後は平常どおり行います。
- ③午前10時までに解除しない場合は、終日休講となります。

上記以外の交通機関のストライキにより登校不能または遅刻した場合は、速やかに担当教員に直接届け出てください。

〔暴風警報等が発令された場合の授業〕

次表のいずれかの区域において暴風警報又は、特別警報が発令された場合は、下記のとおり取り扱います。

- ①午前6時30分までに解除した場合は、平常どおり行います。
- ②午前6時30分までに解除せず、午前10時までに解除した場合は、午前中を休講とし、午後は平常どおり行います。
- ③午前10時までに解除しない場合は、終日休講となります。
- ④午前10時以後に発令された場合は、発令時点に行われている次の授業から休講とします。

なお、他の地区に警報が発令されて登校不能等が生じた場合は、速やかに担当教員に直接届け出てください。

また、教学センター長の判断により、警報発令前に休講とする場合もあります。その場合の連絡は電子掲示板POSTあるいは、大学のホームページにて行います。

京都府南部における次の区域

- ①京都・亀岡：京都市、亀岡市、向日市、長岡京市、大山崎町
- ②山城中部：宇治市、城陽市、八幡市、京田辺市、久御山町、井手町、宇治田原町

4. 補講

休講となった授業は、補講が行われます。授業の進度を補う授業として補講を行う場合もあり、直接担当教員が指示するほか電子掲示板POSTにより伝達します。

5. オフィスアワー

オフィスアワーとは、あらかじめ設定された時間帯に教員が研究室等で待機し、学生からの質問や相談を受けやすくするための制度です。ただし、非常勤講師の場合は、授業前後の時間帯やメール等により質問を受け付けています。

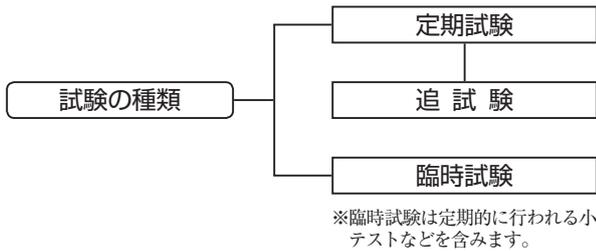
オフィスアワーでは、授業内容に関する質問や学修の進め方、今後の履修計画の相談の他、レポートや論文の書き方、就職や大学院進学等の進路に関する相談等、学生生活全般にわたって個人的な相談をすることができます。

予約は必要ありませんが、他の学生が訪問していることもありますので、確実にコンタクトしたい場合は、予約されるとよいでしょう。

各教員のオフィスアワーの時間・場所等は、POSTキャビネットにて公開されています。

試 験

1. 試験の種類



履修した授業科目については、試験が行われます。
試験の方法は、多くが筆記試験ですが、レポート試験、口頭
試問、実技試験、ノート提出等により行われる場合もあります。

2. 定期試験

一定の期間と時間割を定めて、春学期試験（春学期末）と秋学期試験（秋学期末）の2回実施されます。
試験の時間割は、通常の授業曜日、時限と異なることがあり、土曜日や日曜日に、試験が組まれることがあります。
また、試験時間帯は次のとおりです。時間帯は通常の授業時間と異なります。

時 限	時 間 帯
第1時限	9：30～10：30
第2時限	11：00～12：00
第3時限	13：00～14：00
第4時限	14：30～15：30
第5時限	16：00～17：00
第6時限	17：30～18：30

注：科目によっては、最長90分の試験時間となる場合もあります。

〔座席指定〕

試験には着席する位置が指定されている場合があります。

この場合は当該試験開始前に、教室の入口に学生証番号で着席位置が記された座席指定表が貼り出されますので、決められた位置に着席しなくてはなりません。

3. 追試験

追試験は「チャンスが2度ある」といった意味の制度ではありません。

規定の理由により定期試験を受験できなかった場合で、追試験期間中に受験が可能な場合、願い出の対象となります。

願い出後、許可となれば追試験の受験資格が与えられますが、許可されたからといってご自身に追試験を受験するかしないかの決定権が与えられたわけではありません。追試験が許可された方のためだけに特別に試験の機会を用意するもので、自分の都合で受験しないということは認められません。十分注意してください。不明な場合は必ず、教学センターに連絡・相談し、指示を仰いでください。

(1)定期試験を次の理由により受験できなかった場合、願い出て許可になれば追試験を受験することができます。

- ①教育実習および介護等体験（教職課程教育センターの証明書要。「授業」参照）
- ②博物館実習（教学センターの証明書要）
- ③卒業後の進路に関する試験（就職活動の場合は、あらかじめ進路・就職支援センターの指導を受け、所定の手続きが必要）
- ④裁判員候補者として呼出しを受けた場合または裁判員に選任された場合（公的証明書要）
- ⑤自己の責めによらない不慮の事故又は災害（公的証明書要）
- ⑥一親等・二親等の親族の死亡又は葬儀（公的証明書又は葬儀日程のわかるものが必要。原則2日間）
- ⑦病気又は負傷（診断書要）

※加療期間等の記載内容から**当日受験できないことが読みとれる診断書**に限る。

〈診断書〉

「体の調子が悪くてずっと家で寝ていた」では第三者に対して証明することができません。

公的な証明を必要としますので、必ず当日中に医療機関で診察を受け診断書を取得しておいてください。

- ⑧交通機関の遅延（交通機関の遅延証明書要）
- ⑨その他、本学が特にやむを得ないと認めた場合（教学センターの指定する証明書が必要）
- (2)臨時試験、レポート試験および体育教育科目の実習は、追試験の対象にはなりません。
- (3)追試験を受ける場合は、1科目につき1,000円の追試験料が必要です。ただし、教育実習、介護等体験、博物館実習、裁判員候補者として呼出しを受けた場合または裁判員に選任された場合、及びその他本学が特にやむを得ないと認めた場合は、追試験料を免除します。
- (4)受験手続は、**教学センターで交付する「追試験願」に所定事項を記入し、追試験料(1,000円×受験科目数) 額面分の証紙を貼付し、当該科目の試験実施日を含めて3日以内(土・日・祝日を含む)に教学センターに提出してください。金曜日試験については、土曜日の窓口取扱い時間までとなります。また、暦によっては試験当日の窓口取扱い時間までとなる場合もありますので注意してください。**
- (5)追試験を受験できなかった場合、再度の追試験は行いません。また、追試験を願い出ながら自分の都合で受験しない場合は以後追試験の願い出を受理しないことがあります。
- (6)春学期追試験は8月、秋学期追試験は2月に行います。

4. 臨時試験

授業科目によっては、平常授業時に臨時の試験が行われ、成績に加味されます。
追試験の対象にはなりません。

5. 試験に関する注意事項

〔試験に関する伝達〕

定期試験に関する伝達は、電子掲示板POSTにより行います。ただし、臨時試験については、授業担当者から直接口頭で伝達される場合もあります。

実施する授業科目および時間割は、試験期間開始の10日前頃に電子掲示板POSTにて発表します。

なお、発表後も変更になる場合がありますので、注意してください。

電子掲示板POSTでの試験情報の確認方法については、本冊子(a-2ページ)を参照してください。

※追試験については、別途、願い出許可者に指示します。

〔筆記試験〕

(1)受験の心得

受験に際しては次の点を遵守しなければなりません。

- ①試験開始10分前には前列から詰めて着席し、静粛を保たなければならない。
ただし、座席指定の場合は、指示に従って着席しなければならない。
- ②筆箱および下敷きは試験開始前にかたづけなければならない。クリアケースのカバンを持っている学生は、中身が見えないよう、椅子の下に置かななければならない。
- ③通信機能の有無に係わらず情報端末(スマートフォン・スマートウォッチ・携帯電話・タブレット・携帯音楽プレーヤーなど)を時計として使用することは認めない。また、これらは試験教室内では電源を切りカバンの中にかたづけなければならない。もしも試験中に着信音(マナーモード含む)等が鳴った場合は、勝手に自分で触れず、手を挙げて監督者の指示に従わなければならない。
※上記について、監督者の指示に従わず勝手に手を触れた場合、不正行為とみなすので、注意すること。
- ④受験中は、机上に学生証を提示しなければならない。〔学生証(a-3ページ)参照〕
学生証再発行中に使用する仮カード(顔写真なし)は学生証ではない。
写真による本人確認が行えないもの・顔写真が不鮮明なものも無効である。
- ⑤指定された日時および試験場で受験しなければならない。
- ⑥解答用紙最下段の氏名欄等は、黒・濃紺色のペン又はボールペンで記入しなければならない。
- ⑦問題および解答用紙は必ず提出しなければならない。
- ⑧試験開始後40分経過するまでは退場できない。

※原則として40分経過するまでの退場は認められないが、体調不良等の理由により、退場を認めることがある。手を挙げて監督者の指示に従うこと。

ただし、40分経過後に退場する場合は、再入場は認められないため、問題および解答用紙を提出の上退場すること。

- ⑨問題および解答用紙の提出は監督者の指示に従い、すべてのものを持って、監督者が指定する出口から退場しなければならぬ。

(2)受験中の禁止事項

- ①許可なく物品・教科書・ノート類を貸借したとき。
- ②他人の答案をのぞき見て写したとき、および写させたとき。
- ③私語を行ったとき。
- ④持込許可物以外の持込みおよび参照（カンニングペーパー等）したとき。
- ⑤本人との替え玉受験を行ったとき。
- ⑥机上等への書込みを行ったとき。
- ⑦解答用紙を持ち帰ったとき。
- ⑧不正な態度および監督者の指示に従わないとき。

禁止事項に反した者は不正行為とみなし、即時受験停止および当該科目の無効を命じられ、さらに、学則50条により退学、停学等の懲戒を受けます。

(3)次の場合は、失格または無効となります。

- ①『受験中の禁止事項』に反した場合
- ②履修登録をしていない科目を受験した場合
- ③試験開始後10分以上遅刻した場合
- ④休学または停学中に受験した場合
- ⑤試験において不正行為のあった場合

〔レポート試験〕

定期試験・臨時試験を問わず、レポート試験を実施する授業科目があります。レポート提出が課された場合はテーマ・様式・提出期限・提出先等を確認し、指定どおりに提出しなければなりません。

提出方法：本学指定の用紙・表紙を使用し、本人が教学センターのレポート提出用BOXに投函してください。

また、必ずレポートを完成させた状態で提出してください。

※用紙については、教員の指示により、この限りではありません。

期限（時間）に遅れた場合は失格となります。

提出後のレポート差替え、変更、内容加筆訂正等は認めません。十分注意してください。

6. 受験に際してのアドバイス

例年よくある誤りについて例をあげて説明します。いずれも大事なことです。必ず認識しておいてください。

持込許可物での「自筆ノート」の解釈

“自筆ノート”とは、他人のノートをコピーしたもの・コピーを貼り付けたノート・『講義ノート』と称して売っている類のものではありません。“自筆ノート”とは自分で書いたノートのことです。

自分で書いたノート以外のノートの持ち込みは不正行為とみなし、処分の対象となりますので注意してください。

※パソコンなどで作成されたものも認められません。

持込許可物での「六法（判例の付いていないもの）」の解釈

六法全書は出版社によって判例の付いているものがあります。

条文のあと等に判例が書かれていないか、もう一度自分の六法を確認しておいてください。

「判例が付いていることを知らなかった」「判例が付いていても私は見ない」は通用しません。

レポート試験、筆記試験の両方を課される科目もあります

試験方法は一種類のみとは必ずしも限りません。なかには複数の試験が課される場合もあります。

「この科目はレポート試験だから、他は無いだらう」と安心せずに、必ず自分が履修登録している科目すべてについて確認してください。

学業成績

1. 評価と点数

成績は、100点満点の60点以上を合格とし、授業が終了する当該学期末に科目所定の単位が与えられます。なお、その評価と点数の関係は、右記のとおりです。

一度修得した単位を取消すことはできません。

2017 (平成29) 年度入学者

	評 価	点 数
合 格	秀	100点 ~ 90点
	優	89点 ~ 80点
	良	79点 ~ 70点
	可	69点 ~ 60点
不 合 格	※	59点以下
	K	試験欠席・棄権
	/	出席日数不足

*履修を中止した科目は、「W」と表示されます。

*認定単位は、「N」と表示されます。

〔GPAによる成績評価〕

GPAとは、Grade Point Average (成績加重平均値) のことで、各科目の評点 (100点満点) をグレードポイントに換算しなおし、その合計を科目の総単位数で割り、1単位のグレードポイントの平均値を算出するものです。

高校まではすべての学生が同じ教科・科目を履修しますから、単純に成績を比較できました。ところが大学においては、学部・学科の専門教育科目や共通教育科目、教職科目など、個々の学生の所属や目標に応じて、履修する科目を選択する自由度が高く、異なる科目を修得した様々な学生を単純に比較することができません。多様な学習環境を持つ大学では「学ぶ量」だけではなく「学ぶ質」を端的に評価できる指標が必要であり、GPAはそれを提供する方法です。専門性や修学目標からくる履修状況の違いを吸収し、公平さを与えながら学業成績評価の指標として使われるものであるといえます。

GPAの算出にあたっては、合格科目だけではなく不合格科目も対象となりますので、真剣な履修登録、授業への取り組み姿勢の向上につながることを期待されています。また、5段階の成績評価をもとにGPAを算出し可視化することで、学修の到達度をより明確に示し、学生が自分自身の学修への努力の成果を把握しやすくすることも狙いとしています。

※GPAは、履修登録したすべての科目を対象に算出しますが、履修を中止した科目および認定科目、卒業要件対象外の教職科目および自由 (随意) 科目は、算出対象から除きます。

※GPAは、単位互換科目 (大学コンソーシアム京都など) の出願条件、在学留学や奨学金の選考、演習の選考等幅広い分野で活用されます。

評 点	グレードポイント
100~90点	4
89~80点	3
79~70点	2
69~60点	1
59点以下	0
欠席または棄権 および出席日数不足	

$$GPA = \frac{(\text{科目のグレードポイント} \times \text{単位数}) \text{ の和}}{\text{科目の単位数の和}}$$

例えば、	コンピュータ基礎実習	(2単位) 95点	4ポイント
	歴史と人間	(2単位) 88点	3ポイント
	○○学講義	(4単位) 92点	4ポイント
	英語初級文法挑戦	(1単位) 75点	2ポイント
	○○●概論	(2単位) 65点	1ポイント
	△●◎特論	(2単位) 欠席	0ポイント
	単位互換科目	(2単位) 認定	ポイント対象外
	高等学校教育実習	(3単位) 82点	ポイント対象外

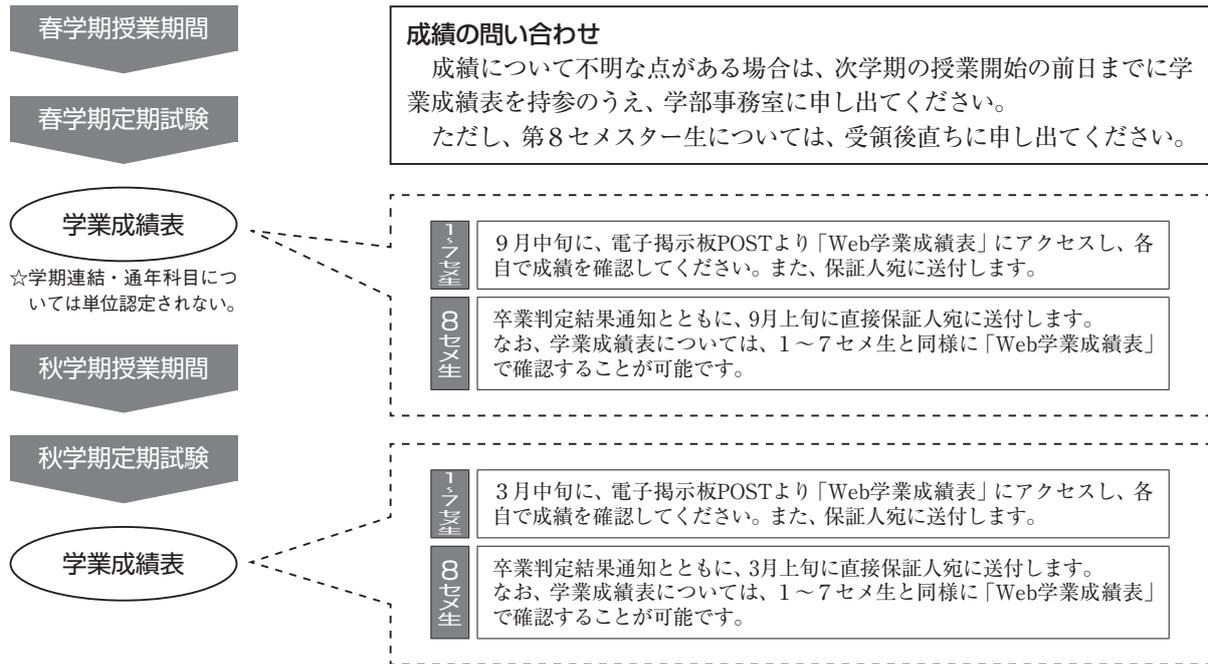
の評価を得た場合、GPAは次のように計算します。

$$GPA = \frac{(4 \times 2) + (3 \times 2) + (4 \times 4) + (2 \times 1) + (1 \times 2) + (0 \times 2)}{(4 \times 1) + (2 \times 4) + (1 \times 1)} = \frac{34}{13} \approx 2.61$$

最高点は4.00です。

学期ごとのGPAと在籍期間中の通算GPAを学業成績表に記載します。

2. 成績発表



〔成績証明書〕

成績証明書には、合格した授業科目の秀・優・良・可・N（認定）の評価のみを記載し、不合格になった科目および履修を中止した科目は記載されません。

また、GPAも記載されません。

卒業

1. 卒業要件

本学部に4年以上在学し、学部が定める教育課程により学修し、科目区分毎に定められた必要単位数を含め124単位以上を修得しなければなりません。

科目区分毎に定められる必要単位数は入学年度毎に定められています。

入学年度毎の必要単位数は各年度毎の「履修規定」を確認してください。

休学の期間は在籍していても在学期間には含めません。

卒業判定は、第8セメスター生に対して行われます。

2. 卒業時期

卒業の時期は、秋学期末(3月)または春学期末(9月)です。

秋学期末(3月)：秋学期終了時において卒業要件を充足した場合、卒業とします。

卒業判定結果については、3月上旬に保証人宛に通知します。

春学期末(9月)：春学期終了時において卒業要件を充足した場合、卒業とします。

卒業判定結果については、9月上旬に保証人宛に通知します。

3. 卒業の延期

春学期で卒業要件を充足した場合で、諸般の事情により秋学期末(3月)まで卒業の延期を願い出た場合は、これを認めます。ただし、秋学期の学費を納め履修登録を行うこととし、秋学期休学は認めません。

卒業の延期を希望する人は、指定された期日までに所定の願書を教学センターまで提出して許可を得なければなりません。

秋学期末(3月)卒業者の春学期末(9月)卒業延期はありません。

4. 卒業見込証明書の発行(7・8セメスター生)

【7セメスター生発行基準(春学期のみ)】

「在学期間」「卒業要件として定める専門教育科目、共通教育科目および融合教育科目」について、以下のすべての条件を満たした場合、申請により発行します。

- ・在学期間が3年(6セメスター)を超えていること。
- ・専門教育科目、共通教育科目および融合教育科目を含めて82単位以上修得していること。
- ・専門教育科目を40単位以上修得していること。
- ・春学期履修登録可能単位数と秋学期履修登録可能単位数とを合わせて卒業要件単位数を充足することが可能であること。

【8セメスター生発行基準(春学期・秋学期共通)】

「在学期間」「卒業要件として定める専門教育科目、共通教育科目および融合教育科目」について、以下のすべての条件を満たした場合、申請により発行します。

- ・在学期間が3.5年(7セメスター)を超えていること。
- ・専門教育科目、共通教育科目および融合教育科目を含めて100単位以上修得していること。
- ・専門教育科目を60単位以上修得していること。
- ・当該学期の履修登録により卒業要件単位数を充足することが可能であること。

〈発行時期〉

卒業見込証明書は履修登録することを前提に発行します。

したがって春学期、秋学期ともに必ず履修登録してください。

詳細な日程については電子掲示板POSTで確認してください。

学 籍

学 籍

1. 学籍上の氏名と身上変更等

〔学籍上の氏名〕

学籍上の氏名は、入学手続き時に本人が届け出たもの（戸籍に記載されている氏名、外国籍の学生は在留カードに記載されている本名または通名）とします。

したがって、本学が交付する各種証明書等は、これに基づいて取扱いますので、学籍上の氏名を無断で改めたり通名を用いることはできません。

〔身上変更・住所変更・保証人変更〕

身上等下記の事項に変更が生じたときは、所定用紙（教学センターまたは学部事務室備付）により教学センターまたは学部事務室に届け出てください。

なお、学生証記載事項に変更が生じる場合は、無料で学生証を再交付します。新しい学生証は、旧学生証と交換に交付しますので、後日教学センターに受け取りにきてください。

変 更 事 由	提 出 書 類	提 出 先
本人の氏名等に変更があったとき	身上変更届 根拠書類写し※① 証明写真※②	学部事務室
本人または保証人の住所等に変更があったとき	住所等変更届	教学センター
保証人（保護者）に変更があったとき	保証人変更届	
保証人（保護者）の氏名等に変更があったとき		

※①新しい氏名が確認できる公的な根拠書類（運転免許証、健康保険証、パスポート等）の写しが必要です。

※②新しい氏名の学生証を作成するため、証明写真（カラー、縦4cm×横3cm、上半身、無帽、正面向き、3ヵ月以内に撮影したもの）が必要です。

2. 修業年限・在学期間

〔修業年限〕

修業年限とは、本学の教育課程を修了するために必要な在学期間をいいます。

本学では4年です。

ただし、編・転入学した人の修業年限は次のとおりです。

	修 業 年 限
第2年次に編・転入学した人	3年
第3年次に編・転入学した人	2年

〔在学期間〕

在学期間は、8年を超えることはできません。

休学中の期間は在学期間に含めません。

ただし、編・転入学、再入学、復籍、転学部及び転学科した人の在学期間は次のとおりです。

	在 学 期 間
第2年次に編・転入学した人	7年
第3年次に編・転入学した人	6年
再 入 学 し た 人	離籍前の在学期間と通算して8年
復 籍 し た 人	離籍前の在学期間と通算して8年
転 学 部 し た 人	転学部する前の在学期間と通算して8年
転 学 科 し た 人	転学科する前の在学期間と通算して8年

注意！ 休学した学期、退学および除籍となった学期は、在学期間に算入することはできません。ただし、遡及措置等により学期末日が退学および除籍の日となる学期は、在学期間に算入します。

3. 休学

病気その他やむを得ない理由により3ヶ月以上修学できない場合は、学部事務室に「休学願」を提出し許可を得なければなりません。ただし、病気による休学の場合は医師の「診断書」を、海外渡航による休学の場合は「渡航計画書」「留学生住所届」を添付してください。

休学できる期間は連続して2年以内、通算して4年以内です。

〔休学期間および休学中の学費〕

1年間または1学期間の全期間を休学する場合は次のとおりです。

休学期間	休学願提出期限	休学中の学費
1年間(4/1~3/31)	4/30	所定の在籍料 ※春学期・秋学期2期に分けて納入のこと。
春学期(4/1~春学期終了日)	4/30	所定の在籍料
秋学期(秋学期始業日~3/31)	10/31	所定の在籍料

注意！ 休学を願い出る前に、学費(授業料、実験実習費及び教育充実費)を納入している場合は、当該学期の学費(授業料、実験実習費及び教育充実費)は返還します。ただし、休学願提出期限までに休学を願い出た場合に限ります。なお、休学に必要な学費(在籍料)は納入しなければなりません。

〔休学期間終了直前の手続き〕

休学期間終了直前(春学期は7月下旬、秋学期は1月下旬)に、休学期間後の修学について、本人および保証人宛に「修学意志確認」の書類を送付します。同封書類に従い、所定の期日までに手続きを行ってください。

〔連続して休学する場合〕

休学期間終了後も引き続き休学を願い出る場合は、再度「休学願」を提出し許可を得なければなりません。修学意志確認書類に同封の「休学願」を、所定の期日までに学部事務室に提出してください。

注意！ 連続して休学する場合の「所定期日」は、復学願提出期限日となります。

学籍に関する規程第11条参照

4. 復学

休学者が復学しようとする場合は、学部事務室に「復学願」を提出し許可を得なければなりません。ただし、病気により休学していた場合は、復学しても支障ない旨の医師の「診断書」を添付してください。

復学を希望する学期	手続期間
春学期	2/1~2月末日
秋学期	8/1~8/31

学籍に関する規程第12条参照

5. 除籍

次のような場合は、除籍します。

- ① 所定の納入期日までに学費を納入しない場合
- ② 休学期間終了までに復学、休学延長、退学のいずれの手続きもとらなかった場合
- ③ 留学期間終了までに帰国、休学、退学のいずれの手続きもとらなかった場合
- ④ 休学期間が4年を超えてなお、復学または退学しない場合
- ⑤ 在学期間が8年を超える場合
- ⑥ 正当な理由がなく所定の手続きを怠り、修学意志がない場合

なお、除籍された人は学生証を直ちに返還してください。

〔除籍日〕

事由	除籍日
春学期学費未納者	前年度 3月31日付 ※ただし、学費分割延納者が1回目を納入して2回目を納入しなかった場合は、5月31日付
秋学期学費未納者	前春学期末日付 ※ただし、学費分割延納者が1回目を納入して2回目を納入しなかった場合は、11月30日付
上記事由②③④⑤	事由が該当する学期の満了日付(学期末日)
上記事由⑥	事由が該当する学期の前学期末日付

学籍に関する規程第14条参照

6. 復籍

除籍となった人は、除籍された日の属する学期を含めて一年以内に限り、復籍を願い出ることができます。

【復籍手続き】

除籍となった人が復籍しようとする場合は、除籍された日の属する学期を含めた一年以内の所定の手続期間に、「復籍願」を保証人連署のうえ、学部事務室に提出してください。

復籍手数料として3,000円が必要です。(所定の振込用紙による郵便振込)

復籍を希望する学期	手続期間
春学期	2/1～2月末日
秋学期	8/1～8/31

注意！ 復籍を許可された人は、所定の日までに入学金以外の学費を納入しなければなりません。所定の日までに学費を納入しない場合は、復籍を取り消します。

※復籍を許可された人には、学生証を教学センターで再交付します。

学籍に関する規程第15条参照

7. 退学

病気その他やむを得ない理由により退学しようとする人は、「退学願」を保証人連署のうえ、学生証を添えて学部事務室に提出し、許可を得なければなりません。

なお、当該学期履修科目の単位修得を希望する人は、当該学期末日付で退学願を提出しなければなりません。

学籍に関する規程第16条参照

8. 再入学

以下のいずれかに該当する人が、離籍した学期を含め3年以内に同一学部学科に再入学を希望する場合、選考のうえ許可することがあります。

ただし、再入学しても残りの在学期間で卒業見込みがない人は、再入学を願い出ることはできません。

- ①退学した人
- ②除籍となった人(除籍事由④および⑤の該当者は除く。)
- ③復籍願出期間内に復籍の手続をしなかった人

希望者は「再入学願」を保証人連署のうえ、「再入学志願票」、「健康診断書」とともに学部事務室に提出してください。

再入学手数料として35,000円が必要です。(所定の振込用紙による郵便振込)

再入学を希望する学期	手続期間
春学期	2/1～2月末日
秋学期	8/1～8/31

注意！ 再入学を許可された人は、所定の日までに入学金と学費を納入し、入学手続書類を学部事務室に提出しなければなりません。所定の日までに入学手続を行わない場合は、再入学を取り消します。

なお、入学金の額は最初に入学した年度の入学金と同額とします。

※再入学を許可された人には、学生証を教学センターで再交付します。

学籍に関する規程第17条参照

※外国人留学生は、復籍・再入学時点で適切な在留資格を保持している必要があります。在留資格を取得するためのビザ申請は時間を要するため、願出と同時にビザ申請に必要な手続きを必ず確認し、手続きを進めておいてください。その際、申請から交付までの期間は各入国管理局や各国在外公館によって異なりますので、申請先にお問い合わせください。

9. 留学

ここでいう「留学」とは、本学の許可を得て、学籍が**在学の状態**で外国の大学において学修することをいい、休学による留学は該当しません。

出願資格および出願手続の詳細については、在学留学のページを参照してください。

在学留学は、次の3種類です。

- ①本学と交流協定のある大学の学部へ交換留学する場合（**交換留学**）
- ②本学と交流協定のある大学の学部または大学付設の語学プログラムへ派遣留学する場合（**派遣留学**）
- ③修学の必要から、学生自身が留学先大学を選定し、学生の申請に基づき本学が留学先として認めた場合（**認定留学**）

【留学期間】

留学期間は半年または1年です。

始期 4月1日 または 秋学期始業日 終期 3月31日 または 春学期終了日

なお、留学先大学の事情により、これらの日付の前後に出国または帰国した場合でも、いずれかの日付に読み替えるものとします。

留学期間は、修業年限および在学年数に算入されます。

1年を超えて引き続き留学する場合、その期間は休学扱いとなりますので、「休学願」および「渡航計画書」、「留学者住所届」を学部事務室に提出して許可を得なければなりません。

【留学の届出】

留学のため出国するときは、所定の「留学届」を学部事務室に提出してください。

【留学期間中の学費】

在学留学のため、留学期間中の学費は規定どおり全額納入しなければなりません。ただし、外国留学支援金を学費の一部に充当することができます。

【留学許可の取消】

次のいずれかに該当する人は、留学の許可を取り消すことがあります。また、留学が取り消された場合は、外国留学支援金は返還しなければなりません。

- ①学生査証が認められない場合
- ②本学または留学先大学の学則およびこれに係わる取扱規定に違反した場合
- ③修学の成果があがらないと認められた場合
- ④病気その他やむを得ない事由により留学を続けることができない場合

【継続履修】

秋学期から翌年度の春学期まで1年間の留学期間の場合、留学前の春学期に履修している学期連結科目および通年科目を帰国後の秋学期に継続して履修することができます。ただし、継続履修を希望する場合は、留学前に学部事務室に「継続履修願」を提出し、承認を得なければなりません。

【帰国後の手続き】

留学を終了して帰国した人は、電子掲示板POSTより「帰学届」および「留学報告書」を打ち出し、「帰学届」は学部事務室に、「留学報告書」は国際交流センター事務室に提出してください。

【単位の認定】

留学先の大学等で修得した単位のうち、適当と認められるものは、60単位を限度として、各学部の定めるところにより本学の卒業に必要な単位として認定を受けることができます。

10. 転学部

本学の他学部にて転学部を志望する人は、欠員のある場合に限り、選考のうえ許可することがあります。

〔出願資格〕

第1年次終了時または第2年次終了時の人となります。

転学部の資格条件の細部については、各学部毎に定められていますので、出願する前に必ず教学センターまでお問い合わせください。

〔出願手続き〕

「転学部願」(教学センター備付)に必要な事項を記入し、保証人連署のうえ、1月31日までに教学センターに提出してください。

転学部手数料として5,000円が必要です(所定の振込用紙による郵便振込)。

〔転学部の時期〕

転学部の時期は学年始めとし、年度途中の転学部はできません。

転学部時の在学セメスターは、履修状況その他を考慮して決定します。

〔学生証〕

転学部を許可された人には、現学生証と引換えに学部名を変更した新しい学生証を教学センターで再交付します。

11. 転学科

本学の同一学部内での転学科を志望する人は、欠員のある場合に限り、選考のうえ許可することがあります。

なお、経済学部、コンピュータ理工学部については、転学科の制度はありません。

〔出願資格〕

第1年次終了時または第2年次終了時の人となります。

なお、転学科の資格条件の細部については、各学部毎に定められていますので、出願する前に必ず教学センターまでお問い合わせください。

なお、外国語学部内で英語学科および国際関係学科へ転学科を希望する場合、TOEICのスコアが500点以上、または、TOEFLのスコアがIBT52点(CBT150点、PBT470点)以上の成績をおさめていない人は出願資格がありません。

〔出願手続き〕

「転学科願」(教学センター備付)に必要な事項を記入し、保証人連署のうえ、1月31日までに教学センターに提出してください。

転学科手数料として5,000円が必要です。(所定の振込用紙による郵便振込)

〔転学科の時期〕

転学科の時期は学年始めとし、年度途中の転学科はできません。

転学科時の在学セメスターは、履修状況その他を考慮して決定します。

12. 春学期末(9月末)卒業

春学期終了時において、卒業要件(4年以上在学し、所定の単位を修得すること)を充足した場合は、春学期末(9月末)卒業とします。

〔卒業の延期〕

- ①春学期で卒業要件を充足した人が、諸般の事情により秋学期末(3月末)まで卒業の延期を願い出た場合は、これを認めます。ただし、秋学期の履修登録をすることとし、秋学期休学は認めません。
- ②卒業の延期を希望する人は、指定された期日までに所定の願書を教学センターまで提出して許可を得なければなりません。
- ③卒業の延期が許可された人は、秋学期分の学費を納入してください。所定の期日までに学費が納入されない場合は、卒業延期の許可を取り消し、春学期末卒業とします。

13. 学費

【納入期間】

学費の納入は春学期と秋学期の2期に分けて学費振込用紙を保証人宛に送付しますので、それぞれ定められた期日までに納入してください。

春学期学費納入期日 4月30日

秋学期学費納入期日 10月31日

【納入方法】

必ず本学指定の「学費振込用紙」を使い、電信扱いが利用できる金融機関（ゆうちょ銀行を除く）から送金してください。文書扱い、現金書留および大学への持参は受け付けません。

【納入金額】

学費の納入金額については、「学則」（c-3ページ～c-9ページ）に掲載しています。

【学費延納・分割延納制度】

学費の納入が期日（春学期：4月30日 秋学期：10月31日）までに困難な場合は、学費の延納・分割延納を願い出ることができます。

ただし、復籍および再入学を許可された方については、申請が認められません。

また、本学の奨学金制度の利用者含め、学費の減免を受けている学生は、分割延納の申請は行えません（延納のみ申請できます）。

		春学期	秋学期
願出期間		4月1日～4月30日	10月1日～10月31日
納入 期日	延 納	5月31日	11月30日
	分割延納	1回目 5月31日	1回目 11月30日
		2回目 7月 5日	2回目 12月25日

申請方法等の具体的な手続き方法については、願出期間に別途ホームページ及びPOSTにてお知らせします。

14. 願出期日と納入期日

願出期日が休日（日・祝日）にあたる場合は、その翌日をもって願出期日とします。

学費の納入期日が金融機関の休業日（土・日・祝日）にあたる場合は、その翌営業日をもって納入期日とします。

单位互换制度

単位互換制度

1. 単位互換制度とは

単位互換制度は、大学および短期大学が相互に単位互換協定を締結し、これらの大学に所属する学生が他大学の講義を受講し取得した単位をその学生が所属する大学の単位として認定できる制度です。

下記の要領で受講希望者を募集します。詳細については募集ガイダンスで説明しますので、希望者は必ず出席してください。

すべての科目に受講定員が設定されていますので、希望しても受講が認められない場合もあります。

また、出願に際しては通学時間などを十分考慮して履修が可能かどうか計画を立てるようにしてください。

2. ガイダンス日程等 ※履修要項別冊ガイドで日程を確認!!

〔募集ガイダンス〕

履修ガイダンス期間に実施予定（春学期のみ）

〔受講出願期間〕

4月上旬

※大学コンソーシアム京都科目において、定員を満たしていない科目については9月に追加募集を予定しています。

〔出願票提出先〕

10号館1階 教学センター

3. 出願資格

次の条件を全て満たしている人。

- ・全学部2年次以上で通算または直近のGPAが1.0以上の人。
- ・修学意志が強く、履修許可になった場合、最後まで出席することが可能な人。

4. 登録の概要

履 修	年間4単位まで出願可能。学部で定めている本学科目の履修登録上限単位数には含まれません。
単位認定	合格した科目は他大学で実際に履修した科目の開講期間にかかわらず、すべて通年科目として当該年度末に認定されます。したがって、1年間に籍しない場合、単位認定されませんので注意してください。認定された単位は共通教育科目として卒業に必要な単位に算入し、科目名はすべて「単位互換科目」の科目名で認定を意味する「N」を本学の学業成績表および成績証明書に表記します。

5. 登録上の注意事項

次のような場合、登録はできません。

- ①重複登録（本学で履修登録した科目と同一曜日時間帯に登録）

※他大学の集中形式の科目が、本学の科目と1日でも重複する場合も含まれます。

- ②移動時間から受講が困難であると考えられる時間帯での登録

例：同一曜日に連続した時間帯で別々の大学の科目に登録

特に、時限が異なる場合でも、本学の授業時間帯と他大学の授業時間帯は異なる可能性があることを留意してください。

なお、重複登録した場合、本学履修科目を削除し、単位互換科目の履修が優先されます。

ただし、秋学期の履修登録時に、やむを得ない事情で本学履修科目と単位互換科目の授業が重複する場合は、履修登録

期間内に教学センターまで相談に来てください。

③教学センターからの確認に応じない場合

教学センターから内容の確認を行う場合があります。電子掲示板POSTの伝言または教学センターからの電話により連絡しますので、対応できるようにしておいてください。なお、確認に応じない場合には申請及び登録を許可しません。

教育課程

履修方法

英語学科

英語専攻 イングリッシュ・キャリア専攻

所属専攻の決定について

英語学科には、2つの専攻「英語専攻」「イングリッシュ・キャリア専攻」があります。

1年次春学期は全員、英語専攻に所属しますが、1年次秋学期から、それぞれの専攻に分かれて、専門教育科目を履修することになります。

専攻の分属は、希望調査を行い、本人の希望理由や1年次春学期の履修状況、英語力などを参考にして総合的に評価し決定します。したがって、必ずしも希望どおりにならない場合もあります。

卒業要件は、英語専攻、イングリッシュ・キャリア専攻とも同じです。ただし、イングリッシュ・キャリア専攻で別に定める修了要件を満たした場合は、卒業時に修了証書を発行します。

履修規定

1. 卒業に必要な最低修得単位数

卒業するためには、4年以上在学し、次の科目区分に従って、124単位以上修得しなければなりません。

科目区分			最低修得単位数		
共通教育科目	人間科学教育科目	選択必修	社会科学、自然科学(注1)	8単位以上	21単位以上
		選択			
	言語教育科目	選択必修	(注2)	8単位	
		選択			
体育教育科目	選択				
	キャリア形成支援教育科目	選択必修		2単位以上	
		選択			
	融合教育科目	選択	(注3)		
専門教育科目	専攻科目	必修	インテンシブ英語	20単位	80単位以上
			イングリッシュスタディーズ入門	4単位	
			情報英語	2単位	
			国際関係科目(注4)	2単位	
			基礎演習、英語基礎演習	4単位	
		選択必修	英語基幹科目	18単位以上	
			英語海外実習、英語専門セミナー	8単位以上	
			特別英語(注5)	4単位以上	
		選択	英語研究演習	4単位以上	
			選択		
	関連科目	選択	教科教育法科目 他学科・専攻専門教育科目		

(注1) 社会科学領域および自然科学領域から、8単位以上を修得しなければならない。詳細は、b-5ページを参照。

(注2) 英語以外の外国語から1言語を選択し8単位、もしくは2言語を選択し、4単位ずつ8単位を修得しなければならない。詳細は、b-6～8ページを参照。

(注3) 融合教育科目には、外国語学部履修可とする他学部専門教育科目を算入することができる。

(注4) 「国際関係論Ⅰ」(2単位)を修得しなければならない。

(注5) 1単位科目を2科目以上修得しなければならない。

2. 各セメスターの履修登録上限単位数

各セメスターの履修登録上限単位数は下表のとおりです。

セメスター	第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター
単位数	24	24	24	24	24	24	24	24

ただし、次の科目は上記の単位数には含まれません。

- ①卒業要件とならない自由(随意)科目
- ②単位互換科目(大学コンソーシアム京都科目等)
- ③共通教育科目
インターンシップ、O/OCF-PBL、「キャリア・Re-デザイン」、「スタートアップ・インターンシップ」、「企業人と学生のハイブリッド」、「就業力総合実習」、「熊本・山鹿フィールド」
- ④共通教育科目〈教育・教職科目群〉における教職課程登録者のみ履修可とする科目
- ⑤海外語学実習
- ⑥外国語学部専門教育科目
「〇〇海外実習」(〇〇には、英語・ドイツ語・フランス語・スペイン語・イタリア語・ロシア語・中国語・韓国語・インドネシア語が入る)、集中講義形態で開講する特別英語科目
- ⑦経済学部専門教育科目「国際経済研修」
- ⑧法学部専門教育科目
「司法における外国語の役割」、「人事・労務インターンシップ」、「知的財産実習」、「地域多文化共生実習」
- ⑨文化学部専門教育科目「国際文化研修」

共通教育科目

京都産業大学では、教学の理念に掲げる「自らを厳しく律しつつ、創造力に富み、社会的な義務を怠ることなく、国内外を問わず活躍できる人材」の育成のために、学生が自らの専門分野を深く学ぶだけでなく、幅広い教養を身につけることのできるよう、「人間科学教育科目」「言語教育科目」「体育教育科目」「キャリア形成支援教育科目」の区分を設けて、すべての学生に開講しています。

入学年度ごとに定められている履修規定を十分に把握したうえで履修してください。

1. 人間科学教育科目

人間科学教育科目は、「人文科学」「社会科学」「自然科学」「総合」の4つの領域にわかれます。

このうち、「総合」以外の3領域は、「基本科目」と「展開科目」から構成されています。自らの専門以外の学問分野を学ぶにあたって、まず基本科目でその学問分野の大まかな全体像を得て基本的な考え方をつかみ、そこで興味を感じた内容を展開科目でさらに深く学ぶことで、体系的に学習できるよう工夫しています。

(1) 各領域の特徴

【人文科学領域】

この領域は、古今東西の人類の文化を対象とします。これには、「哲学」「心理学」「歴史学」「文学・芸術学」といった分野が含まれます。この領域の科目は、文化の多様性を認識し、柔軟に思考できるようになることを目的としています。

【社会科学領域】

この領域は、意見や利害が多種多様で、価値観の異なる人々が構成する社会とそのような社会で生じる諸現象とを対象とします。これには、「経済学」「経営学」「法学・政治学」「社会学」といった分野が含まれます。この領域の科目は、多種多様な人々の共存や協力を図るしくみを理解することを目的としています。

【自然科学領域】

この領域は、ミクロ(素粒子)からマクロ(宇宙)までの様々なスケールの自然現象を対象とします。これには、京都産業大学の特色といえる「天文・物理科学」「生命・環境科学」「情報科学」それに、自然科学の基盤である「数学」といった分野が含まれます。この領域の科目は、自然法則や生命の営みへの見方を養うことを目的としています。

【総合領域】

この領域は、次の科目群に区分されます。

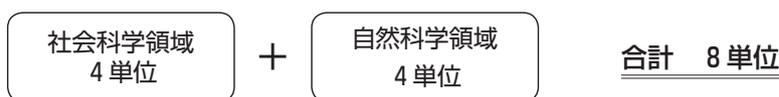
- ・ K S U 科目群：本学の特色ある科目と本学で学ぶための基礎となる科目
- ・ 教育・教職科目群：教員免許取得などに関わる科目
- ・ 人権科目群：人権に関わる諸問題や歴史などを学ぶ科目
- ・ 情報科目群：情報に関する科目

(2) 履修方法について

社会科学領域および自然科学領域から8単位以上修得しなければなりません。その履修方法は、以下の①～②のパターンとなります。社会科学領域および自然科学領域の2領域から「基本科目」と、それに関連する「展開科目」を修得することを推奨します。

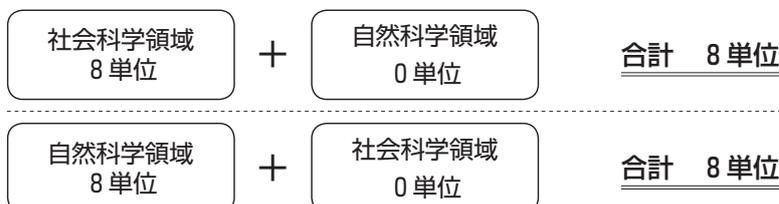
<パターン①>社会科学領域、自然科学領域の2領域から履修

(例)



<パターン②>社会科学領域、自然科学領域のいずれか1領域から履修

(例)



2. 言語教育科目

言語教育科目は、英語教育科目と英語以外の外国語教育科目から構成されています。

英語教育科目

グローバル社会の中で活躍し社会に貢献するためには、実用的な英語運用能力の獲得が必須となります。本学では、全学部1・2年次に英語授業を必修とし「読む・書く・話す・聞く」の英語学習に加えて、就職活動の入口やビジネス場面で有用とされるTOEIC対応の学習も行います。また、その達成度合いを測るために年数回TOEICを受験します。英語が苦手な方には基礎から学ぶ授業を開講し、基礎から英語能力の向上を図ります。

外国語教育科目

外国語教育科目は、国際社会で求められる高度な語学力を身に付けて国際的視野を磨く科目で、9言語から学びたい言語を選択できます。また、ネイティブスピーカーの教員が現地の文化を教える授業や、CALL教室で語学教材ソフトを用いた授業など、目的に合わせて語学力を鍛えることができます

(1) 履修方法について

外国語教育科目（英語以外の9言語）から1言語もしくは2言語を選択し、以下の科目において8単位修得しなければなりません。

＜1言語で修得する場合＞

「●●語エキスパート」を履修し、1年次で1言語8単位を修得します。

科目区分	科目名	年次	学期	単位数	最低修得単位数
英語以外	●●語エキスパートⅠ※1	1	春	4	8
	●●語エキスパートⅡ※1	1	秋	4	

※1 科目名の●●には、ドイツ・フランス・中国・スペイン・イタリア・韓国朝鮮の各言語名が入ります。

＜2言語で修得する場合＞

1年次に「たのしく学ぶ○○語」（1言語）、2年次に異なる言語の「たのしく学ぶ△△語」（1言語）を履修し、2年次終了時まで2言語で8単位を修得します。

科目区分	科目名	年次	学期	単位数	最低修得単位数
英語以外	たのしく学ぶ○○語ⅠA※2	1	春	各1	8
	たのしく学ぶ○○語ⅠB※2				
	たのしく学ぶ○○語ⅡA※2		秋		
	たのしく学ぶ○○語ⅡB※2				
	たのしく学ぶ△△語ⅠA※2	2	春	各1	
	たのしく学ぶ△△語ⅠB※2				
	たのしく学ぶ△△語ⅡA※2		秋		
	たのしく学ぶ△△語ⅡB※2				

※2 科目名の○○および△△には、ドイツ・フランス・中国・ロシア・スペイン・インドネシア・イタリア・韓国朝鮮・ベトナムの各言語名が入ります。

【履修上の注意】

- ◇1 セメスター終了時点における言語変更および科目変更は原則として認められません。
- ◇2 言語で修得する場合、2年次に履修する「たのしく学ぶ△△語」は、2年次の履修登録時に各自が履修計画に基づき登録します。ただし、登録科目はコンピュータ抽選により決定されます。

【TOEIC受験について】

- ◇1・2年次終了時に、TOEIC IP（学内受験）を全員が受験します。[受験料は大学負担]
 - ◇春学期終了時にも、TOEIC IP（学内受験）を希望者に実施します。[受験料は個人負担]
- 受験方法などの詳細については、電子掲示板POST等でお知らせします。

(2) 各種検定試験のスコアによる単位認定について (b-9~b-10を参照)

◇英語教育科目

TOEIC IPテスト(学内受験)、TOEIC(公開テスト)やTOEFL及び実用英語技能検定などのスコアに基づき、英語選択科目として認定する制度があります。

◇外国語教育科目

指定された各種検定試験でのスコアに基づき、言語教育科目の選択科目として単位認定をします。

(3) 余剰単位の取り扱い

言語教育科目で定める単位数を超えて修得した単位は、卒業要件単位に算入します。

(4) 再履修について

1 言語修得も2言語修得も、単位未修得の科目を再履修して、不足単位数を修得しなければなりません。

1 言語修得で4単位未修得の場合、異なる言語の「たのしく学ぶ〇〇語ⅠA~ⅡB」または「●●語エキスパート」を組み合わせて、2言語修得として最低修得単位数を充足することも可能です。(※3セメスター以降から可能)

2 言語修得で「たのしく学ぶ〇〇語」(1言語)の科目が単位未修得の場合、異なる言語の「●●語エキスパート」を組み合わせて最低修得単位数を充足することも可能です。(※3セメスター以降から可能)

(5) 外国人留学生を対象とした言語教育科目について

<履修パターン>

1 セメスター	2 セメスター
日本語科目 (4単位・必修)	日本語科目 (4単位・必修)

※上記履修パターンによる履修は、推奨される履修方法であり、1セメスター・2セメスターで必修科目が修得できなかった場合は、3セメスターから卒業までの間に必修科目を修得する必要があります。

<日本語科目>

単位数：1単位 (※「留学生のための日本事情」除く)

配当年次：1年次

対象者	レベル	必修・選択別	科目名								
正規学部留学生	7	選択	日本語コミュニケーション (話す/聞く) I/II	日本語コミュニケーション (読む/書く) I/II	上級日本語3 (ビジネス) I/II	上級日本語3 (文章表現) I/II	【選択】 検定で学ぶ 日本語 (上級) I/II	【選択】 留学生のための 日本事情 (2単位)			
	6	必修	上級日本語2 (語彙・読解) I/II	上級日本語2 (文章表現) I/II	上級日本語2 (口頭表現) I/II	上級日本語2 (聴解) I/II					
	5	必修	上級日本語1 (語彙・読解) I/II	上級日本語1 (文章表現) I/II	上級日本語1 (口頭表現) I/II	上級日本語1 (聴解) I/II					
	4	選択	中級日本語2 (語彙・読解) I/II	中級日本語2 (文法) I/II	中級日本語2 (口頭表現) I/II	中級日本語2 (聴解) I/II	中級日本語 (文字・表記) I/II				検定で学ぶ 日本語 (中級) I/II
	3	選択	中級日本語1 (語彙・読解) I/II	中級日本語1 (文法) I/II	中級日本語1 (会話) I/II	中級日本語1 (聴解) I/II					
非正規留学生	2	—	初級日本語2 (文法B) I/II	初級日本語2 (会話) I/II	初級日本語2 (読解) I/II	初級日本語 (文字・表記) I/II					
			初級日本語2 (文法A) I/II								
	1	—	初級日本語1 (文法B) I/II	初級日本語1 (会話B) I/II							
初級日本語1 (文法A) I/II			初級日本語1 (会話A) I/II								
0	—		入門日本語 (会話B)								
			入門日本語 (会話A)								

※科目名のIは春学期科目、IIは秋学期科目を表し、それぞれ1単位

- ・外国人留学生とみなされる学生のみ履修できます。
- ・言語教育科目の最低修得単位数は、必修の「日本語」科目を8単位修得しなければなりません。
- ・ただし、入学時のプレイスメントテストの結果等により「日本語」科目を履修しない学生は、「日本語以外の言語 (英語および母語以外)」を履修します。修得した単位は、卒業要件単位に算入します。
- ・レベル3～4の科目を正規学部留学生が履修する場合は、日本語担当教員からの履修許可が必要です。

※履修可能な科目は、履修要項別冊ガイドの授業科目一覧で確認してください。

◇英語資格試験等の単位認定制度（編・転入学生および英語を母語とする外国人留学生を除く）◇

この制度は、TOEIC、TOEFL、実用英語技能検定において下表に示す基準を満たしている場合、その学修に対して、単位を認定する制度です。

【共通教育科目（英語教育科目）の選択科目での認定】

①認定基準及び単位数

TOEICはTOEIC IP（学内受験）またはTOEIC（公開テスト）（国内受験）に限ります。

【認定科目・単位数一覧表】

種類	2単位	4単位	6単位	8単位	認定科目
TOEIC	520～595点	600～695点	700～795点	800点～	英語選択科目
TOEFL-ITP	477～500点	503～537点	540～570点	573点～	英語選択科目
TOEFL-iBT	53～61点	62～75点	76～88点	89点～	英語選択科目
実用英語技能検定	2級	準1級	—	1級	英語選択科目

②認定科目の取扱い

- TOEIC IP（学内受験）、TOEIC（公開テスト）、TOEFLまたは実用英語技能検定のスコアに基づき、共通教育科目「英語認定科目（選択科目）」として認定します。
- 認定は、所定の申請をした学期末に認定します。
- 認定した科目の成績評価は、認定を表す「N」と表記して認定します。認定された科目はGPA算出の対象外とします。
- 同一基準でのスコアの重複認定はできませんが、上位基準のスコアによる追加認定は、既認定単位数を差し引いて認定します。

{	例	1年次	TOEIC IP（学内受験）	550点	2単位認定
		2年次	TOEIC（公開テスト）	600点	4単位該当

- 認定単位は、8単位を限度に卒業要件単位として算入します。
- 一旦認定された内容の変更・取消しはできません。

③申請期間

申請手続きおよび申請の受付期間は、電子掲示板POSTにてお知らせします。なお、TOEIC IP（学内受験）を受験された場合については、大学側でスコアを確認して単位認定を行います（本人申請不要）。

④提出書類

- 英語資格試験等に対する単位認定申請書
- TOEIC（公開テスト）のスコアカードの原本とそのコピー
- 最新の学業成績表のコピー（1年次春学期以外）

※TOEIC IP（学内受験）を受験された場合は、申請は不要です。

⑤有効期限

TOEIC（公開テスト）・TOEFLのスコアの有効期限は、取得後2年以内とします（入学前に取得したTOEIC（公開テスト）のスコアは単位認定の対象外）。

3. 体育教育科目

体育教育科目は、「講義科目」「実習科目」「演習科目」に区分しています。

(1) 「健康科学実習」

登録はコンピュータ抽選により教職希望者を優先して決定します。

医師の指導等により運動が制限されている学生と、そのサポートを中心としたボランティア学習を希望する学生を対象としたクラス（Hクラス）を設けています。Hクラスの履修希望者は、所属事務室に申し出て登録の手続きをしてください。

(2) 「スポーツ科学実習A」「スポーツ科学実習B」

科目名に競技名を表す副題がついています。

副題が異なっても「スポーツ科学実習A」「スポーツ科学実習B」は、それぞれ1科目しか履修できません。

(3) 「健康科学演習A」「健康科学演習B」

科目名に副題がついています。

副題が異なっても「健康科学演習A」「健康科学演習B」は、それぞれ1科目しか履修できません。

(4) 「スポーツ科学演習A」「スポーツ科学演習B」

科目名に副題がついています。

副題が異なっても「スポーツ科学演習A」「スポーツ科学演習B」は、それぞれ1科目しか履修できません。

(5) スポーツ指導者育成科目

日本体育協会ではスポーツ振興の一環として、各種指導者認定を行い競技スポーツや地域スポーツの指導者育成事業を行っています。この資格を取得した者は、将来地域のスポーツクラブの指導者として、また特定競技の基礎的・専門的指導者として活動できることとなります。

将来地域スポーツ指導者としての資格を取得するため、日本体育協会が認定するスポーツリーダー、指導員、上級指導員、ジュニアスポーツ指導者、スポーツプログラマー、コーチ、教師およびアスレティックトレーナー養成のための科目を開設しております。

これらの資格を取得するためには、日本体育協会が定めた「共通科目」と「専門科目」を修了する必要があります。

ただし、スポーツリーダーは、「共通科目」のみ修了すれば資格が得られます。

本学では、日本体育協会との協定により次表○印の8科目すべてを卒業までに単位取得し、日本体育協会へ申請（卒業年度に申請）すれば、「スポーツリーダー」「指導員」「上級指導員」「ジュニアスポーツ指導員」または「スポーツプログラマー」の「共通科目」の講習と試験免除が受けられ、修了証明書が発行（要審査料）されます。

また、○と◎印の10科目すべてを卒業までに単位取得し、日本体育協会へ申請（卒業年度に申請）すれば、上記の資格の他に「コーチ」「教師」および「アスレティックトレーナー」の「共通科目」の講習と試験免除が受けられ、修了証明書が発行（要審査料）されます。

そして、卒業後、各都道府県が実施する「指導員」「上級指導員」「ジュニアスポーツ指導員」「スポーツプログラマー」「コーチ」「教員」および「アスレティックトレーナー」の「専門科目」（競技種目・都道府県により設定が異なる）を受講し修了すれば、それぞれの資格が得られます。

■スポーツリーダー

地域におけるスポーツグループやサークルなどのリーダーとして、基礎的なスポーツ指導や運営にあたる。

■指導員（旧C級スポーツ指導員）

地域スポーツクラブ等において、スポーツに初めて出会う子供たちや初心者を対象に、競技別の専門的知識を活かし、個々人の年齢や性別などの対象に合わせた指導にあたる。

特に発育発達期の子供に対しては、総合的な動き作りに主眼を置き、遊びの要素を取り入れた指導や地域スポーツクラブ等が実施するスポーツ教室の指導にあたる。

■上級指導員（旧B級スポーツ指導員）

地域スポーツクラブ等において、年齢、競技レベルに応じた指導にあたる。

事業計画の立案などクラブ内指導者の中心的な役割や地域スポーツクラブ等が実施するスポーツ教室の指導において中心的な役割を担う。

広域スポーツセンターや市町村エリアにおいて競技別指導にもあたる。

■ジュニアスポーツ指導員

地域スポーツクラブ等において、幼・少年期の子どもたちに遊びを通した身体づくり、動き作りの指導を行う。

■スポーツプログラマー

主として青年期以降のすべての人に対し、地域スポーツクラブなどにおいて、フィットネスの維持や向上のための指導・助言を行う。

■コーチ

地域や広域スポーツセンターにおいて、有望な競技者育成のため、より高いレベルの実技指導を行う。

■教師

商業スポーツ施設等において、競技別の専門的指導者として質の高い実技指導を行う。

会員（顧客）が満足できるよう、個々人の年齢や性別、技能レベルやニーズなどに合わせたサービスを提供する。

※この教師は、教育職員免許法に定められた保健体育の教員とは異なります。

■アスレティックトレーナー

スポーツドクターおよびコーチと緊密な協力のもとに、競技者の健康管理、障害予防、スポーツ外傷・傷害の救急措置、アスレティックリハビリテーション及びトレーニング、コンディショニング等にあたる。

※詳細については、春学期及び秋学期の履修登録期間中に説明会を開催いたします。

スポーツ指導者育成科目

本学の開設科目（体育教育科目）		日本体育協会講習科目	
○	スポーツの心理	共通Ⅱ	スポーツの心理Ⅰ
		共通Ⅲ	スポーツの心理Ⅱ
○	スポーツ指導論	共通Ⅰ	指導者の役割Ⅰ
			指導計画と安全管理
		共通Ⅲ	指導者の役割Ⅱ
			競技者育成のための指導法
○	スポーツ医学Ⅰ	共通Ⅰ	スポーツ指導者に必要な医学的知識Ⅰ
○	スポーツマネジメント	共通Ⅰ	文化としてのスポーツ
		共通Ⅱ	スポーツと法
			スポーツ組織の運営と事業
○	スポーツと栄養	共通Ⅰ	スポーツと栄養
		共通Ⅲ	アスリートの栄養・食事
○	スポーツのスキル	共通Ⅰ	ジュニア期のスポーツ
		共通Ⅱ	対象に合わせたスポーツ指導
		共通Ⅲ	身体のしくみと働き
○	スポーツ社会学	共通Ⅰ	地域におけるスポーツ振興
		共通Ⅱ	社会の中のスポーツ
○	ウェイトトレーニングの理論と実際	共通Ⅰ	トレーニング論Ⅰ
◎	スポーツ医学Ⅱ	共通Ⅲ	スポーツ指導者に必要な医学的知識Ⅱ
◎	スポーツのトレーニング論	共通Ⅲ	トレーニング論Ⅱ

4. キャリア形成支援教育科目

キャリア形成支援教育科目では、社会で通用する根幹的実力の養成を目指して、豊かな人間の能力（ヒューマンスキル）、概念的・論理的能力（コンセプチュアルスキル）、技術的・実践的能力（テクニカルスキル）を総合的に育成していきます。

低学年次から発展的・体験的に受講することにより、理想の将来像を明らかにし、職業観・人生観を明確に定め、社会で実践する力をつけていくことができます。

● キャリア形成支援教育科目一覧

領域	科目群	1年次	2年次	3年次	4年次	
キャリア・プランニング領域	キャリアデザイン系		大学生活と進路選択	自己発見とキャリア・プラン		
			21世紀と企業の課題			
コワーキング領域	プロジェクト系	O/OCF-PBL 1	O/OCF-PBL 2	O/OCF-PBL 3		
			企業人と学生のハイブリッド			
	インターンシップ系	スタートアップ・インターンシップ				
			インターンシップ1(大学コンソーシアム京都主催科目)			
			インターンシップ2(大学コンソーシアム京都主催科目)			
				インターンシップ3(国内)		
フィールドワーク系			インターンシップ4(海外)			
			インターンシップ5(自己開拓型)			
		インターンシップ6(地域コオプ)				
		実践フィールドワーク				
リフレッシュ領域	Re-デザイン系		キャリア・Re-デザイン			

※表内の科目は平成29年度開講科目です。

キャリア形成支援教育科目の中から、2単位以上を修得しなければなりません。

「自己発見と大学生活」は、大学生活、その後の社会や仕事、働くことについて、受講生同士、担当教員と一緒に考える授業です。グループワーク等の「協働」を通じて、大学を自分の「Home」とする友人関係を築くこともできます。1年次の春学期しか受講することができません。ぜひ履修してください。

「自己発見と大学生活」以外にも多種多様な科目を展開しています。科目は、キャリア・プランニング領域、コワーキング領域、リフレッシュ領域の3領域に分類され、更に以下の5つの科目群に分かれます。

① キャリアデザイン系科目群

自分の将来を考え、進路選択につなげたい学生のための科目群。

② プロジェクト系科目群

プロジェクト方式での課題解決でチームワークを極めたい学生のための科目群。

③ インターンシップ系科目群

就業体験で自分の社会性を高めたい学生のための科目群。

④ フィールドワーク系科目群

フィールドワークで地域社会を学びの場にしたい学生のための科目群。

⑤ Re-デザイン系科目群

今の自分を客観視し、新たな第一歩を踏み出したい学生のための科目群。

※各科目には、様々な履修条件があります。卒業まで計画的に履修するようにしてください。

※各科目を履修する場合は、履修要項別冊ガイドおよびシラバスを必ず参照し、詳細を確認してください。

専門教育科目

1. 授業科目の概要について

【インテンシブ英語】

英語の基礎を学び、総合的なコミュニケーション能力を段階的に身に付けていくための科目です。1年次春学期にⅠ、同秋学期にⅡ、2年次春学期にⅢ、同秋学期にⅣと段階を追って内容が発展していきます。

「A」では、特定のテーマを設定した、内容中心の授業を行います。

「B」では、リーディングを中心に英語の総合能力の向上をめざします。

「C」では、英語の4技能を総合的に鍛えて、積極的なコミュニケーション能力を養成します。

【イングリッシュスタディーズ入門】

ことばの背景にある各言語圏の文化や社会事情など、専攻語として英語を4年間学んでいくために必要な入門的・基礎的知識を学びます。

【情報英語】

インターネットで情報の検索をしたり、コンピュータを活用したプレゼンテーションを行うなど、英語を用いた情報処理能力を身に付けます。

【基礎演習・英語基礎演習】

大学で、そして外国語学部で学んでいくための基礎的な力を養成する授業です。具体的には、講義の聴き方、文献の読み方、情報収集の方法、レポートの書き方、効果的なプレゼンテーションの方法などを実践的に身に付けていきます。さらに英語基礎演習では、異文化理解、進路、研究演習などのトピックをとりあげて、各自が英語学科でいかに学習していくかを考えます。

【英語海外実習】

英語圏で実際に英語を使用して生活することにより、異文化受容能力を身に付けると同時に、1年間の英語への取り組みの成果を認識し、意欲をもって2年次以降の学修へつなぐことを目的とした科目です。教室での周到な事前事後指導（1単位相当）と海外現地実習（2単位）を組み合わせ実施します。

【英語基幹科目】

英語言語圏の学問領域に関する中心的な授業科目群で、英語圏の言語・文学・文化・歴史・社会・政治・経済等についての知識を学びます。

【英語専門セミナー】

英語のコミュニケーション能力をさらに発展させるために、卒業後の進路をも見据えた専門的テーマを設定し、4技能を融合させた内容中心の総合的な科目です。

【英語研究演習】

4年間にわたる学びの集大成として、これまで学んできた広範な専門的知識や語学力、多様なコミュニケーション技能を活用し、個々の専門的関心を掘り下げ、まとめあげます。3年次春学期にⅠ、同秋学期にⅡ、4年次春学期にⅢ、同秋学期にⅣと、段階を追って学びを深めていきます。

【特別英語】

自ら感じた弱点を克服する、特定の目標を達成するといった自分のニーズとレベルに合わせて履修する授業です。4技能を伸ばす科目や文化等の内容に重点をおいた科目、留学関連科目、英語検定対策科目、GJPなどの英語講義の履修に備える科目といった多種多様な科目があります。

【関連科目】

各自が専攻する専門領域だけでなく、広く専門的教養を身に付けるために、他学科・他専攻の専門教育科目を学びたい場合、関連科目として履修できます。関連科目には、教科教育法など教職課程の科目も含まれています。

2. 専攻科目について

(1) 必修科目

次の科目を必修とします。不合格となった場合は、その不合格科目が開講される学期で優先的に履修してください。

「インテンシブ英語」、「情報英語」、「基礎演習」については、複数クラス開講しており、あらかじめ履修クラスが設定されています。自分がどのクラスに属するかは、Web履修登録画面で確認してください。

開講期	1年次配当		2年次配当	
	科目名	単位	科目名	単位
春	インテンシブ英語AⅠ	2	インテンシブ英語AⅢ	2
	インテンシブ英語BⅠ	1	インテンシブ英語BⅢ	1
	インテンシブ英語CⅠ	2	インテンシブ英語CⅢ	2
	イングリッシュスタディーズ入門Ⅰ	2		
	情報英語Ⅰ	1		
	基礎演習	2		
	国際関係論Ⅰ	2		
秋	インテンシブ英語AⅡ	2	インテンシブ英語AⅣ	2
	インテンシブ英語BⅡ	1	インテンシブ英語BⅣ	1
	インテンシブ英語CⅡ	2	インテンシブ英語CⅣ	2
	イングリッシュスタディーズ入門Ⅱ	2		
	情報英語Ⅱ	1		
	英語基礎演習	2		

(2) 選択必修科目

【英語基幹科目】

「英語基幹科目」（2年次配当）のなかから、18単位以上を修得しなければなりません。

【英語海外実習、英語専門セミナー】

「英語海外実習」（1年次配当）、「英語専門セミナー」（3年次配当）のなかから、8単位以上を修得しなければなりません。

◎注意事項

「英語海外実習」は、1年次末の春休みに海外の大学で、約3週間の語学研修を受ける科目です。履修にあたっては、春学期に開催する説明会に必ず出席し、履修方法等を確認してください。

【特別英語】

「特別英語」のなかから、4単位以上を修得しなければなりません。

「特別英語」には、1単位科目と2単位科目があります。単位修得にあたっては、1単位科目を2科目以上修得しなければなりません。

また、科目により履修条件（クラス定員やレベル）が指定されています。詳しくは、履修要項別冊ガイド、シラバス等で確認してください。

【英語研究演習】

以下の「英語研究演習」は、4単位以上を修得しなければなりません。

科目名	単位	配当年次	開講期	備考
英語研究演習Ⅰ	2	3	春	研究演習は、あらかじめ希望するクラスの応募を行い、選考により決定します。募集案内については2年次の秋学期に電子掲示板POSTにて発表します。 原則同一教員で、研究演習Ⅳまでの履修を推奨します（研究演習Ⅰを修得後は、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳと自動登録されます）。
英語研究演習Ⅱ	2	3	秋	
英語研究演習Ⅲ	2	4	春	
英語研究演習Ⅳ	2	4	秋	

履修にあたり、次の条件が設定されています。

- ・研究演習の選択必修4単位修得にあたっては、所属学科の研究演習を履修しなければなりません。
- ・研究演習はⅠからⅣへと段階を追って学ぶため、Ⅰが修得できなかった場合、それに続く秋学期のⅡを履修することはできません(在学留学を除く)。同じく、Ⅱが修得できなかった場合、Ⅲを履修することはできません。
- ・同一教員のクラスを連続で履修していきますが、在学留学・休学等の理由で、連続履修ができない場合は、事前に外国語学部事務室で相談してください。
- ・所属学科の研究演習ⅠとⅢを同時に履修することはできません。
- ・所属学科以外の研究演習Ⅰ～Ⅳは選択科目として履修することができます。ただし、各セメスターに履修できる研究演習は最大2つまでです。

3. 関連科目について

関連科目には、「教科教育法科目」を開講しています。また、他学科・専攻の「専門教育科目」を履修し修得した場合は、関連科目に区分されます。ただし、他学科・専攻の必修科目は履修できません。

【イングリッシュ・キャリア専攻 修了証書発行要件について】

以下の要件を満たした場合は、卒業時に修了証書を発行します。

【定員・募集・選抜方法等】

イングリッシュ・キャリア専攻は約20名を定員とし、1年次春学期に所属する学生の選抜を行います。選抜にあたっては、本人の希望理由や1年次春学期の履修状況、英語力などを参考にして総合的に評価し、決定します。春学期中に開催する説明会に必ず出席し、詳細を確認してください。説明会開催案内については、電子掲示板POSTにて発表します。

【修了証発行要件】

1. イングリッシュ・キャリア専攻の学生であること
2. 卒業要件単位数のうち、英語による授業の科目を履修し、68単位以上の単位を修得していること
ただし、上記の単位数には以下の単位を含んでいること
 - ・英語による共通教育科目 8単位以上
 - ・英語による外国語学部専門教育科目 60単位以上(英語基幹科目14単位以上を含む)
3. 上記1. 2. を満たしたうえで、以下の要件を2つ以上満たしていること
 - ・1学期間以上の留学
 - ・TOEFL600点以上、または、IELTS6.5以上
 - ・英語研究演習の論文(英語)作成および研究成果(英語)のプレゼンテーション

カリキュラムの概要

※当該年度における各授業科目の休講等は、履修要項別冊ガイドの授業科目一覧で確認してください。

年次 区分		1 年 次		2 年 次		
専 門 教 育 科 目	必 修	インテンシブ英語AⅠ(2)	インテンシブ英語AⅡ(2)	インテンシブ英語AⅢ(2)	インテンシブ英語AⅣ(2)	
		インテンシブ英語BⅠ(1)	インテンシブ英語BⅡ(1)	インテンシブ英語BⅢ(1)	インテンシブ英語BⅣ(1)	
		インテンシブ英語CⅠ(2)	インテンシブ英語CⅡ(2)	インテンシブ英語CⅢ(2)	インテンシブ英語CⅣ(2)	
		イングリッシュスタディーズ入門Ⅰ(2)	イングリッシュスタディーズ入門Ⅱ(2)			
		情報英語Ⅰ(1)	情報英語Ⅱ(1)			
		国際関係論Ⅰ(2)				
	専 攻 科 目	選 択 必 修	基礎演習(2)	英語基礎演習(2)		
			専攻基幹科目		英語学概論Ⅰ(2)	英語学概論Ⅱ(2)
					英語学A(英語音声学・音韻論)Ⅰ(2)	英語学A(英語音声学・音韻論)Ⅱ(2)
					英語学B(英語統語・意味論)Ⅰ(2)	英語学B(英語統語・意味論)Ⅱ(2)
		英語学C(英語語彙論)Ⅰ(2)	英語学C(英語語彙論)Ⅱ(2)			
		英米文学概論Ⅰ(2)	英米文学概論Ⅱ(2)			
		英文学Ⅰ(2)	英文学Ⅱ(2)			
		米文学Ⅰ(2)	米文学Ⅱ(2)			
		英語児童文学Ⅰ(2)	英語児童文学Ⅱ(2)			
		英文化概論Ⅰ(2)	英文化概論Ⅱ(2)			
		米文化概論Ⅰ(2)	米文化概論Ⅱ(2)			
		英語圏演劇論Ⅰ(2)	英語圏演劇論Ⅱ(2)			
		英語圏文化論Ⅰ(2)	英語圏文化論Ⅱ(2)			
		英語海外実習(3)				
		海外実習・ 専門セミナー				
		研究演習				
		特別英語(ディスカッション英語上級Ⅰ)(1)	特別英語(ディスカッション英語上級Ⅱ)(1)	特別英語(ディベート英語上級Ⅰ)(1)	特別英語(ディベート英語上級Ⅱ)(1)	
		特別英語(ディスカッション英語中級Ⅰ)(1)	特別英語(ディスカッション英語中級Ⅱ)(1)	特別英語(英語プレゼンテーションⅠ)(1)	特別英語(英語プレゼンテーションⅡ)(1)	
		特別英語(サイエンスプレゼンテーションⅠ)(1)	特別英語(サイエンスプレゼンテーションⅡ)(1)	特別英語(ニュース英語Ⅰ)(1)	特別英語(ニュース英語Ⅱ)(1)	
		特別英語(英語エッセイチャレンジⅠ)(1)	特別英語(英語エッセイチャレンジⅡ)(1)	特別英語(英語の構造中級Ⅰ)(1)	特別英語(英語の構造中級Ⅱ)(1)	
		特別英語(留学英語IELTSⅠ)(1)	特別英語(留学英語IELTSⅡ)(1)	特別英語(発音クリニックⅠ)(1)	特別英語(発音クリニックⅡ)(1)	
		特別英語(多読入門Ⅰ)(1)	特別英語(多読入門Ⅱ)(1)	特別英語(アクティブ・リスニング初級Ⅰ)(1)	特別英語(アクティブ・リスニング初級Ⅱ)(1)	
		特別英語(メール英語Ⅰ)(1)	特別英語(メール英語Ⅱ)(1)	特別英語(英語基礎ルールⅠ)(1)	特別英語(英語基礎ルールⅡ)(1)	
		特別英語(教室英語Ⅰ)(1)	特別英語(教室英語Ⅱ)(1)	特別英語(留学英語PBTⅠ)(1)	特別英語(留学英語PBTⅡ)(1)	
		特別英語(英語圏スタディーズA)(1)	特別英語(英語圏スタディーズB)(1)	特別英語(英語圏スタディーズC)(1)	特別英語(英語圏スタディーズD)(1)	
		特別英語(アカデミックライティングⅠ)(2)	特別英語(アカデミックライティングⅡ)(2)	特別英語(アカデミックリーディング・人文系Ⅰ)(2)	特別英語(アカデミックリーディング・人文系Ⅱ)(2)	
		特別英語(アカデミックリーディング・自然系Ⅰ)(2)	特別英語(アカデミックリーディング・自然系Ⅱ)(2)	特別英語(人文系リーディングⅠ)(2)	特別英語(人文系リーディングⅡ)(2)	
		特別英語(自然系リーディングⅠ)(2)	特別英語(自然系リーディングⅡ)(2)	特別英語(長期留学前準備)(2)	特別英語(長期留学前準備Ⅱ)(2)	
		特別英語(オセアニア・スタディーズⅠ)(2)	特別英語(オセアニア・スタディーズⅡ)(2)	特別英語(アジア・スタディーズⅠ)(2)	特別英語(アジア・スタディーズⅡ)(2)	
		特別英語(ヨーロッパ・スタディーズⅠ)(2)	特別英語(ヨーロッパ・スタディーズⅡ)(2)	特別英語(多読多聴Ⅰ)(2)	特別英語(多読多聴Ⅱ)(2)	
		特別英語(インタラクティブ・イングリッシュ初級ⅠA)(1)	特別英語(インタラクティブ・イングリッシュ初級ⅡA)(1)	特別英語(インタラクティブ・イングリッシュ初級ⅠB)(1)	特別英語(インタラクティブ・イングリッシュ初級ⅡB)(1)	
		特別英語(アクティブ・リスニング初級(音楽)Ⅰ)(1)	特別英語(アクティブ・リスニング初級(音楽)Ⅱ)(1)	特別英語(ロールプレイ初級Ⅰ)(1)	特別英語(ロールプレイ初級Ⅱ)(1)	
		特別英語(地域スタディーズ・アジアⅠ)(1)	特別英語(地域スタディーズ・アジアⅡ)(1)	特別英語(Politics and HistoryⅠ)(2)	特別英語(Politics and HistoryⅡ)(2)	
		特別英語(Creative Writing and StorytellingⅠ)(2)	特別英語(Creative Writing and StorytellingⅡ)(2)	特別英語(英語サマーキャンプ)(1)		
				英語科教育法Ⅰ(2)	英語科教育法Ⅱ(2)	

の科目は、英語による授業科目(外国語学部専門教育科目)です。

共通教育科目、他学部専門教育科目の英語による授業科目は、履修要項「グローバルな学び」のページ、シラバス等で確認してください。

()内は単位数

3 年 次		4 年 次		卒業要件単位数	
				20単位	80単位以上 共通教育科目21単位、融合教育科目、専門教育科目80単位以上を含む124単位以上
				4単位	
				2単位	
				2単位	
				4単位	
社会言語学Ⅰ(2)	社会言語学Ⅱ(2)	日本の社会学Ⅰ(2)	日本の社会学Ⅱ(2)	18単位以上	
心理言語学Ⅰ(2)	心理言語学Ⅱ(2)	国際開発学Ⅰ(2)	国際開発学Ⅱ(2)		
応用言語学Ⅰ(2)	応用言語学Ⅱ(2)	通訳理論Ⅰ(2)	通訳理論Ⅱ(2)		
エアラインビジネス論Ⅰ(2)	エアラインビジネス論Ⅱ(2)	通訳実習Ⅰ(2)	通訳実習Ⅱ(2)		
ツーリズム論Ⅰ(2)	ツーリズム論Ⅱ(2)	翻訳理論Ⅰ(2)	翻訳理論Ⅱ(2)		
ホスピタリティビジネス論Ⅰ(2)	ホスピタリティビジネス論Ⅱ(2)	翻訳実習Ⅰ(2)	翻訳実習Ⅱ(2)		
英語専門セミナー(時事英語研究)Ⅰ(2)	英語専門セミナー(時事英語研究)Ⅱ(2)	英語専門セミナー(アカデミック英語)Ⅰ(2)	英語専門セミナー(アカデミック英語)Ⅱ(2)	8単位以上	
英語専門セミナー(クリエイティブライティング)Ⅰ(2)	英語専門セミナー(クリエイティブライティング)Ⅱ(2)	英語専門セミナー(通訳)Ⅰ(2)	英語専門セミナー(通訳)Ⅱ(2)		
英語専門セミナー(翻訳)Ⅰ(2)	英語専門セミナー(翻訳)Ⅱ(2)	英語専門セミナー(ジャーナリズム)Ⅰ(2)	英語専門セミナー(ジャーナリズム)Ⅱ(2)		
英語専門セミナー(ビジネスライティング)Ⅰ(2)	英語専門セミナー(ビジネスライティング)Ⅱ(2)	英語研究演習Ⅰ(2)	英語研究演習Ⅱ(2)		
英語研究演習Ⅰ(2)	英語研究演習Ⅱ(2)	英語研究演習Ⅲ(2)	英語研究演習Ⅳ(2)		
特別英語(ディベート英語上級Ⅱ)(1)	特別英語(英語の構造上級Ⅰ)(1)	特別英語(英語の構造上級Ⅱ)(1)	特別英語(ビジネスプレゼンテーションⅡ)(1)	4単位以上	
特別英語(英語プレゼンテーションⅡ)(1)	特別英語(ビジネスプレゼンテーションⅠ)(1)	特別英語(ビジネスプレゼンテーションⅠ)(1)	特別英語(ビジネスプレゼンテーションⅡ)(1)		
特別英語(ニュース英語Ⅱ)(1)	特別英語(アクティブ・リスニングⅠ)(1)	特別英語(アクティブ・リスニングⅡ)(1)	特別英語(アクティブ・リスニングⅡ)(1)		
特別英語(英語の構造中級Ⅱ)(1)	特別英語(留学英語iBTⅠ)(1)	特別英語(留学英語iBTⅡ)(1)	特別英語(留学英語iBTⅡ)(1)		
特別英語(発音クリニックⅡ)(1)	特別英語(アクティブ・スピーキング初級Ⅰ)(1)	特別英語(アクティブ・スピーキング初級Ⅱ)(1)	特別英語(アクティブ・スピーキング初級Ⅱ)(1)		
特別英語(アクティブ・リスニング初級Ⅱ)(1)	特別英語(SNS英語Ⅰ)(1)	特別英語(SNS英語Ⅱ)(1)	特別英語(SNS英語Ⅱ)(1)		
特別英語(英語基礎ルールⅡ)(1)	特別英語(英語基礎訓練Ⅰ)(1)	特別英語(英語基礎訓練Ⅱ)(1)	特別英語(英語基礎訓練Ⅱ)(1)		
特別英語(留学英語PBTⅡ)(1)	特別英語(短期留学前準備)(1)	特別英語(短期留学後総括)(1)	特別英語(短期留学後総括)(1)		
特別英語(英語圏スタディーズD)(1)	特別英語(英語圏スタディーズE)(1)	特別英語(英語圏スタディーズF)(1)	特別英語(英語圏スタディーズF)(1)		
特別英語(アカデミックリーディング・人文系Ⅱ)(2)	特別英語(アカデミックリーディング・社会系Ⅰ)(2)	特別英語(アカデミックリーディング・社会系Ⅱ)(2)	特別英語(アカデミックリーディング・社会系Ⅱ)(2)		
特別英語(人文系リーディングⅡ)(2)	特別英語(社会系リーディングⅠ)(2)	特別英語(社会系リーディングⅡ)(2)	特別英語(社会系リーディングⅡ)(2)		
特別英語(長期留学後総括)(2)	特別英語(北米スタディーズⅠ)(2)	特別英語(北米スタディーズⅡ)(2)	特別英語(北米スタディーズⅡ)(2)		
特別英語(アジア・スタディーズⅡ)(2)	特別英語(英国スタディーズⅠ)(2)	特別英語(英国スタディーズⅡ)(2)	特別英語(英国スタディーズⅡ)(2)		
特別英語(多読多聴Ⅱ)(2)	特別英語(インタラクティブ・イングリッシュⅠ)(2)	特別英語(インタラクティブ・イングリッシュⅡ)(2)	特別英語(インタラクティブ・イングリッシュⅡ)(2)		
特別英語(インタラクティブ・イングリッシュ初級ⅡB)(1)	特別英語(アクティブ・スピーキングⅠ)(1)	特別英語(アクティブ・スピーキングⅡ)(1)	特別英語(アクティブ・スピーキングⅡ)(1)		
特別英語(ロールプレイ初級Ⅱ)(1)	特別英語(地域スタディーズ・ヨーロッパⅠ)(1)	特別英語(地域スタディーズ・ヨーロッパⅡ)(1)	特別英語(地域スタディーズ・ヨーロッパⅡ)(1)		
特別英語(Politics and HistoryⅡ)(2)	特別英語(Gender StudiesⅠ)(2)	特別英語(Gender StudiesⅡ)(2)	特別英語(Gender StudiesⅡ)(2)		
英語科教育法3(2)	英語科教育法4(2)				

履 修 方 法

ヨーロッパ言語学科

ド イ ツ 語 専 攻

フ ラ ン ス 語 専 攻

ス ペ イ ン 語 専 攻

イ タ リ ア 語 専 攻

ロ シ ア 語 専 攻

メディア・コミュニケーション専攻

履修規定

1. 卒業に必要な最低修得単位数

卒業するためには、4年以上在学し、次の科目区分に従って、124単位以上修得しなければなりません。

		科目区分		最低修得単位数		
共通教育科目	人間科学教育科目	選択必修	社会科学、自然科学(注1)	8単位以上	21単位以上	
		選択				
	言語教育科目	必修	英語教育科目	8単位		
		選択				
	体育教育科目	選択				
キャリア形成支援教育科目	選択必修		2単位以上			
	融合教育科目	選択	(注2)			
専門教育科目	専攻科目	必修	専攻〇〇語(注3)	20単位	124単位	
			〇〇学入門(注4)	4単位		
			ドイツ語専攻 フランス語専攻 スペイン語専攻 イタリア語専攻 ロシア語専攻	情報〇〇語(注3)		2単位
			メディア・コミュニケーション専攻	情報リテラシー		
			基礎演習	2単位		
		選択必修	ヨーロッパ言語基幹科目	4単位以上		
			専攻基幹科目	12単位以上		
			ドイツ語専攻 フランス語専攻 スペイン語専攻 イタリア語専攻 ロシア語専攻	〇〇語海外実習、 検定〇〇語(上級)、 〇〇語専門セミナー(注4)		8単位以上
			メディア・コミュニケーション専攻	インターンシップ、 〇〇専門セミナー(注4)		
			ヨーロッパ言語研究演習	4単位以上		
	英語科目	選択必修	特別英語(注5)	10単位以上		
	関連科目	選択				
		選択	教科教育法科目 他学科・専攻専門教育科目			

(注1) 社会科学領域および自然科学領域から、8単位以上を修得しなければならない。詳細は、b-23ページを参照。

(注2) 融合教育科目には、外国語学部履修可とする他学部専門教育科目を算入することができる。

(注3) 〇〇には、ドイツ語、フランス語、スペイン語、イタリア語、ロシア語のうち、専攻する言語名が入る。

(注4) 〇〇には、所属する専攻名が入る。

(注5) 1単位科目を4科目以上修得しなければならない。

2. 各セメスターの履修登録上限単位数

各セメスターの履修登録上限単位数は下表のとおりです。

セメスター	第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター
単位数	24	24	24	24	24	24	24	24

ただし、次の科目は上記の単位数には含まれません。

- ①卒業要件とならない自由(随意)科目
- ②単位互換科目(大学コンソーシアム京都科目 等)
- ③共通教育科目
インターンシップ、O/OCF-PBL、「キャリア・Re-デザイン」、「スタートアップ・インターンシップ」、「企業人と学生のハイブリッド」、「就業力総合実習」、「熊本・山鹿フィールド」
- ④共通教育科目〈教育・教職科目群〉における教職課程登録者のみ履修可とする科目
- ⑤海外語学実習

- ⑥外国語学部専門教育科目「〇〇海外実習」(〇〇には、英語・ドイツ語・フランス語・スペイン語・イタリア語・ロシア語・中国語・韓国語・インドネシア語が入る)、「メディア・コミュニケーション・インターンシップ」、集中講義形態で開講する特別英語科目
- ⑦経済学部専門教育科目「国際経済研修」
- ⑧法学部専門教育科目「司法における外国語の役割」、「人事・労務インターンシップ」、「知的財産実習」、「地域多文化共生実習」
- ⑨文化学部専門教育科目「国際文化研修」

共通教育科目

京都産業大学では、教学の理念に掲げる「自らを厳しく律しつつ、創造力に富み、社会的な義務を怠ることなく、国内外を問わず活躍できる人材」の育成のために、学生が自らの専門分野を深く学ぶだけでなく、幅広い教養を身につけることのできるよう、「人間科学教育科目」「言語教育科目」「体育教育科目」「キャリア形成支援教育科目」の区分を設けて、すべての学生に開講しています。

入学年度ごとに定められている履修規定を十分に把握したうえで履修してください。

1. 人間科学教育科目

人間科学教育科目は、「人文科学」「社会科学」「自然科学」「総合」の4つの領域にわかれます。

このうち、「総合」以外の3領域は、「基本科目」と「展開科目」から構成されています。自らの専門以外の学問分野を学ぶにあたって、まず基本科目でその学問分野の大まかな全体像を得て基本的な考え方をつかみ、そこで興味を感じた内容を展開科目でさらに深く学ぶことで、体系的に学習できるよう工夫しています。

(1) 各領域の特徴

【人文科学領域】

この領域は、古今東西の人類の文化を対象とします。これには、「哲学」「心理学」「歴史学」「文学・芸術学」といった分野が含まれます。この領域の科目は、文化の多様性を認識し、柔軟に思考できるようになることを目的としています。

【社会科学領域】

この領域は、意見や利害が多種多様で、価値観の異なる人々が構成する社会とそのような社会で生じる諸現象とを対象とします。これには、「経済学」「経営学」「法学・政治学」「社会学」といった分野が含まれます。この領域の科目は、多種多様な人々の共存や協力を図るしくみを理解することを目的としています。

【自然科学領域】

この領域は、ミクロ(素粒子)からマクロ(宇宙)までの様々なスケールの自然現象を対象とします。これには、京都産業大学の特色といえる「天文・物理科学」「生命・環境科学」「情報科学」それに、自然科学の基盤である「数学」といった分野が含まれます。この領域の科目は、自然法則や生命の営みへの見方を養うことを目的としています。

【総合領域】

この領域は、次の科目群に区分されます。

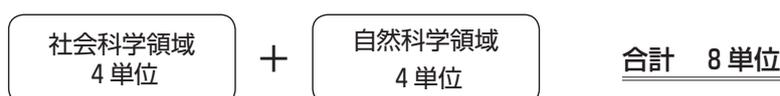
- ・ K S U 科目群：本学の特色ある科目と本学で学ぶための基礎となる科目
- ・ 教育・教職科目群：教員免許取得などに関わる科目
- ・ 人権科目群：人権に関わる諸問題や歴史などを学ぶ科目
- ・ 情報科目群：情報に関する科目

(2) 履修方法について

社会科学領域および自然科学領域から8単位以上修得しなければなりません。その履修方法は、以下の①～②のパターンとなります。社会科学領域および自然科学領域の2領域から「基本科目」と、それに関連する「展開科目」を修得することを推奨します。

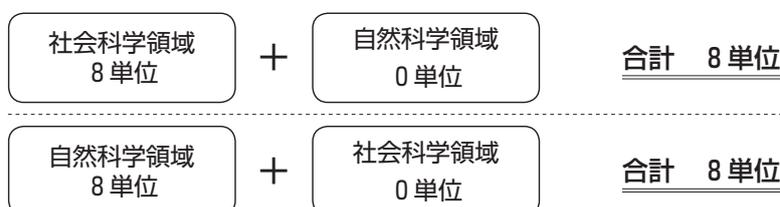
<パターン①>社会科学領域、自然科学領域の2領域から履修

(例)



<パターン②>社会科学領域、自然科学領域のいずれか1領域から履修

(例)



2. 言語教育科目

言語教育科目は、英語教育科目と英語以外の外国語教育科目から構成されています。

英語教育科目

グローバル社会の中で活躍し社会に貢献するためには、実用的な英語運用能力の獲得が必須となります。本学では、全学部1・2年次に英語授業を必修とし「読む・書く・話す・聞く」の英語学習に加えて、就職活動の入口やビジネス場面で有用とされるTOEIC対応の学習も行います。また、その達成度合いを測るために年数回TOEICを受験します。英語が苦手な方には基礎から学ぶ授業を開講し、基礎から英語能力の向上を図ります。

外国語教育科目

外国語教育科目は、国際社会で求められる高度な語学力を身に付けて国際的視野を磨く科目で、9言語から学びたい言語を選択できます。また、ネイティブスピーカーの教員が現地の文化を教える授業や、CALL教室で語学教材ソフトを用いた授業など、目的に合わせて語学力を鍛えることができます

(1) 履修方法について

英語必修科目8単位を修得しなければなりません。

科目区分	科目名	単位数	最低修得単位数
英語 必修	クラス指定された科目※1	各1	8

※1 入学時の英語プレイズメントテスト (TOEIC Bridge) のスコアに基づき、レベル (クラス) 分けを行います。

そのレベルにより、セメスターごとに履修する科目が異なります。〔下表参照〕

【英語必修科目】

レベル	レベル分け基準 (TOEICスコア)	TOEICスコア 目標	1年次		2年次	
			1セメ(春学期)	2セメ(秋学期)	3セメ(春学期)	4セメ(秋学期)
【上級】	520以上	600以上	上級英語(プレゼンテーション)Ⅰ	上級英語(プレゼンテーション)Ⅱ	上級英語(ディスカッション)Ⅰ	上級英語(ディスカッション)Ⅱ
			上級英語(TOEIC)Ⅰ	上級英語(TOEIC)Ⅱ	上級英語(TOEIC)Ⅲ	上級英語(TOEIC)Ⅳ
【中級】	400以上	500以上	中級英語(コミュニケーション)Ⅰ	中級英語(コミュニケーション)Ⅱ	中級英語(コミュニケーション)Ⅲ	中級英語(コミュニケーション)Ⅳ
			中級英語(TOEIC)Ⅰ	中級英語(TOEIC)Ⅱ	中級英語(TOEIC)Ⅲ	中級英語(TOEIC)Ⅳ
【初級】	310以上	400以上	初級英語(コミュニケーション)Ⅰ	初級英語(コミュニケーション)Ⅱ	初級英語(コミュニケーション)Ⅲ	初級英語(コミュニケーション)Ⅳ
			初級英語(TOEIC)Ⅰ	初級英語(TOEIC)Ⅱ	初級英語(TOEIC)Ⅲ	初級英語(TOEIC)Ⅳ
【基礎】	—	—	基礎英語(コミュニケーション)Ⅰ	基礎英語(コミュニケーション)Ⅱ	基礎英語(コミュニケーション)Ⅲ	基礎英語(コミュニケーション)Ⅳ
			基礎英語(総合)Ⅰ	基礎英語(総合)Ⅱ	基礎英語(総合)Ⅲ	基礎英語(総合)Ⅳ

※セメスターごとに2科目を学びます。

※網掛は、原則、英語ネイティブスピーカーの教員が担当(網掛以外は、日本人教員が担当)

【TOEIC受験について】

- ◇1・2年次終了時に、「上級」・「中級」・「初級」レベルのクラスは全員、「基礎」レベルの学生は希望者のみ、TOEIC IP (学内受験) を受験します。〔受験料は大学負担〕
- ◇春学期終了時にも、TOEIC IP (学内受験) を希望者に実施します。〔受験料は個人負担〕
受験方法などの詳細については、電子掲示板POST等でお知らせします。

(2) 各種検定試験のスコアによる単位認定について (b-27～b-29を参照)

- ◇英語教育科目
TOEIC IP (学内受験) およびTOEIC (公開テスト) でのスコアに基づき、英語必修科目として単位認定します。
また、TOEFLや実用英語技能検定のスコアで英語選択科目として認定する制度があります。
- ◇外国語教育科目
指定された各種検定試験のスコアに基づき、言語教育科目の選択科目として単位認定します。

(3) 余剰単位の取り扱い

言語教育科目で定める単位数を超えて履修した単位は、卒業要件単位に算入します。

(4) 再履修について

Semester毎に決められた英語必修科目の単位が修得できなかった場合は、次Semester以降に再履修クラスを履修します。

(5) 履修上の注意事項

英語必修科目は、Semester毎に設けているTOEIC IP (学内受験) を受験し、そのスコアによって自動的に上位のクラスに上がります。クラス変更の結果は、新学期の開始前に電子掲示板POST等にて連絡します。

履修
事項
一般

学
籍

単
位
互
換
制
度

英
語
学
科

ヨ
ー
ロ
ッ
パ
言
語
学
科

ア
ジ
ア
言
語
学
科

国
際
関
係
学
科

外
国
語
検
定
試
験
合
格
単
位
認
定
制
度

融
合
教
育
カ
リ
キ
ュ
ラ
ム

グ
ロ
ー
バ
ル
な
学
び
(G
E
T)

教
職
課
程

図
書
館
司
書
課
学
校
図
書
館
司
書
教
諭
課
程

規
程

(6) 外国人留学生を対象とした言語教育科目について

<履修パターン>

1 セメスター	2 セメスター
日本語科目 (4単位・必修)	日本語科目 (4単位・必修)

※上記履修パターンによる履修は、推奨される履修方法であり、1セメスター・2セメスターで必修科目が修得できなかった場合は、3セメスターから卒業までの間に必修科目を修得する必要があります。

<日本語科目>

単位数：1単位 (※「留学生のための日本事情」除く)

配当年次：1年次

対象者	レベル	必修・選択別	科目名								
正規学部留学生	7	選択	日本語コミュニケーション (話す/聞く) I/II	日本語コミュニケーション (読む/書く) I/II	上級日本語3 (ビジネス) I/II	上級日本語3 (文章表現) I/II	【選択】 検定で学ぶ 日本語 (上級) I/II	【選択】 留学生のための 日本事情 (2単位)			
	6	必修	上級日本語2 (語彙・読解) I/II	上級日本語2 (文章表現) I/II	上級日本語2 (口頭表現) I/II	上級日本語2 (聴解) I/II					
	5	必修	上級日本語1 (語彙・読解) I/II	上級日本語1 (文章表現) I/II	上級日本語1 (口頭表現) I/II	上級日本語1 (聴解) I/II					
	4	選択	中級日本語2 (語彙・読解) I/II	中級日本語2 (文法) I/II	中級日本語2 (口頭表現) I/II	中級日本語2 (聴解) I/II	中級日本語 (文字・表記) I/II				検定で学ぶ 日本語 (中級) I/II
	3	選択	中級日本語1 (語彙・読解) I/II	中級日本語1 (文法) I/II	中級日本語1 (会話) I/II	中級日本語1 (聴解) I/II					
非正規留学生	2	—	初級日本語2 (文法B) I/II	初級日本語2 (会話) I/II	初級日本語2 (読解) I/II	初級日本語 (文字・表記) I/II					
			初級日本語2 (文法A) I/II								
	1	—	初級日本語1 (文法B) I/II	初級日本語1 (会話B) I/II	初級日本語1 (読解) I/II						
初級日本語1 (文法A) I/II			初級日本語1 (会話A) I/II								
0	—		入門日本語 (会話B)								
			入門日本語 (会話A)								

※科目名のIは春学期科目、IIは秋学期科目を表し、それぞれ1単位

- ・外国人留学生とみなされる学生のみ履修できます。
- ・言語教育科目の最低修得単位数は、必修の「日本語」科目を8単位修得しなければなりません。
- ・ただし、入学時のプレイスメントテストの結果等により「日本語」科目を履修しない学生は、「日本語以外の言語 (母語以外)」を履修します。修得した単位は、卒業要件単位に算入します。
- ・レベル3～4の科目を正規学部留学生が履修する場合は、日本語担当教員からの履修許可が必要です。

※履修可能な科目は、履修要項別冊ガイドの授業科目一覧で確認してください。

◇英語資格試験等の単位認定制度（編・転入学生および英語を母語とする外国人留学生を除く）◇

この制度は、TOEIC、TOEFL、実用英語技能検定において下表に示す基準を満たしている場合、その学修に対して、単位を認定する制度です。

「1. 共通教育科目（英語教育科目）の必修科目に認定（上限6単位まで）」と、「2. 共通教育科目（英語教育科目）の選択科目に認定」の2つの制度があります。双方あわせて、最大8単位までしか認められません。

【認定科目・単位数一覧表】

種類	2単位	4単位	6単位	8単位	認定科目
TOEIC	520～595点	600～695点	700～795点	800点～	英語必修科目 (上限6単位まで) ※認定する単位数の余剰分については、「英語選択科目」で認定
TOEFL-ITP	477～500点	503～537点	540～570点	573点～	英語選択科目
TOEFL-iBT	53～61点	62～75点	76～88点	89点～	英語選択科目
実用英語技能検定	2級	準1級	—	1級	英語選択科目

1. 共通教育科目（英語教育科目）の必修科目での認定

①認定基準及び単位数

試験はTOEIC IP（学内受験）またはTOEIC（公開テスト）（国内受験）に限ります。

②認定科目の取扱い

- a. 対象者は、英語必修科目履修者のみです。
- b. TOEIC IP（学内受験）またはTOEIC（公開テスト）のスコアに基づき、共通教育科目の英語必修科目（「英語認定科目（必修科目）」）として認定します。
- c. 単位認定する科目は、高年次配当の英語必修科目から順次認定します。ただし、再履修科目がある場合は、再履修科目の低年次配当科目を先に認定します。
- d. 認定は、所定の申請をした学期末に認定します。
- e. 認定した科目の成績評価は、認定を表す「N」と表記して認定します。認定された科目はGPA算出の対象外とします。
- f. 同一基準でのスコアの重複認定はできませんが、上位基準のスコアによる追加認定は、既認定単位数を差し引いて認定します。

例	1年次	TOEIC IP（学内受験）	550点	2単位認定
	2年次	TOEIC（公開テスト）	600点	4単位該当
				差し引き2単位追加認定
- g. 必修科目としての認定単位は、6単位を上限に卒業要件単位として算入します。余剰単位は、「英語認定科目（選択科目）」として認定します。
- h. 一旦認定された内容の変更・取消しはできません。

③申請期間

申請手続きおよび申請の受付期間は、電子掲示板POSTにてお知らせします。なお、TOEIC IP（学内受験）を受験された場合については、大学側でスコアを確認して単位認定を行います（本人申請不要）。

④提出書類

- a. 英語資格試験等に対する単位認定申請書
 - b. TOEIC（公開テスト）のスコアカードの原本とそのコピー
 - c. 最新の学業成績表のコピー（1年次春学期以外）
- ※TOEIC IP（学内受験）を受験された場合は、申請は不要です。

⑤有効期限

TOEIC（公開テスト）のスコアの有効期限は、取得後2年以内とします（入学前に取得したスコアは単位認定の対象外）。

2. 共通教育科目（英語教育科目）の選択科目としての認定

①認定基準及び単位数（試験は国内受験に限る）

前頁【認定科目・単位数一覧表】参照

②認定科目の取扱い

- a. ①の認定基準及び単位数に基づき、共通教育科目の「英語認定科目」（選択科目）として認定します。
- b. 認定した科目の成績評価は、認定を表す「N」と表記して認定します。認定された科目はGPA算出の対象外とします。
- c. 同一基準での資格・スコアの重複認定はできませんが、上位基準の資格やスコアによる追加認定は、既認定単位数を差し引いて認定することができます。

{	例）	1年次	実用英語技能検定	2級	2単位申請・認定	}
		3年次	TOEFL-ITP	532点	4単位該当	
					差引き2単位追加認定	

- d. 「英語認定科目（必修科目）」の認定における余剰単位は、「英語認定科目（選択科目）」として認定します。こちらについても、上位基準の資格やスコアによる追加認定は、既認定単位数を差し引いて認定します。
- e. 認定単位は、「英語認定科目（必修科目）（上限6単位まで）」と「英語認定科目（選択科目）」を合わせて8単位を限度に卒業要件単位として算入します。
- f. 一旦認定した科目の変更・取消しはできません。

③申請期間

申請手続きおよび申請の受付期間は、電子掲示板POSTにてお知らせします。なお、申請した科目の単位認定は、各学期末とします。

④提出書類

- a. 英語資格試験等に対する単位認定申請書
- b. TOEIC（公開テスト）またはTOEFLのスコアカード（TOEFL-iBT、TOEFL-ITPを含む）、実用英語技能検定合格証書の原本とコピー
- c. 最新の学業成績表のコピー（1年次春学期以外）

※TOEIC IP（学内受験）を受験された場合は、申請は不要です。

⑤有効期限

TOEIC（公開テスト）・TOEFLのスコアの有効期限は、取得後2年以内とします（入学前に取得したTOEIC（公開テスト）のスコアは単位認定の対象外）。

◇英語以外の外国語検定試験合格者の単位認定制度（編・転入学生および各言語を母語とする外国人留学生を除く）◇

この制度は、下記表の検定試験において一定の基準を満たしている場合、その学修に対して、単位を認定する制度です。

①認定基準及び単位数

検定試験の種類	2単位	4単位	6単位	8単位
ドイツ語技能検定試験	4級	3級	2級	準1級 1級
実用フランス語技能検定試験	4級	3級	準2級	2級 準1級 1級
中国語検定試験	4級	3級	2級	準1級 1級
ロシア語能力検定試験	4級	3級	2級	1級
スペイン語技能検定試験	5級	4級	3級	2級 1級
インドネシア語技能検定試験	E級	D級	C級	B級 A級
実用イタリア語検定試験	5級	4級	3級	準2級 2級 1級
ハンデル能力検定試験	4級	3級	準2級	2級 1級

②認定科目の取扱

- a. 共通教育科目の「〇〇語認定科目」（選択科目）として認定します。
（〇〇の中には、各言語の名前が入ります。）
 - b. 認定した科目の成績評価は、認定を表す「N」と表記して認定します。
 - c. 認定単位は、最低修得単位数124単位のうち、8単位を限度に卒業要件単位として算入します。
（履修登録上限単位数には、含まれません。）
 - d. 異なる言語の検定試験に合格した場合も認定単位の上限は8単位とします。
異なる言語で資格を取得しても同一基準での資格・スコアの重複認定はできませんが、上位基準の資格やスコアによる追加認定は、既認定単位数を差し引いて認定することができます。
例) 1年次 ドイツ語技能検定試験 4級 2単位申請・認定
3年次 中国語検定試験 3級 4単位該当
差し引き2単位追加認定
 - e. 一旦認定した単位の取消しはできません。
 - f. 外国語学部の学生は、専攻語の検定試験に関しては認定申請できません。
- ※専門教育科目での認定申請については、外国語検定試験合格等の単位認定制度 (b-77～) 参照のこと

③申請期間

申請手続きおよび申請の受付期間は、電子掲示板POSTにてお知らせします。なお、申請した科目の単位認定は、各学期末とします。

④提出書類

- a. 検定試験合格者等に対する単位認定申請書
- b. 各検定試験合格証書の原本とコピー
- c. 最新の学業成績表のコピー（1年次春学期以外）

⑤有効期限

入学前に取得した資格も認定することができますが、有効期限が設定されている検定試験は、届け出日以前に失効している場合対象外とします。

※「中国語検定試験」において定められている「能力保証期間」は「有効期限」とは異なります。

3. 体育教育科目

体育教育科目は、「講義科目」「実習科目」「演習科目」に区分しています。

(1) 「健康科学実習」

登録はコンピュータ抽選により教職希望者を優先して決定します。

医師の指導等により運動が制限されている学生と、そのサポートを中心としたボランティア学習を希望する学生を対象としたクラス（Hクラス）を設けています。Hクラスの履修希望者は、所属事務室に申し出て登録の手続きをしてください。

(2) 「スポーツ科学実習A」「スポーツ科学実習B」

科目名に競技名を表す副題がついています。

副題が異なっても「スポーツ科学実習A」「スポーツ科学実習B」は、それぞれ1科目しか履修できません。

(3) 「健康科学演習A」「健康科学演習B」

科目名に副題がついています。

副題が異なっても「健康科学演習A」「健康科学演習B」は、それぞれ1科目しか履修できません。

(4) 「スポーツ科学演習A」「スポーツ科学演習B」

科目名に副題がついています。

副題が異なっても「スポーツ科学演習A」「スポーツ科学演習B」は、それぞれ1科目しか履修できません。

(5) スポーツ指導者育成科目

日本体育協会ではスポーツ振興の一環として、各種指導者認定を行い競技スポーツや地域スポーツの指導者育成事業を行っています。この資格を取得した者は、将来地域のスポーツクラブの指導者として、また特定競技の基礎的・専門的指導者として活動できることとなります。

将来地域スポーツ指導者としての資格を取得するため、日本体育協会が認定するスポーツリーダー、指導員、上級指導員、ジュニアスポーツ指導者、スポーツプログラマー、コーチ、教師およびアスレティックトレーナー養成のための科目を開設しております。

これらの資格を取得するためには、日本体育協会が定めた「共通科目」と「専門科目」を修了する必要があります。

ただし、スポーツリーダーは、「共通科目」のみ修了すれば資格が得られます。

本学では、日本体育協会との協定により次表○印の8科目すべてを卒業までに単位取得し、日本体育協会へ申請（卒業年度に申請）すれば、「スポーツリーダー」「指導員」「上級指導員」「ジュニアスポーツ指導員」または「スポーツプログラマー」の「共通科目」の講習と試験免除が受けられ、修了証明書が発行（要審査料）されます。

また、○と◎印の10科目すべてを卒業までに単位取得し、日本体育協会へ申請（卒業年度に申請）すれば、上記の資格の他に「コーチ」「教師」および「アスレティックトレーナー」の「共通科目」の講習と試験免除が受けられ、修了証明書が発行（要審査料）されます。

そして、卒業後、各都道府県が実施する「指導員」「上級指導員」「ジュニアスポーツ指導員」「スポーツプログラマー」「コーチ」「教員」および「アスレティックトレーナー」の「専門科目」（競技種目・都道府県により設定が異なる）を受講し修了すれば、それぞれの資格が得られます。

■スポーツリーダー

地域におけるスポーツグループやサークルなどのリーダーとして、基礎的なスポーツ指導や運営にあたる。

■指導員（旧C級スポーツ指導員）

地域スポーツクラブ等において、スポーツに初めて出会う子供たちや初心者を対象に、競技別の専門的知識を活かし、個々人の年齢や性別などの対象に合せた指導にあたる。

特に発育発達期の子供に対しては、総合的な動き作りに主眼を置き、遊びの要素を取り入れた指導や地域スポーツクラブ等が実施するスポーツ教室の指導にあたる。

■上級指導員（旧B級スポーツ指導員）

地域スポーツクラブ等において、年齢、競技レベルに応じた指導にあたる。

事業計画の立案などクラブ内指導者の中心的な役割や地域スポーツクラブ等が実施するスポーツ教室の指導において中心的な役割を担う。

広域スポーツセンターや市町村エリアにおいて競技別指導にもあたる。

■ジュニアスポーツ指導員

地域スポーツクラブ等において、幼・少年期の子どもたちに遊びを通した身体づくり、動き作りの指導を行う。

■スポーツプログラマー

主として青年期以降のすべての人に対し、地域スポーツクラブなどにおいて、フィットネスの維持や向上のための指導・助言を行う。

■コーチ

地域や広域スポーツセンターにおいて、有望な競技者育成のため、より高いレベルの実技指導を行う。

■教師

商業スポーツ施設等において、競技別の専門的指導者として質の高い実技指導を行う。

会員（顧客）が満足できるよう、個々人の年齢や性別、技能レベルやニーズなどに合わせたサービスを提供する。

※この教師は、教育職員免許法に定められた保健体育の教員とは異なります。

■アスレティックトレーナー

スポーツドクターおよびコーチと緊密な協力のもとに、競技者の健康管理、障害予防、スポーツ外傷・傷害の救急措置、アスレティックリハビリテーション及びトレーニング、コンディショニング等にあたる。

※詳細については、春学期及び秋学期の履修登録期間中に説明会を開催いたします。

スポーツ指導者育成科目

本学の開設科目（体育教育科目）		日本体育協会講習科目	
○	スポーツの心理	共通Ⅱ	スポーツの心理Ⅰ
		共通Ⅲ	スポーツの心理Ⅱ
○	スポーツ指導論	共通Ⅰ	指導者の役割Ⅰ
			指導計画と安全管理
		共通Ⅲ	指導者の役割Ⅱ
			競技者育成のための指導法
○	スポーツ医学Ⅰ	共通Ⅰ	スポーツ指導者に必要な医学的知識Ⅰ
○	スポーツマネジメント	共通Ⅰ	文化としてのスポーツ
		共通Ⅱ	スポーツと法
			スポーツ組織の運営と事業
○	スポーツと栄養	共通Ⅰ	スポーツと栄養
		共通Ⅲ	アスリートの栄養・食事
○	スポーツのスキル	共通Ⅰ	ジュニア期のスポーツ
		共通Ⅱ	対象に合わせたスポーツ指導
		共通Ⅲ	身体のしくみと働き
○	スポーツ社会学	共通Ⅰ	地域におけるスポーツ振興
		共通Ⅱ	社会の中のスポーツ
○	ウェイトトレーニングの理論と実際	共通Ⅰ	トレーニング論Ⅰ
◎	スポーツ医学Ⅱ	共通Ⅲ	スポーツ指導者に必要な医学的知識Ⅱ
◎	スポーツのトレーニング論	共通Ⅲ	トレーニング論Ⅱ

4. キャリア形成支援教育科目

キャリア形成支援教育科目では、社会で通用する根幹的実力の養成を目指して、豊かな人間の能力（ヒューマンスキル）、概念的・論理的能力（コンセプチュアルスキル）、技術的・実践的能力（テクニカルスキル）を総合的に育成していきます。

低学年次から発展的・体験的に受講することにより、理想の将来像を明らかにし、職業観・人生観を明確に定め、社会で実践する力をつけていくことができます。

● キャリア形成支援教育科目一覧

領域	科目群	1年次	2年次	3年次	4年次	
キャリア・プランニング領域	キャリア-デザイン系		大学生生活と進路選択	自己発見とキャリア・プラン		
			21世紀と企業の課題			
コワーキング領域	プロジェクト系	O/OCF-PBL 1	O/OCF-PBL 2	O/OCF-PBL 3		
		企業人と学生のハイブリッド				
	インターンシップ系	スタートアップ・インターンシップ				
				インターンシップ1(大学コンソーシアム京都主催科目)		
				インターンシップ2(大学コンソーシアム京都主催科目)		
				インターンシップ3(国内)		
フィールドワーク系			インターンシップ4(海外)			
			インターンシップ5(自己開拓型)			
			インターンシップ6(地域コ-オプ)			
リフレッシュ領域	Re-デザイン系	実践フィールドワーク				
		キャリア・Re-デザイン				

※表内の科目は平成29年度開講科目です。

キャリア形成支援教育科目の中から、2単位以上を修得しなければなりません。

「自己発見と大学生活」は、大学生活、その後の社会や仕事、働くことについて、受講生同士、担当教員と一緒に考える授業です。グループワーク等の「協働」を通じて、大学を自分の「Home」とする友人関係を築くこともできます。1年次の春学期しか受講することができません。ぜひ履修してください。

「自己発見と大学生活」以外にも多種多様な科目を展開しています。科目は、キャリア・プランニング領域、コワーキング領域、リフレッシュ領域の3領域に分類され、更に以下の5つの科目群に分かれます。

① キャリア-デザイン系科目群

自分の将来を考え、進路選択につなげたい学生のための科目群。

② プロジェクト系科目群

プロジェクト方式での課題解決でチームワークを極めたい学生のための科目群。

③ インターンシップ系科目群

就業体験で自分の社会性を高めたい学生のための科目群。

④ フィールドワーク系科目群

フィールドワークで地域社会を学びの場にしたい学生のための科目群。

⑤ Re-デザイン系科目群

今の自分を客観視し、新たな第一歩を踏み出したい学生のための科目群。

※各科目には、様々な履修条件があります。卒業まで計画的に履修するようにしてください。

※各科目を履修する場合は、履修要項別冊ガイドおよびシラバスを必ず参照し、詳細を確認してください。

専門教育科目

1. 授業科目の概要について

【専攻○○語】

専攻語の基礎を学び、総合的なコミュニケーション能力を段階的に身に付けていくための科目です。1年次春学期にⅠ、同秋学期にⅡ、2年次春学期にⅢ、同秋学期にⅣと段階を追って内容が発展していきます。「会話」では専攻語の積極的なコミュニケーション能力を養成します。「総合」では専攻語の運用能力を総合的に向上させます。「構造」では文法をベースに専攻語の言語体系を学びます。

【○○学入門】

ことばの背景にある各言語圏の文化や社会事情など、専攻語を4年間学んでいくために必要な入門的・基礎的知識を学びます。

【基礎演習】

大学で、そして外国語学部で学んでいくための基礎的な力を養成する授業です。具体的には、講義の聴き方、文献の読み方、情報収集の方法、レポートの書き方、効果的なプレゼンテーションの方法などを実践的に身に付けていきます。

【ヨーロッパ言語基幹科目】

言語・文学・文化・歴史・社会・政治・経済等の観点からヨーロッパ言語圏の知識を広く学びます。

【○○語海外実習】 【メディア・コミュニケーション・インターンシップ】

専攻語をその言語圏で実際に使用することにより、異文化受容力を身に付けると同時に、1年間の初修言語への取り組みの成果を認識し、意欲をもって2年次以降の学修へつなぐことを目的とした科目です。教室での周到な事前事後指導（1単位相当）と海外現地実習（2単位）を組み合わせ実施します。

メディア・コミュニケーション専攻では、メディア・コミュニケーションに関わる企業等でのインターンシップ科目が3年次以降に用意されています。

【情報○○語】、【情報リテラシー】

インターネットで情報を検索したり、コンピュータを活用したプレゼンテーションを行なうなど、専攻語を用いた情報処理能力を身に付けます。

メディア・コミュニケーション専攻では、専門領域の学修に必要な情報リテラシーの基礎を身に付けます。

【専攻基幹科目】

専攻言語圏の学問領域に関する中心的な授業科目群で、各言語圏が持つ言語・文学・文化・歴史・社会・政治・経済等についての知識を学びます。

メディア・コミュニケーション専攻では、メディア・コミュニケーション学に関する専門領域の知識を学びます。

【検定○○語（上級）】

専攻言語ごとに中～上級レベルの検定試験合格を目指します。

【○○専門セミナー】

専攻語のコミュニケーション能力をさらに発展させるために、卒業後の進路をも見据えた専門的テーマを設定し、4技能を融合させたコンテンツベースの総合的な言語科目です。

メディア・コミュニケーション専攻では、専門領域に関して個別のテーマ設定の下、講義&演習形式の授業を行ないます。

【ヨーロッパ言語研究演習】

4年間にわたる学びの集大成として、これまで学んできた広範な専門的知識や語学力、多様なコミュニケーション技能を活用し、個々の専門的関心を掘り下げまとめあげます。3年次春学期にⅠ、同秋学期にⅡ、4年次春学期にⅢ、同秋学期にⅣと段階を追って学びを深めていきます。

【特別英語】

ヨーロッパ言語学科では、英語の運用能力の向上にも力を注いでおり、実践的な英語学習を副専攻と位置づけています。

【関連科目】

各自が専攻する専門領域だけでなく、広く専門的教養を身に付けるために、他学科・他専攻の専門教育科目を学びたい場合、関連科目として履修できます。関連科目には、教科教育法など教職課程の科目も含まれています。

2. 専攻科目について

(1) 必修科目について

次の科目を必修とします。不合格となった場合は、その不合格科目が開講される学期で優先的に履修してください。

【ドイツ語専攻、フランス語専攻、スペイン語専攻、イタリア語専攻、ロシア語専攻】

下記〇〇には、それぞれの専攻語名が入ります。「専攻〇〇語」と「基礎演習」は、あらかじめクラスが設定されています。自分がどのクラスに属するかはWeb履修登録画面で確認してください。

開講期	1年次配当		2年次配当	
	科目名	単位	科目名	単位
春	専攻〇〇語(会話)Ⅰ	2	専攻〇〇語(会話)Ⅲ	2
	専攻〇〇語(総合)Ⅰ	1	専攻〇〇語(総合)Ⅲ	1
	専攻〇〇語(構造)Ⅰ	2	専攻〇〇語(構造)Ⅲ	2
	〇〇学入門Ⅰ	2	情報〇〇語Ⅰ	1
	基礎演習	2		
秋	専攻〇〇語(会話)Ⅱ	2	専攻〇〇語(会話)Ⅳ	2
	専攻〇〇語(総合)Ⅱ	1	専攻〇〇語(総合)Ⅳ	1
	専攻〇〇語(構造)Ⅱ	2	専攻〇〇語(構造)Ⅳ	2
	〇〇学入門Ⅱ	2	情報〇〇語Ⅱ	1

【メディア・コミュニケーション専攻】

下記〇〇には、ドイツ語・フランス語・スペイン語・イタリア語・ロシア語の5言語から専攻語として選択した1言語が入ります。すべて同じ言語で修得しなければなりません。また、「専攻〇〇語」と「基礎演習」は、あらかじめクラスが設定されています。自分がどのクラスに属するかはWeb履修登録画面で確認してください。

開講期	1年次配当		2年次配当	
	科目名	単位	科目名	単位
春	専攻〇〇語(会話)Ⅰ	2	専攻〇〇語(会話)Ⅲ	2
	専攻〇〇語(総合)Ⅰ	1	専攻〇〇語(総合)Ⅲ	1
	専攻〇〇語(構造)Ⅰ	2	専攻〇〇語(構造)Ⅲ	2
	メディア・コミュニケーション学入門Ⅰ	2		
	基礎演習	2		
	情報リテラシーⅠ	1		
秋	専攻〇〇語(会話)Ⅱ	2	専攻〇〇語(会話)Ⅳ	2
	専攻〇〇語(総合)Ⅱ	1	専攻〇〇語(総合)Ⅳ	1
	専攻〇〇語(構造)Ⅱ	2	専攻〇〇語(構造)Ⅳ	2
	メディア・コミュニケーション学入門Ⅱ	2		
	情報リテラシーⅡ	1		

(2) 選択必修科目

【ヨーロッパ言語基幹科目】

「ヨーロッパ言語基幹科目」のなかから、4単位以上を修得しなければなりません。

【専攻基幹科目】

所属する専攻の「専攻基幹科目」のなかから、12単位以上を修得しなければなりません。

【海外実習、検定〇〇語(上級)、専門セミナー】【ドイツ語専攻、フランス語専攻、スペイン語専攻、イタリア語専攻、ロシア語専攻】

所属する専攻の「〇〇語海外実習」(1年次配当)、「検定〇〇語(上級)」(2年次配当)、「〇〇語専門セミナー」(3年次配当)のなかから、8単位以上を修得しなければなりません。

【インターンシップ、専門セミナー】〔メディア・コミュニケーション専攻〕

「メディア・コミュニケーション・インターンシップ」(3年次配当)、「メディア・コミュニケーション専門セミナー」(3年次配当)のなかから、8単位以上を修得しなければなりません。

◎注意事項 1

各言語における海外実習は、1年次末の春休みに海外の大学で、約3週間の語学研修を受ける科目です。履修にあたっては、春学期に開催する説明会に必ず出席し、履修方法等を確認してください。

◎注意事項 2

メディア・コミュニケーション専攻生は、選択科目として、他専攻の「〇〇語海外実習」「検定〇〇語(上級)」「〇〇語専門セミナー」を履修することができます。

【ヨーロッパ言語研究演習】

以下の「ヨーロッパ言語研究演習」は、4単位以上を修得しなければなりません。

科目名	単位	配当年次	開講期	備考
ヨーロッパ言語研究演習Ⅰ	2	3	春	研究演習は、あらかじめ希望するクラスの応募を行い、選考により決定します。募集案内については2年次の秋学期に電子掲示板POSTにて発表します。 原則同一教員で、研究演習Ⅳまでの履修を推奨します(研究演習Ⅰを修得後は、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳと自動登録されます)。
ヨーロッパ言語研究演習Ⅱ	2	3	秋	
ヨーロッパ言語研究演習Ⅲ	2	4	春	
ヨーロッパ言語研究演習Ⅳ	2	4	秋	

履修にあたり、次の条件が設定されています。

- ・研究演習の選択必修4単位修得にあたっては、所属学科の研究演習を履修しなければなりません。
- ・研究演習はⅠからⅣへと段階を追って学ぶため、Ⅰが修得できなかった場合、それに続く秋学期のⅡを履修することはできません(在学留学を除く)。同じく、Ⅱが修得できなかった場合、Ⅲを履修することはできません。
- ・同一教員のクラスを連続で履修していきますが、在学留学・休学等の理由で、連続履修ができない場合は、事前に外国語学部事務室で相談してください。
- ・所属学科の研究演習ⅠとⅢを同時に履修することはできません。
- ・所属学科以外の研究演習Ⅰ～Ⅳは選択科目として履修することができます。ただし、各セメスターに履修できる研究演習は最大2つまでです。

3. 英語科目について

【特別英語】

「特別英語」のなかから、10単位以上を修得しなければなりません。

「特別英語」には、1単位科目と2単位科目があります。単位修得にあたっては、1単位科目を4科目以上修得しなければなりません。

また、科目により履修条件(クラス定員やレベル)が指定されています。詳しくは、履修要項別冊ガイド、シラバス等で確認してください。

なお、下記の科目は、英語教員免許取得のために必要な科目として指定しています。英語教員免許取得希望者が履修した場合には、特別英語の選択必修10単位には算入できません。

科目名	単位	配当年次	備考
特別英語(英語プレゼンテーションⅠ)	1	1	教職課程の「教科に関する科目」として修得した場合も、卒業要件単位に算入することができます。
特別英語(英語プレゼンテーションⅡ)		1	
特別英語(多読多聴Ⅰ)	2	1	
特別英語(多読多聴Ⅱ)		1	

4. 関連科目について

関連科目は、選択科目です。関連科目には、「教科教育法科目」を開講しています。また、他学科・専攻の「専門教育科目」を履修し修得した場合は、関連科目に区分されます。ただし、他学科・専攻の必修科目を履修することはできません。

カリキュラムの概要

当該年度における各授業科目の休講等は、履修要項別冊ガイドの授業科目一覧で確認してください。

※ の科目は、英語による授業科目です。

年次 区分	1 年 次		2 年 次	
必修	専攻○○語(会話)Ⅰ(2) 専攻○○語(総合)Ⅰ(1) 専攻○○語(構造)Ⅰ(2)	専攻○○語(会話)Ⅱ(2) 専攻○○語(総合)Ⅱ(1) 専攻○○語(構造)Ⅱ(2)	専攻○○語(会話)Ⅲ(2) 専攻○○語(総合)Ⅲ(1) 専攻○○語(構造)Ⅲ(2)	専攻○○語(会話)Ⅳ(2) 専攻○○語(総合)Ⅳ(1) 専攻○○語(構造)Ⅳ(2)
	○○学入門Ⅰ(2)	○○学入門Ⅱ(2)		
専攻	[メディア・コミュニケーション専攻] 情報リテラシーⅠ(1) 情報リテラシーⅡ(1) 基礎演習(2)		[ドイツ語・フランス語・スペイン語・イタリア語・ロシア語専攻] 情報○○語Ⅰ(1) 情報○○語Ⅱ(1)	
	ヨーロッパ言語 基幹科目	ヨーロッパの言語(2) ヨーロッパの文学(2) ヨーロッパの文化(2) ヨーロッパの政治と経済(2) ヨーロッパの歴史(近・現代史)(2)	ラテン語と言語文化Ⅰ(2) ラテン語と言語文化Ⅱ(2) 異文化コミュニケーションⅡ(2)	
選択必修	ドイツ語専攻 科目 専攻 海外実習 専門セミナー 検定	ドイツ語海外実習(3)	ドイツ語学概論Ⅰ(2) ドイツ語学概論Ⅱ(2) ドイツ語学A(音声学・音韻論)Ⅰ(2) ドイツ語学C(ドイツ語史)Ⅱ(2) ドイツ文学概論(文学史)Ⅰ(2) ドイツ文化概論(歴史)Ⅰ(2) ドイツ文化概論(歴史)Ⅱ(2)	
	フランス語専攻 科目 専攻 海外実習 専門セミナー 検定	フランス語海外実習(3)	フランス語学概論Ⅰ(2) フランス語学概論Ⅱ(2) フランス語学B(意味論・文法論)Ⅱ(2) フランス文学概論Ⅰ(2) フランス文化概論Ⅱ(2) フランス文化論AⅠ(2) フランス文化論AⅡ(2)	
選択必修	スペイン語専攻 科目 専攻 海外実習 専門セミナー 検定	スペイン語海外実習(3)	スペイン語学概論Ⅰ(2) スペイン語学概論Ⅱ(2) スペイン語学A(2) スペイン文化論B(2)	
	イタリア語専攻 科目 専攻 海外実習 専門セミナー 検定	イタリア語海外実習(3)	イタリア語学概論Ⅰ(2) イタリア語学概論Ⅱ(2) イタリア語学A(2) イタリア文化論B(2)	
選択必修	ロシア語専攻 科目 専攻 海外実習 専門セミナー 検定	ロシア語海外実習(3)	ロシア語学概論Ⅰ(2) ロシア語学概論Ⅱ(2) ロシア語学A(2) ロシア語学B(2)	
	メディア・コミュニケーション専攻 科目 専攻 海外実習 専門セミナー 検定		メディアと社会Ⅰ(2) メディアと社会Ⅱ(2) 国際ジャーナリズム論Ⅰ(2) ウェブ・パブリッシングⅡ(2) 実践ジャーナリズム論Ⅰ(2)	
研究演習				
英語科目	特別英語(ディスカッション英語上級Ⅰ)(1) 特別英語(ディスカッション英語中級Ⅰ)(1) 特別英語(サイエンスプレゼンテーションⅠ)(1) 特別英語(英語エッセイチャレンジⅠ)(1) 特別英語(留学英語IELTSⅠ)(1) 特別英語(多読入門Ⅰ)(1) 特別英語(メール英語Ⅰ)(1) 特別英語(教室英語Ⅰ)(1) 特別英語(英語圏スタディーズA)(1) 特別英語(アカデミックライティングⅠ)(2) 特別英語(アカデミックリーディング・自然系Ⅰ)(2) 特別英語(自然系リーディングⅠ)(2) 特別英語(オセアニア・スタディーズⅠ)(2) 特別英語(ヨーロッパ・スタディーズⅠ)(2) 特別英語(インタラクティブ・イングリッシュ初級ⅠA)(1) 特別英語(アクティブ・リスニング初級(音楽)Ⅰ)(1) 特別英語(地域スタディーズ・アジアⅠ)(1) 特別英語(Creative Writing and StorytellingⅠ)(2)	特別英語(ディスカッション英語上級Ⅱ)(1) 特別英語(ディスカッション英語中級Ⅱ)(1) 特別英語(サイエンスプレゼンテーションⅡ)(1) 特別英語(英語エッセイチャレンジⅡ)(1) 特別英語(留学英語IELTSⅡ)(1) 特別英語(多読入門Ⅱ)(1) 特別英語(メール英語Ⅱ)(1) 特別英語(教室英語Ⅱ)(1) 特別英語(英語圏スタディーズB)(1) 特別英語(アカデミックライティングⅡ)(2) 特別英語(アカデミックリーディング・自然系Ⅱ)(2) 特別英語(自然系リーディングⅡ)(2) 特別英語(オセアニア・スタディーズⅡ)(2) 特別英語(ヨーロッパ・スタディーズⅡ)(2) 特別英語(インタラクティブ・イングリッシュ初級ⅡA)(1) 特別英語(アクティブ・リスニング初級(音楽)Ⅱ)(1) 特別英語(地域スタディーズ・アジアⅡ)(1) 特別英語(Creative Writing and StorytellingⅡ)(2)	特別英語(ディベート英語上級Ⅰ)(1) 特別英語(英語プレゼンテーションⅠ)(1) 特別英語(ニュース英語Ⅰ)(1) 特別英語(英語の構造中級Ⅰ)(1) 特別英語(発音クリニックⅠ)(1) 特別英語(アクティブ・リスニング初級Ⅰ)(1) 特別英語(英語基礎ルールⅠ)(1) 特別英語(留学英語PBTⅠ)(1) 特別英語(英語圏スタディーズC)(1) 特別英語(アカデミックリーディング・人文系Ⅰ)(2) 特別英語(人文系リーディングⅠ)(2) 特別英語(長期留学前準備)(2) 特別英語(アジア・スタディーズⅠ)(2) 特別英語(多読多聴Ⅰ)(2) 特別英語(インタラクティブ・イングリッシュ初級ⅠB)(1) 特別英語(ロールプレイ初級Ⅰ)(1) 特別英語(Politics and HistoryⅠ)(2) 特別英語(英語サマーキャンプ)(1)	
選択		英語科教育法1(2) 英語科教育法2(2) 英語科教育法3(2) 英語科教育法4(2) フランス語科教育法3(2) フランス語科教育法4(2)		

()内は単位数

3年次		4年次		卒業要件単位数	
				20単位	
				4単位	
				2単位	
				2単位	
ギリシア語と言語文化Ⅰ(2) ギリシア語と言語文化Ⅱ(2) ポーランド語と言語文化Ⅰ(2) ポーランド語と言語文化Ⅱ(2) 異文化コミュニケーションⅠ(2)				4単位以上	
ドイツ語学A(音声学・音韻論)Ⅱ(2) ドイツ語学B(意味論・文法論)Ⅰ(2) ドイツ語学B(意味論・文法論)Ⅱ(2) ドイツ語学C(ドイツ語史)Ⅰ(2) ドイツ文学概論(文学史)Ⅱ(2) ドイツ文学A(近現代)Ⅰ(2) ドイツ文学A(近現代)Ⅱ(2) ドイツ文学B(古典)Ⅰ(2) ドイツ文学B(古典)Ⅱ(2) ドイツ文化論A(ドイツ事情)Ⅰ(2) ドイツ文化論A(ドイツ事情)Ⅱ(2) ドイツ文化論B(哲学・思想)Ⅰ(2) ドイツ文化論B(哲学・思想)Ⅱ(2)				12単位以上	
ドイツ語専門セミナー(文体論)Ⅰ(2) ドイツ語専門セミナー(文体論)Ⅱ(2) ドイツ語専門セミナー(ドイツ語圏地域研究)Ⅰ(2) ドイツ語専門セミナー(ドイツ語圏地域研究)Ⅱ(2) ドイツ語専門セミナー(翻訳通訳論)Ⅰ(2) ドイツ語専門セミナー(翻訳通訳論)Ⅱ(2) ドイツ語専門セミナー(時事ドイツ語)Ⅰ(2) ドイツ語専門セミナー(時事ドイツ語)Ⅱ(2) ドイツ語専門セミナー(ドイツ語圏のビジネスワールド)Ⅰ(2) ドイツ語専門セミナー(ドイツ語圏のビジネスワールド)Ⅱ(2) ドイツ語専門セミナー(ドイツ語圏の歴史と文化)Ⅰ(2) ドイツ語専門セミナー(ドイツ語圏の歴史と文化)Ⅱ(2)				8単位以上	
フランス語学A(音声学・音韻論)Ⅰ(2) フランス語学A(音声学・音韻論)Ⅱ(2) フランス語学B(音声学・音韻論)Ⅰ(2) フランス文学概論Ⅱ(2) フランス文学A(文学史)Ⅰ(2) フランス文学A(文学史)Ⅱ(2) フランス文学BⅠ(2) フランス文学BⅡ(2) フランス文化概論Ⅰ(2) フランス文化論BⅠ(2) フランス文化論BⅡ(2) フランス文化論CⅠ(2) フランス文化論CⅡ(2)				12単位	
フランス語専門セミナー(翻訳)Ⅰ(2) フランス語専門セミナー(翻訳)Ⅱ(2) フランス語専門セミナー(現代文化)Ⅰ(2) フランス語専門セミナー(現代文化)Ⅱ(2) フランス語専門セミナー(ジャーナリズム)Ⅰ(2) フランス語専門セミナー(ジャーナリズム)Ⅱ(2) フランス語専門セミナー(ビジネス)Ⅰ(2) フランス語専門セミナー(ビジネス)Ⅱ(2) フランス語専門セミナー(伝統と産業)Ⅰ(2) フランス語専門セミナー(伝統と産業)Ⅱ(2) フランス語専門セミナー(現代フランスの諸問題)Ⅰ(2) フランス語専門セミナー(現代フランスの諸問題)Ⅱ(2)				8単位	
スペイン語学B(2) スペイン文学・文化概論Ⅰ(2) スペイン文学・文化概論Ⅱ(2) スペイン文学A(2) スペイン文学B(2) スペイン文化論A(2)				12単位	
スペイン語専門セミナー(時事スペイン語)Ⅰ(2) スペイン語専門セミナー(時事スペイン語)Ⅱ(2) スペイン語専門セミナー(スペイン語翻訳)Ⅰ(2) スペイン語専門セミナー(スペイン語翻訳)Ⅱ(2) スペイン語専門セミナー(映像文化)Ⅰ(2) スペイン語専門セミナー(映像文化)Ⅱ(2) スペイン語専門セミナー(ビジネス表現)Ⅰ(2) スペイン語専門セミナー(ビジネス表現)Ⅱ(2) スペイン語専門セミナー(観光文化)Ⅰ(2) スペイン語専門セミナー(観光文化)Ⅱ(2)				8単位以上	
イタリア語学B(2) イタリア文学・文化概論Ⅰ(2) イタリア文学・文化概論Ⅱ(2) イタリア文学A(2) イタリア文学B(2) イタリア文化論A(2)				12単位以上	
イタリア語専門セミナー(時事問題)Ⅰ(2) イタリア語専門セミナー(時事問題)Ⅱ(2) イタリア語専門セミナー(旅行観光)Ⅰ(2) イタリア語専門セミナー(旅行観光)Ⅱ(2) イタリア語専門セミナー(食文化)Ⅰ(2) イタリア語専門セミナー(食文化)Ⅱ(2) イタリア語専門セミナー(ポップカルチャー)Ⅰ(2) イタリア語専門セミナー(ポップカルチャー)Ⅱ(2) イタリア語専門セミナー(ビジネス)Ⅰ(2) イタリア語専門セミナー(ビジネス)Ⅱ(2)				8単位以上	
ロシア文学・文化概論Ⅰ(2) ロシア文学・文化概論Ⅱ(2) ロシア文学A(2) ロシア文学B(2) ロシア文化論A(2) ロシア文化論B(2)				12単位以上	
ロシア語専門セミナー(文学作品)Ⅰ(2) ロシア語専門セミナー(文学作品)Ⅱ(2) ロシア語専門セミナー(文章論)Ⅰ(2) ロシア語専門セミナー(文章論)Ⅱ(2) ロシア語専門セミナー(芸術と文化)Ⅰ(2) ロシア語専門セミナー(芸術と文化)Ⅱ(2) ロシア語専門セミナー(観光論)Ⅰ(2) ロシア語専門セミナー(観光論)Ⅱ(2) ロシア語専門セミナー(ビジネス表現)Ⅰ(2) ロシア語専門セミナー(ビジネス表現)Ⅱ(2)				8単位以上	
国際ジャーナリズム論Ⅱ(2) メディア・コミュニケーションの構造Ⅰ(2) メディア・コミュニケーションの構造Ⅱ(2) ウェブ・パブリッシングⅠ(2) 実践ジャーナリズム論Ⅱ(2)				12単位以上	
メディア・コミュニケーション・インターンシップ(2) メディア・コミュニケーション専門セミナー(時事問題研究)Ⅰ(2) メディア・コミュニケーション専門セミナー(時事問題研究)Ⅱ(2) メディア・コミュニケーション専門セミナー(ウェブTV)Ⅰ(2) メディア・コミュニケーション専門セミナー(ウェブTV)Ⅱ(2) メディア・コミュニケーション専門セミナー(字幕ラボ)Ⅰ(2) メディア・コミュニケーション専門セミナー(字幕ラボ)Ⅱ(2) メディア・コミュニケーション専門セミナー(ウェブラジオ)Ⅰ(2) メディア・コミュニケーション専門セミナー(ウェブラジオ)Ⅱ(2) メディア・コミュニケーション専門セミナー(オーディオラボ)Ⅰ(2) メディア・コミュニケーション専門セミナー(オーディオラボ)Ⅱ(2)				8単位以上	
ヨーロッパ言語研究演習Ⅰ(2)		ヨーロッパ言語研究演習Ⅱ(2)		ヨーロッパ言語研究演習Ⅲ(2) ヨーロッパ言語研究演習Ⅳ(2)	
特別英語(ディベート英語上級Ⅱ)Ⅰ(1) 特別英語(英語プレゼンテーションⅡ)Ⅰ(1) 特別英語(ニュース英語Ⅱ)Ⅰ(1) 特別英語(英語の構造中級Ⅱ)Ⅰ(1) 特別英語(発音クリニックⅡ)Ⅰ(1) 特別英語(アクティブ・リスニング初級Ⅱ)Ⅰ(1) 特別英語(英語基礎ルールⅡ)Ⅰ(1) 特別英語(留学英語PBTⅡ)Ⅰ(1) 特別英語(英語圏スタディーズD)Ⅰ(1) 特別英語(アカデミックリーディング・人文系Ⅱ)Ⅰ(2) 特別英語(人文系リーディングⅡ)Ⅰ(2) 特別英語(長期留学後総括)Ⅰ(2) 特別英語(アジア・スタディーズⅡ)Ⅰ(2) 特別英語(多読多聴Ⅱ)Ⅰ(2) 特別英語(インタラクティブ・イングリッシュ初級ⅡB)Ⅰ(1) 特別英語(ロールプレイ初級Ⅱ)Ⅰ(1) 特別英語(Politics and HistoryⅡ)Ⅰ(2)		特別英語(英語の構造上級Ⅰ)Ⅰ(1) 特別英語(ビジネスプレゼンテーションⅠ)Ⅰ(1) 特別英語(アクティブ・リスニングⅠ)Ⅰ(1) 特別英語(留学英語iBTⅠ)Ⅰ(1) 特別英語(アクティブ・スピーキング初級Ⅰ)Ⅰ(1) 特別英語(SNS英語Ⅰ)Ⅰ(1) 特別英語(英語基礎訓練Ⅰ)Ⅰ(1) 特別英語(短期留学前準備)Ⅰ(1) 特別英語(英語圏スタディーズE)Ⅰ(1) 特別英語(アカデミックリーディング・社会系Ⅰ)Ⅰ(2) 特別英語(社会系リーディングⅠ)Ⅰ(2) 特別英語(北米スタディーズⅠ)Ⅰ(2) 特別英語(英国スタディーズⅠ)Ⅰ(2) 特別英語(インタラクティブ・イングリッシュⅡ)Ⅰ(2) 特別英語(アクティブ・スピーキングⅠ)Ⅰ(1) 特別英語(地域スタディーズ・ヨーロッパⅠ)Ⅰ(1) 特別英語(Gender StudiesⅠ)Ⅰ(2)		特別英語(英語の構造上級Ⅱ)Ⅰ(1) 特別英語(ビジネスプレゼンテーションⅡ)Ⅰ(1) 特別英語(アクティブ・リスニングⅡ)Ⅰ(1) 特別英語(留学英語iBTⅡ)Ⅰ(1) 特別英語(アクティブ・スピーキング初級Ⅱ)Ⅰ(1) 特別英語(SNS英語Ⅱ)Ⅰ(1) 特別英語(英語基礎訓練Ⅱ)Ⅰ(1) 特別英語(短期留学後総括)Ⅰ(1) 特別英語(英語圏スタディーズF)Ⅰ(1) 特別英語(アカデミックリーディング・社会系Ⅱ)Ⅰ(2) 特別英語(社会系リーディングⅡ)Ⅰ(2) 特別英語(北米スタディーズⅡ)Ⅰ(2) 特別英語(英国スタディーズⅡ)Ⅰ(2) 特別英語(インタラクティブ・イングリッシュⅡ)Ⅰ(2) 特別英語(アクティブ・スピーキングⅡ)Ⅰ(1) 特別英語(地域スタディーズ・ヨーロッパⅡ)Ⅰ(1) 特別英語(Gender StudiesⅡ)Ⅰ(2)	
ドイツ語科教育法Ⅰ(2) ドイツ語科教育法Ⅱ(2) ドイツ語科教育法Ⅲ(2) ドイツ語科教育法Ⅳ(2) フランス語科教育法Ⅰ(2) フランス語科教育法Ⅱ(2)					

各専攻で左記に指定したとおり合計20単位以上を修得しなければならない

80単位以上

共通教育科目21単位・融合教育科目・専門教育科目80単位を含め124単位以上

履 修 方 法

ア ジ ア 言 語 学 科

中 国 語 専 攻

韓 国 語 専 攻

インドネシア語専攻

日本語・コミュニケーション専攻

履修規定

1. 卒業に必要な最低修得単位数

卒業するためには、4年以上在学し、次の科目区分に従って、124単位以上修得しなければなりません。

中国語専攻、韓国語専攻、インドネシア語専攻、日本語・コミュニケーション専攻【留学生除く】

		科目区分		最低修得単位数		
共通教育科目	人間科学教育科目	選択必修	社会科学、自然科学(注1)	8単位以上	21単位以上	
		選択				
	言語教育科目	必修	英語教育科目	8単位		
		選択				
	体育教育科目	選択				
キャリア形成支援教育科目	選択必修		2単位以上			
	選択					
融合教育科目		選択	(注2)			
専門教育科目	専攻科目	必修	専攻○○語(注3)	20単位	80単位以上	
			○○学入門(注4)	4単位		
			情報○○語(注4)	2単位		
			基礎演習	2単位		
		選択必修	アジア言語基幹科目	4単位以上		
			専攻基幹科目	12単位以上		
			中国語専攻	○○語海外実習、 検定○○語(上級)、(注5)		8単位以上
			韓国語専攻			
			インドネシア語専攻			
			日本語・コミュニケーション専攻	日本語教育実習、 検定日本語教育、 ○○専門セミナー(注5)		
		アジア言語研究演習	4単位以上			
選択						
英語科目	選択必修	特別英語(注6)	10単位以上			
	選択					
関連科目	選択	教科教育法科目 他学科・専攻専門教育科目				

(注1) 社会科学領域および自然科学領域から、8単位以上を修得しなければならない。詳細は、b-42ページを参照。

(注2) 融合教育科目には、外国語学部履修可とする他学部専門教育科目を算入することができる。

(注3) ○○には、中国語、韓国語、インドネシア語のうち、専攻する言語名が入る。

(注4) ○○には、所属する専攻の言語名(中国語、韓国語、インドネシア語、日本語)が入る。

(注5) ○○には、所属する専攻名が入る。

(注6) 1単位科目を4科目以上修得しなければならない。

日本語・コミュニケーション専攻【留学生】

科目区分			最低修得単位数			
共通教育科目	人間科学教育科目	選択必修 選択	社会科学、自然科学(注1)	8単位以上	21単位以上	
	言語教育科目	必修 選択	日本語科目	8単位		
	体育教育科目	選択				
	キャリア形成支援教育科目	選択必修 選択		2単位以上		
融合教育科目			選択	(注2)		
専門教育科目	専攻科目	必修	インテンシブ日本語	12単位	80単位以上	
			日本学入門	4単位		
			情報日本語	2単位		
			基礎演習	2単位		
		選択必修	アジア言語基幹科目	4単位以上		
			専攻基幹科目	16単位以上		
	選択	日本語教育実習、検定日本語教育、日本語・コミュニケーション専門セミナー	12単位以上			
		アジア言語研究演習	4単位以上			
		英語科目	選択必修 選択	特別英語(注3)		10単位以上
		関連科目	選択	教科教育法科目 他学科・専攻専門教育科目		

(注1) 社会科学領域および自然科学領域から、8単位以上を修得しなければならない。詳細は、b-42ページを参照。

(注2) 融合教育科目には、外国語学部生履修可とする他学部専門教育科目を算入することができる。

(注3) 1単位科目を4科目以上修得しなければならない。

2. 各セメスターの履修登録上限単位数

各セメスターの履修登録上限単位数は下表のとおりです。

セメスター	第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター
単位数	24	24	24	24	24	24	24	24

ただし、次の科目は上記の単位数には含まれません。

- ①卒業要件とならない自由(随意)科目
- ②単位互換科目(大学コンソーシアム京都科目等)
- ③共通教育科目
インターンシップ、O/OCF-PBL、「キャリア・Re-デザイン」、「スタートアップ・インターンシップ」、「企業人と学生のハイブリッド」、「就業力総合実習」、「熊本・山鹿フィールド」
- ④共通教育科目〈教育・教職科目群〉における教職課程登録者のみ履修可とする科目
- ⑤海外語学実習
- ⑥外国語学部専門教育科目
「〇〇海外実習」(〇〇には、英語・ドイツ語・フランス語・スペイン語・イタリア語・ロシア語・中国語・韓国語・インドネシア語が入る)、「日本語教育実習」、集中講義形態で開講する特別英語科目
- ⑦経済学部専門教育科目
「国際経済研修」
- ⑧法学部専門教育科目
「司法における外国語の役割」、「人事・労務インターンシップ」、「知的財産実習」、「地域多文化共生実習」
- ⑨文化学部専門教育科目
「国際文化研修」

履修一般

学籍

単位互換制度

英語学科

言語学

言語学

国際関係科

外国語検定試験合格

融合教育

グローバルな学び

教職課程

図書館司書課程

規程

共通教育科目

京都産業大学では、教学の理念に掲げる「自らを厳しく律しつつ、創造力に富み、社会的な義務を怠ることなく、国内外を問わず活躍できる人材」の育成のために、学生が自らの専門分野を深く学ぶだけでなく、幅広い教養を身につけることのできるよう、「人間科学教育科目」「言語教育科目」「体育教育科目」「キャリア形成支援教育科目」の区分を設けて、すべての学生に開講しています。

入学年度ごとに定められている履修規定を十分に把握したうえで履修してください。

1. 人間科学教育科目

人間科学教育科目は、「人文科学」「社会科学」「自然科学」「総合」の4つの領域にわかれます。

このうち、「総合」以外の3領域は、「基本科目」と「展開科目」から構成されています。自らの専門以外の学問分野を学ぶにあたって、まず基本科目でその学問分野の大まかな全体像を得て基本的な考え方をつかみ、そこで興味を感じた内容を展開科目でさらに深く学ぶことで、体系的に学習できるよう工夫しています。

(1) 各領域の特徴

【人文科学領域】

この領域は、古今東西の人類の文化を対象とします。これには、「哲学」「心理学」「歴史学」「文学・芸術学」といった分野が含まれます。この領域の科目は、文化の多様性を認識し、柔軟に思考できるようになることを目的としています。

【社会科学領域】

この領域は、意見や利害が多様多様で、価値観の異なる人々が構成する社会とそのような社会で生じる諸現象とを対象とします。これには、「経済学」「経営学」「法学・政治学」「社会学」といった分野が含まれます。この領域の科目は、多種多様な人々の共存や協力を図るしくみを理解することを目的としています。

【自然科学領域】

この領域は、ミクロ(素粒子)からマクロ(宇宙)までの様々なスケールの自然現象を対象とします。これには、京都産業大学の特色といえる「天文・物理科学」「生命・環境科学」「情報科学」それに、自然科学の基盤である「数学」といった分野が含まれます。この領域の科目は、自然法則や生命の営みへの見方を養うことを目的としています。

【総合領域】

この領域は、次の科目群に区分されます。

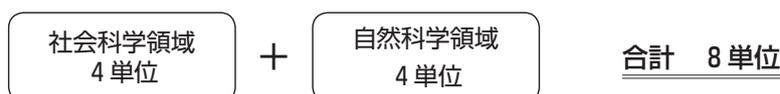
- ・ K S U 科目群：本学の特色ある科目と本学で学ぶための基礎となる科目
- ・ 教育・教職科目群：教員免許取得などに関わる科目
- ・ 人権科目群：人権に関わる諸問題や歴史などを学ぶ科目
- ・ 情報科目群：情報に関する科目

(2) 履修方法について

社会科学領域および自然科学領域から8単位以上修得しなければなりません。その履修方法は、以下の①～②のパターンとなります。社会科学領域および自然科学領域の2領域から「基本科目」と、それに関連する「展開科目」を修得することを推奨します。

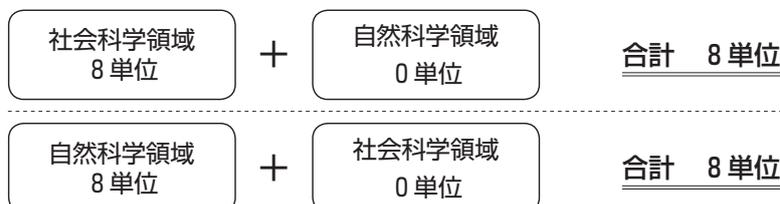
<パターン①>社会科学領域、自然科学領域の2領域から履修

(例)



<パターン②>社会科学領域、自然科学領域のいずれか1領域から履修

(例)



2. 言語教育科目

言語教育科目は、英語教育科目と英語以外の外国語教育科目から構成されています。

英語教育科目

グローバル社会の中で活躍し社会に貢献するためには、実用的な英語運用能力の獲得が必須となります。本学では、全学部1・2年次に英語授業を必修とし「読む・書く・話す・聞く」の英語学習に加えて、就職活動の入口やビジネス場面で有用とされるTOEIC対応の学習も行います。また、その達成度合いを測るために年数回TOEICを受験します。英語が苦手な方には基礎から学ぶ授業を開講し、基礎から英語能力の向上を図ります。

外国語教育科目

外国語教育科目は、国際社会で求められる高度な語学力を身に付けて国際的視野を磨く科目で、9言語から学びたい言語を選択できます。また、ネイティブスピーカーの教員が現地の文化を教える授業や、CALL教室で語学教材ソフトを用いた授業など、目的に合わせて語学力を鍛えることができます

(1) 履修方法について

英語必修科目8単位を修得しなければなりません。

科目区分	科目名	単位数	最低修得単位数
英語 必修	クラス指定された科目※1	各1	8

※1 入学時の英語プレイズメントテスト (TOEIC Bridge) のスコアに基づき、レベル (クラス) 分けを行います。

そのレベルにより、セメスターごとに履修する科目が異なります。〔下表参照〕

【英語必修科目】

レベル	レベル分け基準 (TOEICスコア)	TOEICスコア目標	1年次		2年次	
			1セメ (春学期)	2セメ (秋学期)	3セメ (春学期)	4セメ (秋学期)
【上級】	520以上	600以上	上級英語 (プレゼンテーション) I	上級英語 (プレゼンテーション) II	上級英語 (ディスカッション) I	上級英語 (ディスカッション) II
			上級英語 (TOEIC) I	上級英語 (TOEIC) II	上級英語 (TOEIC) III	上級英語 (TOEIC) IV
【中級】	400以上	500以上	中級英語 (コミュニケーション) I	中級英語 (コミュニケーション) II	中級英語 (コミュニケーション) III	中級英語 (コミュニケーション) IV
			中級英語 (TOEIC) I	中級英語 (TOEIC) II	中級英語 (TOEIC) III	中級英語 (TOEIC) IV
【初級】	310以上	400以上	初級英語 (コミュニケーション) I	初級英語 (コミュニケーション) II	初級英語 (コミュニケーション) III	初級英語 (コミュニケーション) IV
			初級英語 (TOEIC) I	初級英語 (TOEIC) II	初級英語 (TOEIC) III	初級英語 (TOEIC) IV

【基礎】	—	—	基礎英語 (コミュニケーション) I	基礎英語 (コミュニケーション) II	基礎英語 (コミュニケーション) III	基礎英語 (コミュニケーション) IV
			基礎英語 (総合) I	基礎英語 (総合) II	基礎英語 (総合) III	基礎英語 (総合) IV

※セメスターごとに2科目を学びます。

※網掛は、原則、英語ネイティブスピーカーの教員が担当 (網掛以外は、日本人教員が担当)

【TOEIC受験について】

- ◇1・2年次終了時に、「上級」・「中級」・「初級」レベルのクラスは全員、「基礎」レベルの学生は希望者のみ、TOEIC IP (学内受験) を受験します。〔受験料は大学負担〕
- ◇春学期終了時にも、TOEIC IP (学内受験) を希望者に実施します。〔受験料は個人負担〕
受験方法などの詳細については、電子掲示板POST等でお知らせします。

(2) 各種検定試験のスコアによる単位認定について (b-46～b-48を参照)

- ◇英語教育科目
TOEIC IP (学内受験) およびTOEIC (公開テスト) でのスコアに基づき、英語必修科目として単位認定します。
また、TOEFLや実用英語技能検定のスコアで英語選択科目として認定する制度があります。
- ◇外国語教育科目
指定された各種検定試験のスコアに基づき、言語教育科目の選択科目として単位認定します。

(3) 余剰単位の取り扱い

言語教育科目で定める単位数を超えて履修した単位は、卒業要件単位に算入します。

(4) 再履修について

Semester毎に決められた英語必修科目の単位が修得できなかった場合は、次Semester以降に再履修クラスを履修します。

(5) 履修上の注意事項

英語必修科目は、Semester毎に設けているTOEIC IP (学内受験) を受験し、そのスコアによって自動的に上位のクラスに上がります。クラス変更の結果は、新学期の開始前に電子掲示板POST等にて連絡します。

(6) 外国人留学生を対象とした言語教育科目について

<履修パターン>

1 セメスター	2 セメスター
日本語科目 (4単位・必修)	日本語科目 (4単位・必修)

※上記履修パターンによる履修は、推奨される履修方法であり、1セメスター・2セメスターで必修科目が修得できなかった場合は、3セメスターから卒業までの間に必修科目を修得する必要があります。

<日本語科目>

単位数：1単位 (※「留学生のための日本事情」除く)

配当年次：1年次

対象者	レベル	必修・選択別	科目名										
正規学部留学生	7	選択	日本語コミュニケーション (話す/聞く) I/II	日本語コミュニケーション (読む/書く) I/II	上級日本語3 (ビジネス) I/II	上級日本語3 (文章表現) I/II							
	6	必修	上級日本語2 (語彙・読解) I/II	上級日本語2 (文章表現) I/II	上級日本語2 (口頭表現) I/II	上級日本語2 (聴解) I/II		【選択】 検定で学ぶ日本語 (上級) I/II					
	5	必修	上級日本語1 (語彙・読解) I/II	上級日本語1 (文章表現) I/II	上級日本語1 (口頭表現) I/II	上級日本語1 (聴解) I/II			【選択】 実践日本語			【選択】 留学生のための日本事情 (2単位)	
	4	選択	中級日本語2 (語彙・読解) I/II	中級日本語2 (文法) I/II	中級日本語2 (口頭表現) I/II	中級日本語2 (聴解) I/II							
	3	選択	中級日本語1 (語彙・読解) I/II	中級日本語1 (文法) I/II	中級日本語1 (会話) I/II	中級日本語1 (聴解) I/II	中級日本語 (文字・表記) I/II	検定で学ぶ日本語 (中級) I/II					
非正規留学生	2	—		初級日本語2 (文法B) I/II		初級日本語2 (会話) I/II	初級日本語2 (読解) I/II						
				初級日本語2 (文法A) I/II									
	1	—		初級日本語1 (文法B) I/II	初級日本語1 (会話B) I/II			初級日本語 (文字・表記) I/II					
				初級日本語1 (文法A) I/II	初級日本語1 (会話A) I/II								
0	—			入門日本語 (会話B)									
					入門日本語 (会話A)								

※科目名のIは春学期科目、IIは秋学期科目を表し、それぞれ1単位

- ・外国人留学生とみなされる学生のみ履修できます。
- ・言語教育科目の最低修得単位数は、必修の「日本語」科目を8単位修得しなければなりません。
- ・ただし、入学時のプレイスメントテストの結果等により「日本語」科目を履修しない学生は、「日本語以外の言語 (母語以外)」を履修します。修得した単位は、卒業要件単位に算入します。
- ・レベル3～4の科目を正規学部留学生が履修する場合は、日本語担当教員からの履修許可が必要です。

※履修可能な科目は、履修要項別冊ガイドの授業科目一覧で確認してください。

◇英語資格試験等の単位認定制度（編・転入学生および英語を母語とする外国人留学生を除く）◇

この制度は、TOEIC、TOEFL、実用英語技能検定において下表に示す基準を満たしている場合、その学修に対して、単位を認定する制度です。

「1. 共通教育科目（英語教育科目）の必修科目に認定（上限6単位まで）」と、「2. 共通教育科目（英語教育科目）の選択科目に認定」の2つの制度があります。双方あわせて、最大8単位までしか認められません。

【認定科目・単位数一覧表】

種類	2単位	4単位	6単位	8単位	認定科目
TOEIC	520～595点	600～695点	700～795点	800点～	英語必修科目 (上限6単位まで) ※認定する単位数の余剰分については、「英語選択科目」で認定
TOEFL-ITP	477～500点	503～537点	540～570点	573点～	英語選択科目
TOEFL-iBT	53～61点	62～75点	76～88点	89点～	英語選択科目
実用英語技能検定	2級	準1級	—	1級	英語選択科目

1. 共通教育科目（英語教育科目）の必修科目での認定

①認定基準及び単位数

試験はTOEIC IP（学内受験）またはTOEIC（公開テスト）（国内受験）に限ります。

②認定科目の取扱い

- a. 対象者は、英語必修科目履修者のみです。
- b. TOEIC IP（学内受験）またはTOEIC（公開テスト）のスコアに基づき、共通教育科目の英語必修科目（「英語認定科目（必修科目）」）として認定します。
- c. 単位認定する科目は、高年次配当の英語必修科目から順次認定します。ただし、再履修科目がある場合は、再履修科目の低年次配当科目を先に認定します。
- d. 認定は、所定の申請をした学期末に認定します。
- e. 認定した科目の成績評価は、認定を表す「N」と表記して認定します。認定された科目はGPA算出の対象外とします。
- f. 同一基準でのスコアの重複認定はできませんが、上位基準のスコアによる追加認定は、既認定単位数を差し引いて認定します。

{	例	1年次	TOEIC IP（学内受験）	550点	2単位認定
		2年次	TOEIC（公開テスト）	600点	4単位該当
					差引き2単位追加認定

- g. 必修科目としての認定単位は、6単位を上限に卒業要件単位として算入します。余剰単位は、「英語認定科目（選択科目）」として認定します。
- h. 一旦認定された内容の変更・取消しはできません。

③申請期間

申請手続きおよび申請の受付期間は、電子掲示板POSTにてお知らせします。なお、TOEIC IP（学内受験）を受験された場合については、大学側でスコアを確認して単位認定を行います（本人申請不要）。

④提出書類

- a. 英語資格試験等に対する単位認定申請書
 - b. TOEIC（公開テスト）のスコアカードの原本とそのコピー
 - c. 最新の学業成績表のコピー（1年次春学期以外）
- ※TOEIC IP（学内受験）を受験された場合は、申請は不要です。

⑤有効期限

TOEIC（公開テスト）のスコアの有効期限は、取得後2年以内とします（入学前に取得したスコアは単位認定の対象外）。

2. 共通教育科目（英語教育科目）の選択科目としての認定

①認定基準及び単位数（試験は国内受験に限る）

前頁【認定科目・単位数一覧表】参照

②認定科目の取扱い

- a. ①の認定基準及び単位数に基づき、共通教育科目の「英語認定科目」（選択科目）として認定します。
- b. 認定した科目の成績評価は、認定を表す「N」と表記して認定します。認定された科目はGPA算出の対象外とします。
- c. 同一基準での資格・スコアの重複認定はできませんが、上位基準の資格やスコアによる追加認定は、既認定単位数を差し引いて認定することができます。

例	1年次	実用英語技能検定	2級	2単位申請・認定
	3年次	TOEFL-ITP	532点	4単位該当
				差し引き2単位追加認定

- d. 「英語認定科目（必修科目）」の認定における余剰単位数は、「英語認定科目（選択科目）」として認定します。こちらについても、上位基準の資格やスコアによる追加認定は、既認定単位数を差し引いて認定します。
- e. 認定単位数は、「英語認定科目（必修科目）（上限6単位まで）」と「英語認定科目（選択科目）」を合わせて8単位を限度に卒業要件単位として算入します。
- f. 一旦認定した科目の変更・取消しはできません。

③申請期間

申請手続きおよび申請の受付期間は、電子掲示板POSTにてお知らせします。なお、申請した科目の単位認定は、各学期末とします。

④提出書類

- a. 英語資格試験等に対する単位認定申請書
- b. TOEIC（公開テスト）またはTOEFLのスコアカード（TOEFL-iBT、TOEFL-ITPを含む）、実用英語技能検定合格証書の原本とコピー
- c. 最新の学業成績表のコピー（1年次春学期以外）

※TOEIC IP（学内受験）を受験された場合は、申請は不要です。

⑤有効期限

TOEIC（公開テスト）・TOEFLのスコアの有効期限は、取得後2年以内とします（入学前に取得したTOEIC（公開テスト）のスコアは単位認定の対象外）。

3. 体育教育科目

体育教育科目は、「講義科目」「実習科目」「演習科目」に区分しています。

(1) 「健康科学実習」

登録はコンピュータ抽選により教職希望者を優先して決定します。

医師の指導等により運動が制限されている学生と、そのサポートを中心としたボランティア学習を希望する学生を対象としたクラス（Hクラス）を設けています。Hクラスの履修希望者は、所属事務室に申し出て登録の手続きをしてください。

(2) 「スポーツ科学実習A」「スポーツ科学実習B」

科目名に競技名を表す副題がついています。

副題が異なっても「スポーツ科学実習A」「スポーツ科学実習B」は、それぞれ1科目しか履修できません。

(3) 「健康科学演習A」「健康科学演習B」

科目名に副題がついています。

副題が異なっても「健康科学演習A」「健康科学演習B」は、それぞれ1科目しか履修できません。

(4) 「スポーツ科学演習A」「スポーツ科学演習B」

科目名に副題がついています。

副題が異なっても「スポーツ科学演習A」「スポーツ科学演習B」は、それぞれ1科目しか履修できません。

(5) スポーツ指導者育成科目

日本体育協会ではスポーツ振興の一環として、各種指導者認定を行い競技スポーツや地域スポーツの指導者育成事業を行っています。この資格を取得した者は、将来地域のスポーツクラブの指導者として、また特定競技の基礎的・専門的指導者として活動できることとなります。

将来地域スポーツ指導者としての資格を取得するため、日本体育協会が認定するスポーツリーダー、指導員、上級指導員、ジュニアスポーツ指導者、スポーツプログラマー、コーチ、教師およびアスレティックトレーナー養成のための科目を開設しております。

これらの資格を取得するためには、日本体育協会が定めた「共通科目」と「専門科目」を修了する必要があります。

ただし、スポーツリーダーは、「共通科目」のみ修了すれば資格が得られます。

本学では、日本体育協会との協定により次表○印の8科目すべてを卒業までに単位取得し、日本体育協会へ申請（卒業年度に申請）すれば、「スポーツリーダー」「指導員」「上級指導員」「ジュニアスポーツ指導員」または「スポーツプログラマー」の「共通科目」の講習と試験免除が受けられ、修了証明書が発行（要審査料）されます。

また、○と◎印の10科目すべてを卒業までに単位取得し、日本体育協会へ申請（卒業年度に申請）すれば、上記の資格の他に「コーチ」「教師」および「アスレティックトレーナー」の「共通科目」の講習と試験免除が受けられ、修了証明書が発行（要審査料）されます。

そして、卒業後、各都道府県が実施する「指導員」「上級指導員」「ジュニアスポーツ指導員」「スポーツプログラマー」「コーチ」「教員」および「アスレティックトレーナー」の「専門科目」（競技種目・都道府県により設定が異なる）を受講し修了すれば、それぞれの資格が得られます。

■スポーツリーダー

地域におけるスポーツグループやサークルなどのリーダーとして、基礎的なスポーツ指導や運営にあたる。

■指導員（旧C級スポーツ指導員）

地域スポーツクラブ等において、スポーツに初めて出会う子供たちや初心者を対象に、競技別の専門的知識を活かし、個々人の年齢や性別などの対象に合わせた指導にあたる。

特に発育発達期の子供に対しては、総合的な動き作りに主眼を置き、遊びの要素を取り入れた指導や地域スポーツクラブ等が実施するスポーツ教室の指導にあたる。

■上級指導員（旧B級スポーツ指導員）

地域スポーツクラブ等において、年齢、競技レベルに応じた指導にあたる。

事業計画の立案などクラブ内指導者の中心的な役割や地域スポーツクラブ等が実施するスポーツ教室の指導において中心的な役割を担う。

広域スポーツセンターや市町村エリアにおいて競技別指導にもあたる。

■ジュニアスポーツ指導員

地域スポーツクラブ等において、幼・少年期の子どもたちに遊びを通した身体づくり、動き作りの指導を行う。

■スポーツプログラマー

主として青年期以降のすべての人に対し、地域スポーツクラブなどにおいて、フィットネスの維持や向上のための指導・助言を行う。

■コーチ

地域や広域スポーツセンターにおいて、有望な競技者育成のため、より高いレベルの実技指導を行う。

■教師

商業スポーツ施設等において、競技別の専門的指導者として質の高い実技指導を行う。

会員（顧客）が満足できるよう、個々人の年齢や性別、技能レベルやニーズなどに合わせたサービスを提供する。

※この教師は、教育職員免許法に定められた保健体育の教員とは異なります。

■アスレティックトレーナー

スポーツドクターおよびコーチと緊密な協力のもとに、競技者の健康管理、障害予防、スポーツ外傷・傷害の救急措置、アスレティックリハビリテーション及びトレーニング、コンディショニング等にあたる。

※詳細については、春学期及び秋学期の履修登録期間中に説明会を開催いたします。

スポーツ指導者育成科目

本学の開設科目（体育教育科目）		日本体育協会講習科目	
○	スポーツの心理	共通Ⅱ	スポーツの心理Ⅰ
		共通Ⅲ	スポーツの心理Ⅱ
○	スポーツ指導論	共通Ⅰ	指導者の役割Ⅰ
			指導計画と安全管理
		共通Ⅲ	指導者の役割Ⅱ
			競技者育成のための指導法
○	スポーツ医学Ⅰ	共通Ⅰ	スポーツ指導者に必要な医学的知識Ⅰ
○	スポーツマネジメント	共通Ⅰ	文化としてのスポーツ
		共通Ⅱ	スポーツと法
			スポーツ組織の運営と事業
○	スポーツと栄養	共通Ⅰ	スポーツと栄養
		共通Ⅲ	アスリートの栄養・食事
○	スポーツのスキル	共通Ⅰ	ジュニア期のスポーツ
		共通Ⅱ	対象に合わせたスポーツ指導
		共通Ⅲ	身体のしくみと働き
○	スポーツ社会学	共通Ⅰ	地域におけるスポーツ振興
		共通Ⅱ	社会の中のスポーツ
○	ウェイトトレーニングの理論と実際	共通Ⅰ	トレーニング論Ⅰ
◎	スポーツ医学Ⅱ	共通Ⅲ	スポーツ指導者に必要な医学的知識Ⅱ
◎	スポーツのトレーニング論	共通Ⅲ	トレーニング論Ⅱ

4. キャリア形成支援教育科目

キャリア形成支援教育科目では、社会で通用する根幹的実力の養成を目指して、豊かな人間の能力（ヒューマンスキル）、概念的・論理的能力（コンセプチュアルスキル）、技術的・実践的能力（テクニカルスキル）を総合的に育成していきます。

低学年次から発展的・体験的に受講することにより、理想の将来像を明らかにし、職業観・人生観を明確に定め、社会で実践する力をつけていくことができます。

● キャリア形成支援教育科目一覧

領域	科目群	1年次	2年次	3年次	4年次	
キャリア・プランニング領域	キャリアデザイン系		大学生活と進路選択	自己発見とキャリア・プラン		
			21世紀と企業の課題			
コワーキング領域	プロジェクト系	O/OCF-PBL 1	O/OCF-PBL 2	O/OCF-PBL 3		
		企業人と学生のハイブリッド				
	インターンシップ系	スタートアップ・インターンシップ				
				インターンシップ1(大学コンソーシアム京都主催科目)		
				インターンシップ2(大学コンソーシアム京都主催科目)		
				インターンシップ3(国内)		
				インターンシップ4(海外)		
フィールドワーク系			インターンシップ5(自己開拓型)			
			インターンシップ6(地域コ-オプ)			
リフレッシュ領域	Re-デザイン系	実践フィールドワーク				
		キャリア・Re-デザイン				

※表内の科目は平成29年度開講科目です。

キャリア形成支援教育科目の中から、2単位以上を修得しなければなりません。

「自己発見と大学生活」は、大学生活、その後の社会や仕事、働くことについて、受講生同士、担当教員と一緒に考える授業です。グループワーク等の「協働」を通じて、大学を自分の「Home」とする友人関係を築くこともできます。1年次の春学期しか受講することができません。ぜひ履修してください。

「自己発見と大学生活」以外にも多種多様な科目を展開しています。科目は、キャリア・プランニング領域、コワーキング領域、リフレッシュ領域の3領域に分類され、更に以下の5つの科目群に分かれます。

① キャリアデザイン系科目群

自分の将来を考え、進路選択につなげたい学生のための科目群。

② プロジェクト系科目群

プロジェクト方式での課題解決でチームワークを極めたい学生のための科目群。

③ インターンシップ系科目群

就業体験で自分の社会性を高めたい学生のための科目群。

④ フィールドワーク系科目群

フィールドワークで地域社会を学びの場にしたい学生のための科目群。

⑤ Re-デザイン系科目群

今の自分を客観視し、新たな第一歩を踏み出したい学生のための科目群。

※各科目には、様々な履修条件があります。卒業まで計画的に履修するようにしてください。

※各科目を履修する場合は、履修要項別冊ガイドおよびシラバスを必ず参照し、詳細を確認してください。

専門教育科目

1. 授業科目の概要について

【専攻〇〇語】

専攻語の基礎を学び、総合的なコミュニケーション能力を段階的に身に付けていくための科目です。1年次春学期にⅠ、同秋学期にⅡ、2年次春学期にⅢ、同秋学期にⅣと段階を追って内容が発展していきます。「会話」では専攻語の積極的なコミュニケーション能力を養成します。「総合」では専攻語の運用能力を総合的に向上させます。「構造」では文法を基礎に専攻語の言語体系を学びます。

【〇〇学入門】

ことばの背景にある各言語圏の文化や社会事情など、専攻語を4年間学んでいくために必要な入門的・基礎的知識を学びます。

【アジア言語基幹科目】

言語・文学・文化・歴史・社会・政治・経済等の観点からアジア言語圏の知識を広く学びます。

【情報〇〇語】

インターネットで情報を検索をしたり、コンピュータを活用したプレゼンテーションを行なうなど、専攻語を用いた情報処理能力を身に付けます。

【基礎演習】

大学で、そして外国語学部で学んでいくための基礎的な力を養成する授業です。具体的には、講義の聴き方、文献の読み方、情報収集の方法、レポートの書き方、効果的なプレゼンテーションの方法などを実践的に身に付けていきます。

【〇〇語海外実習】 【日本語教育実習】

専攻語をその言語圏で実際に使用することにより、異文化受容力を身に付けると同時に、1年間の初修言語への取り組みの成果を認識し、意欲をもって2年次以降の学修へつなぐことを目的とした科目です。教室での周到的な事前事後指導（1単位相当）と海外現地実習（2単位）を組み合わせ実施します。

日本語・コミュニケーション専攻では、模擬授業や本学の留学生クラスにおける授業を行う実習科目が3年次以降に用意されています。

【専攻基幹科目】

専攻言語圏の学問領域に関する中心的な授業科目群で、各言語圏が持つ言語・文学・文化・歴史・社会・政治・経済等についての知識を学びます。

【検定〇〇語（上級）】 【検定日本語教育】

専攻言語ごとに中～上級レベルの検定試験合格を目指します。日本語・コミュニケーション専攻では、日本語教育能力検定試験合格を目指します。

【〇〇専門セミナー】

卒業後の進路をも見据えた専門的テーマを設定し、テーマに対する理解を深めながら、4技能を融合させた総合的で高度な専攻語のコミュニケーション能力を養成していきます。

【アジア言語研究演習】

4年間にわたる学びの集大成として、これまで学んできた広範な専門的知識や語学力、多様なコミュニケーション技能を活用し、個々の専門的関心を掘り下げまとめあげます。3年次春学期にⅠ、同秋学期にⅡ、4年次春学期にⅢ、同秋学期にⅣと段階を追って学びを深めていきます。

【特別英語】

アジア言語学科では、英語の運用能力の向上にも力を注いでおり、実践的な英語学習を副専攻と位置づけています。

【関連科目】

各自が専攻する専門領域だけでなく、広く専門的教養を身に付けるために、他学科・他専攻の専門教育科目を学びたい場合、関連科目として履修できます。関連科目には、教科教育法など教職課程の科目も含まれています。

2. 専攻科目について

(1) 必修科目

次の科目を必修とします。不合格となった場合は、その不合格科目が開講される学期で優先的に履修してください。

〔中国語専攻、韓国語専攻、インドネシア語専攻〕

下記〇〇には、それぞれの専攻語名が入ります。「専攻〇〇語」と「基礎演習」は、あらかじめクラスが設定されています。自分がどのクラスに属するかはWeb履修登録画面で確認してください。

開講期	1年次配当		2年次配当	
	科目名	単位	科目名	単位
春	専攻〇〇語(会話)Ⅰ	2	専攻〇〇語(会話)Ⅲ	2
	専攻〇〇語(総合)Ⅰ	1	専攻〇〇語(総合)Ⅲ	1
	専攻〇〇語(構造)Ⅰ	2	専攻〇〇語(構造)Ⅲ	2
	〇〇学入門Ⅰ	2	情報〇〇語Ⅰ	1
	基礎演習	2		
秋	専攻〇〇語(会話)Ⅱ	2	専攻〇〇語(会話)Ⅳ	2
	専攻〇〇語(総合)Ⅱ	1	専攻〇〇語(総合)Ⅳ	1
	専攻〇〇語(構造)Ⅱ	2	専攻〇〇語(構造)Ⅳ	2
	〇〇学入門Ⅱ	2	情報〇〇語Ⅱ	1

〔日本語・コミュニケーション専攻〕

下記〇〇には、中国語・韓国語・インドネシア語の3言語から専攻語として選択した1言語が入ります。すべて同じ言語で修得しなければなりません。また、「専攻〇〇語」と「基礎演習」は、あらかじめクラスが設定されています。自分がどのクラスに属するかはWeb履修登録画面で確認してください。

開講期	1年次配当		2年次配当	
	科目名	単位	科目名	単位
春	専攻〇〇語(会話)Ⅰ ※	2	専攻〇〇語(会話)Ⅲ ※	2
	専攻〇〇語(総合)Ⅰ ※	1	専攻〇〇語(総合)Ⅲ ※	1
	専攻〇〇語(構造)Ⅰ ※	2	専攻〇〇語(構造)Ⅲ ※	2
	日本学入門Ⅰ	2	情報日本語Ⅰ	1
	基礎演習	2		
秋	専攻〇〇語(会話)Ⅱ ※	2	専攻〇〇語(会話)Ⅳ ※	2
	専攻〇〇語(総合)Ⅱ ※	1	専攻〇〇語(総合)Ⅳ ※	1
	専攻〇〇語(構造)Ⅱ ※	2	専攻〇〇語(構造)Ⅳ ※	2
	日本学入門Ⅱ	2	情報日本語Ⅱ	1

ただし、日本語・コミュニケーション専攻に所属する留学生の専攻言語は「日本語」になります。専攻語として、「専攻〇〇語」(上記※印の科目)ではなく以下の科目を修得しなければなりません。

開講期	1年次配当		2年次配当	
	科目名	単位	科目名	単位
春	インテンシブ日本語AⅠ	1	インテンシブ日本語AⅢ	1
	インテンシブ日本語BⅠ	1	インテンシブ日本語BⅢ	1
	インテンシブ日本語CⅠ	1	インテンシブ日本語CⅢ	1
秋	インテンシブ日本語AⅡ	1	インテンシブ日本語AⅣ	1
	インテンシブ日本語BⅡ	1	インテンシブ日本語BⅣ	1
	インテンシブ日本語CⅡ	1	インテンシブ日本語CⅣ	1

(2) 選択必修科目

【アジア言語基幹科目】

「アジア言語基幹科目」のなかから、4単位以上を修得しなければなりません。

【専攻基幹科目】

所属する専攻の「専攻基幹科目」のなかから、12単位以上を修得しなければなりません。

ただし、日本語・コミュニケーション専攻に所属する留学生は、16単位以上の単位を修得しなければなりません。

【海外実習、検定〇〇語（上級）、専門セミナー】〔中国語専攻、韓国語専攻、インドネシア語専攻〕

所属する専攻の「〇〇語海外実習」（1年次担当）、「検定〇〇語（上級）」（2年次担当）、「〇〇語専門セミナー」（3年次担当）のなかから、8単位以上を修得しなければなりません。

【日本語教育実習、検定日本語教育、専門セミナー】〔日本語・コミュニケーション専攻〕

「日本語教育実習」（3年次担当）、「検定日本語教育」（2年次担当）、「日本語・コミュニケーション専門セミナー」（3年次担当）のなかから、8単位以上を修得しなければなりません。

ただし、日本語・コミュニケーション専攻に所属する留学生は、日本語教育実習、検定日本語教育、日本語・コミュニケーション専門セミナーのなかから、12単位以上を修得しなければなりません。

◎注意事項 1

各言語における海外実習は、1年次末の春休みに海外の大学で、約3週間の語学研修を受ける科目です。

履修にあたっては、春学期に開催する説明会に必ず出席し、履修方法等を確認してください。

◎注意事項 2

日本語・コミュニケーション専攻生は、選択科目として、他専攻の「海外実習」「検定〇〇語（上級）」「〇〇語専門セミナー」を履修することができます。

◎注意事項 3

留学生の母語に関する科目の履修については、当該科目の担当教員に相談してください。

【アジア言語研究演習】

以下の「アジア言語研究演習」は、4単位以上を修得しなければなりません。

科目名	単位	配当年次	開講期	備考
アジア言語研究演習Ⅰ	2	3	春	研究演習は、あらかじめ希望するクラスの応募を行い、選考により決定します。募集案内については2年次の秋学期に電子掲示板POSTにて発表します。 原則同一教員で、研究演習Ⅳまでの履修を推奨します（研究演習Ⅰを修得後は、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳと自動登録されます）。
アジア言語研究演習Ⅱ	2	3	秋	
アジア言語研究演習Ⅲ	2	4	春	
アジア言語研究演習Ⅳ	2	4	秋	

履修にあたり、次の条件が設定されています。

- ・研究演習の選択必修4単位修得にあたっては、所属学科の研究演習を履修しなければなりません。
- ・研究演習はⅠからⅣへと段階を追って学ぶため、Ⅰが修得できなかった場合、それに続く秋学期のⅡを履修することはできません（在学留学を除く）。同じく、Ⅱが修得できなかった場合、Ⅲを履修することはできません。
- ・同一教員のクラスを連続で履修していきますが、在学留学・休学等の理由で、連続履修ができない場合は、事前に外国語学部事務室で相談してください。
- ・所属学科の研究演習ⅠとⅢを同時に履修することはできません。
- ・所属学科以外の研究演習Ⅰ～Ⅳは選択科目として履修することができます。ただし、各セメスターに履修できる研究演習は最大2つまでです。

3. 英語科目について

【特別英語】

「特別英語」のなかから、10単位以上を修得しなければなりません。

「特別英語」には、1単位科目と2単位科目があります。単位修得にあたっては、1単位科目を4科目以上修得しなければなりません。

また、科目により履修条件（クラス定員やレベル）が指定されています。詳しくは、履修要項別冊ガイド、シラバス等で確認してください。

なお、下記の科目は、英語教員免許取得のために必要な科目として指定しています。英語教員免許取得希望者が履修した場合には、特別英語の選択必修10単位には算入できません。

科目名	単位	配当年次	備考
特別英語（英語プレゼンテーションⅠ）	1	1	教職課程の「教科に関する科目」として修得した場合も、卒業要件単位に算入することができます。
特別英語（英語プレゼンテーションⅡ）			
特別英語（多読多聴Ⅰ）	2		
特別英語（多読多聴Ⅱ）			

4. 関連科目について

関連科目は、選択科目です。「教科教育法科目」のほか、他学科・専攻の「専門教育科目」を履修し修得した場合は、関連科目に区分されます。ただし、他学科・専攻の必修科目は履修できません。

5. 日本語教員養成プログラムについて

(1) 目的

日本語教員養成プログラムは、外国語学部アジア言語学科日本語・コミュニケーション専攻生のためのプログラムです。

このプログラムは、日本語を母語としない人々（主に外国人）に対して日本語を教える教員（以下日本語教員）になるために必要な教育を行うプログラムです（免許状を取得するための課程ではありません。また、日本語教員は、教育職員免許法によって定められた国語の教員とは異なりますので、注意してください）。

近年、日本に來住する外国人、外国にルーツやつながりを持つ人たちが増加しています。また、外国においては日本に対して興味・関心を持つ人たちが増え、それに伴って日本語学習熱も高まりつつあります。このような国内外の状況の中で、日本語教員には、日本語を母語としない人々に日本語を教えるための専門的な知識や能力、経験が求められています。これに対応すべく、本プログラムが設けられています。

将来、日本語教員を目指している人は、このプログラムで専門的な教育を受けることを推奨します。

(2) プログラム登録条件

外国語学部アジア言語学科日本語・コミュニケーション専攻に所属する学生に限ります。

プログラム登録に関する詳細は、春学期に実施する説明会に出席し、確認してください。説明会開催は電子掲示板POSTにて案内します。

(3) 単位修得証明書

日本語教員養成プログラムの所定の授業科目及び単位を修得した者には、本学から「日本語教員養成プログラム単位修得証明書」を卒業時に発行します。

ただし、この証明書は、卒業時にのみ発行されるものであり、卒業後に科目等履修生として不足単位を充当して証明書発行の条件を満たしても、同証明書は発行されません。

(4) 日本語教員養成プログラム最低修得単位数（単位修得証明書発行基準）

日本語教員として最低限必要となる専門的な知識や能力、経験を身につけるための教育内容は、①社会・文化・地域、②言語と社会、③言語と心理、④言語と教育、⑤言語に区分されています。以下に示す区分ごとの最低修得単位数と合計最低修得単位数を満たすことが証明書の発行基準となります。各自で計画を立てて履修してください。

区分	最低修得単位数（単位修得証明書発行基準）	
社会・文化・地域	選択必修4単位以上	45単位以上
言語と社会	選択必修4単位以上	
言語と心理	選択必修4単位以上	
言語と教育	必修14単位	
言語	必修12単位	

(5) 日本語教員養成プログラム構成科目

区分	必修の科目	選択必修の科目	単位	年次	開講(学科)区分	備考
社会・文化・地域		アジアの文学と文化	2	1	アジア言語学科	
		アジアの社会と歴史	2	1	アジア言語学科	
		アジアの政治と経済	2	1	アジア言語学科	
		日本学入門Ⅰ	2	1	アジア言語学科	注1)
		日本学入門Ⅱ	2	1	アジア言語学科	注1)
		日本語教育史	2	2	アジア言語学科	
言語と社会		社会言語学Ⅰ	2	2	英語学科	
		社会言語学Ⅱ	2	2	英語学科	
		日本の社会学Ⅰ	2	2	英語学科	
		日本の社会学Ⅱ	2	2	英語学科	
		異文化コミュニケーションⅠ	2	2	ヨーロッパ言語学科	
		異文化コミュニケーションⅡ	2	2	ヨーロッパ言語学科	
		共生のための日本語演習	2	3	アジア言語学科	注2)
言語と心理		心理言語学Ⅰ	2	2	英語学科	
		心理言語学Ⅱ	2	2	英語学科	
		応用言語学Ⅰ	2	2	英語学科	
		応用言語学Ⅱ	2	2	英語学科	
		異文化理解概論	2	2	アジア言語学科	
言語と教育	日本語教育概論Ⅰ		2	2	アジア言語学科	
	日本語教育概論Ⅱ		2	2	アジア言語学科	
	日本語教授法Ⅰ		2	2	アジア言語学科	
	日本語教授法Ⅱ		2	2	アジア言語学科	
	検定日本語教育Ⅰ		2	2	アジア言語学科	
	検定日本語教育Ⅱ		2	2	アジア言語学科	
	日本語教育実習		2	3	アジア言語学科	注1)
		情報日本語Ⅰ	1	2	アジア言語学科	注1)
		情報日本語Ⅱ	1	2	アジア言語学科	注1)
		日本語教材開発論	2	2	アジア言語学科	
		日本語・コミュニケーション専門セミナー(異文化コミュニケーション論)Ⅰ	2	3	アジア言語学科	注1)
		日本語・コミュニケーション専門セミナー(異文化コミュニケーション論)Ⅱ	2	3	アジア言語学科	注1)
	日本語・コミュニケーション専門セミナー(日本語教育方法論)Ⅰ	2	3	アジア言語学科	注1)	
	日本語・コミュニケーション専門セミナー(日本語教育方法論)Ⅱ	2	3	アジア言語学科	注1)	
言語	言語学概論Ⅰ		2	2	アジア言語学科	
	言語学概論Ⅱ		2	2	アジア言語学科	
	日本語学概論Ⅰ		2	2	アジア言語学科	
	日本語学概論Ⅱ		2	2	アジア言語学科	
	日本語文法Ⅰ		2	2	アジア言語学科	
	日本語文法Ⅱ		2	2	アジア言語学科	
		アジアの言語	2	2	アジア言語学科	
		対照言語学	2	2	アジア言語学科	
		日本語音声学	2	2	アジア言語学科	
		日本語・コミュニケーション専門セミナー(現代日本語論)Ⅰ	2	3	アジア言語学科	注1)
		日本語・コミュニケーション専門セミナー(現代日本語論)Ⅱ	2	3	アジア言語学科	注1)

注1) 日本語・コミュニケーション専攻生のみ履修可能です。

注2) 日本語・コミュニケーション専攻生および「多文化共生の地域づくりプログラム」登録者のみ履修可能です。

※卒業要件に係る履修科目の単位の扱いは、履修規程を確認してください。

各科目の授業内容・開講期間等詳細は、シラバスおよび履修要項別冊ガイドの授業科目一覧で確認してください。

構成科目に変更が生じたときには、電子掲示板POSTにてお知らせします。

(6) 日本語教員を目指す方々へ

日本語教員になるために、教員免許状のような特別な資格は必要ありませんが、専門的な学習、研究、経験が必要です。

将来、日本語教員を目指している人は、日本語教員養成プログラムを履修することに加えて、積極的に下記の検定試験を受験することを勧めます。

◇日本語教育能力検定試験

この試験は、日本語教員としての知識及び能力が必要とされる水準に達しているかどうかを検定することを目的として、昭和62年から毎年1回、10月下旬に実施されています。

試験の詳細については、公益財団法人日本国際教育支援協会ホームページ内、日本語教育能力検定試験ホームページ<<http://www.jees.or.jp/jltct/>>で確認してください。

カリキュラムの概要

当該年度における各授業科目の休講等は、履修要項別冊ガイドの授業科目一覧で確認してください。

※ の科目は、英語による授業科目です。

年次 区分	1 年 次		2 年 次			
専攻科目 選択必修	必修	専攻〇〇語(会話)Ⅰ(2) 専攻〇〇語(総合)Ⅰ(1) 専攻〇〇語(構造)Ⅰ(2)	専攻〇〇語(会話)Ⅱ(2) 専攻〇〇語(総合)Ⅱ(1) 専攻〇〇語(構造)Ⅱ(2)	専攻〇〇語(会話)Ⅲ(2) 専攻〇〇語(総合)Ⅲ(1) 専攻〇〇語(構造)Ⅲ(2)	専攻〇〇語(会話)Ⅳ(2) 専攻〇〇語(総合)Ⅳ(1) 専攻〇〇語(構造)Ⅳ(2)	
		〔日本語・コミュニケーション専攻に所属する留学生〕 インテンシブ日本語AⅠ(1) インテンシブ日本語BⅠ(1) インテンシブ日本語CⅠ(1) 〇〇学入門Ⅰ(2)		インテンシブ日本語AⅡ(1) インテンシブ日本語BⅡ(1) インテンシブ日本語CⅡ(1) 〇〇学入門Ⅱ(2)		
	専攻科目 選択必修	中国語専攻	専攻基幹 科目	中国語学概論Ⅰ(2) 中国語学概論Ⅱ(2) 中国語学AⅠ(2) 中国語学AⅡ(2) 中国文化概論Ⅰ(2) 中国文化概論Ⅱ(2) 中国文化論AⅠ(2) 中国文化論AⅡ(2)	広東語とその言語社会Ⅰ(2) 広東語とその言語社会Ⅱ(2) 異文化理解概論(2)	
			海外実習、検定、 専門セミナー	中国語海外実習(3)	検定中国語(上級)Ⅰ(1) 検定中国語(上級)Ⅱ(1)	
		韓国語専攻	専攻基幹 科目	韓国語学概論Ⅰ(2) 韓国語学概論Ⅱ(2) 韓国語学A(2) 韓国語学B(2)		
			海外実習、検定、 専門セミナー	韓国語海外実習(3)	検定韓国語(上級)Ⅰ(1) 検定韓国語(上級)Ⅱ(1)	
		インドネシア語専攻	専攻基幹 科目	インドネシア語学概論Ⅰ(2) インドネシア語学概論Ⅱ(2) インドネシア語学A(2) インドネシア文化論A(2) インドネシア文化論B(2)		
			海外実習、検定、 専門セミナー	インドネシア語海外実習(3)	検定インドネシア語(上級)Ⅰ(1) 検定インドネシア語(上級)Ⅱ(1)	
		日本語・コミュニケーション専攻	専攻基幹 科目	言語学概論Ⅰ(2) 言語学概論Ⅱ(2) 日本語学概論Ⅰ(2) 日本語学概論Ⅱ(2) 日本語教材開発論(2) 日本語音声学(2)		
			教育実習、検定、 専門セミナー		検定日本語教育Ⅰ(2) 検定日本語教育Ⅱ(2)	
研究演習						
英語科目 選択必修	特別英語	特別英語(ディスカッション英語上級Ⅰ)(1) 特別英語(ディスカッション英語中級Ⅰ)(1) 特別英語(サイエンスプレゼンテーションⅠ)(1) 特別英語(英語エッセイチャレンジⅠ)(1) 特別英語(留学英語IELTSⅠ)(1) 特別英語(多読入門Ⅰ)(1) 特別英語(メール英語Ⅰ)(1) 特別英語(教室英語Ⅰ)(1) 特別英語(英語圏スタディーズA)(1) 特別英語(アカデミックライティングⅠ)(2) 特別英語(アカデミックリーディング・自然系Ⅰ)(2) 特別英語(自然系リーディングⅠ)(2) 特別英語(オセアニア・スタディーズⅠ)(2) 特別英語(ヨーロッパ・スタディーズⅠ)(2) 特別英語(インタラクティブ・イングリッシュ初級ⅠA)(1) 特別英語(アクティブ・リスニング初級(音楽)Ⅰ)(1) 特別英語(地域スタディーズ・アジアⅠ)(1) 特別英語(Creative Writing and StorytellingⅠ)(2)	特別英語(ディスカッション英語上級Ⅱ)(1) 特別英語(ディスカッション英語中級Ⅱ)(1) 特別英語(サイエンスプレゼンテーションⅡ)(1) 特別英語(英語エッセイチャレンジⅡ)(1) 特別英語(留学英語IELTSⅡ)(1) 特別英語(多読入門Ⅱ)(1) 特別英語(メール英語Ⅱ)(1) 特別英語(教室英語Ⅱ)(1) 特別英語(英語圏スタディーズB)(1) 特別英語(アカデミックライティングⅡ)(2) 特別英語(アカデミックリーディング・自然系Ⅱ)(2) 特別英語(自然系リーディングⅡ)(2) 特別英語(オセアニア・スタディーズⅡ)(2) 特別英語(ヨーロッパ・スタディーズⅡ)(2) 特別英語(インタラクティブ・イングリッシュ初級ⅡA)(1) 特別英語(アクティブ・リスニング初級(音楽)Ⅱ)(1) 特別英語(地域スタディーズ・アジアⅡ)(1) 特別英語(Creative Writing and StorytellingⅡ)(2)	特別英語(ディベート英語上級Ⅰ)(1) 特別英語(英語プレゼンテーションⅠ)(1) 特別英語(ニュース英語Ⅰ)(1) 特別英語(英語の構造中級Ⅰ)(1) 特別英語(発音クリニックⅠ)(1) 特別英語(アクティブ・リスニング初級Ⅰ)(1) 特別英語(英語基礎ルールⅠ)(1) 特別英語(留学英語PBTⅠ)(1) 特別英語(英語圏スタディーズC)(1) 特別英語(アカデミックリーディング・人文系Ⅰ)(2) 特別英語(人文系リーディングⅠ)(2) 特別英語(長期留学前準備)(2) 特別英語(アジア・スタディーズⅠ)(2) 特別英語(多読多聴Ⅰ)(2) 特別英語(インタラクティブ・イングリッシュ初級ⅠB)(1) 特別英語(ロールプレイ初級Ⅰ)(1) 特別英語(Politics and HistoryⅠ)(2) 特別英語(英語サマーキャンプ)(1)		
		特別英語(ディスカッション英語上級Ⅱ)(1) 特別英語(ディスカッション英語中級Ⅱ)(1) 特別英語(サイエンスプレゼンテーションⅡ)(1) 特別英語(英語エッセイチャレンジⅡ)(1) 特別英語(留学英語IELTSⅡ)(1) 特別英語(多読入門Ⅱ)(1) 特別英語(メール英語Ⅱ)(1) 特別英語(教室英語Ⅱ)(1) 特別英語(英語圏スタディーズB)(1) 特別英語(アカデミックライティングⅡ)(2) 特別英語(アカデミックリーディング・自然系Ⅱ)(2) 特別英語(自然系リーディングⅡ)(2) 特別英語(オセアニア・スタディーズⅡ)(2) 特別英語(ヨーロッパ・スタディーズⅡ)(2) 特別英語(インタラクティブ・イングリッシュ初級ⅡB)(1) 特別英語(アクティブ・リスニング初級(音楽)Ⅱ)(1) 特別英語(地域スタディーズ・アジアⅡ)(1) 特別英語(Creative Writing and StorytellingⅡ)(2)				
選択		英語科教育法1(2) 英語科教育法2(2) 英語科教育法3(2) 英語科教育法4(2)				

()内は単位数

3年次		4年次		卒業要件単位数			
				20単位	各専攻で左記に指定したとおり合計20単位以上修得すること(留学生は28単位)		
				12単位			
				4単位			
				2単位			
				2単位			
				4単位以上			
アジアの英語(2)							
中国語学B I(2) 中国語学B II(2) 中国文学概論I(2) 中国文学概論II(2) 中国文学A I(2) 中国文学A II(2) 中国文学B I(2) 中国文学B II(2) 中国文化論B I(2) 中国文化論B II(2) 中国文化論C I(2) 中国文化論C II(2)				12単位以上			
捜査通訳演習(中国語)(2) 法廷通訳・翻訳演習(中国語)(2)							
中国語専門セミナー(時事中国語)I(2) 中国語専門セミナー(時事中国語)II(2) 中国語専門セミナー(映像で学ぶ中国語表現)I(2) 中国語専門セミナー(映像で学ぶ中国語表現)II(2) 中国語専門セミナー(通訳訓練 理論と実践)I(2) 中国語専門セミナー(通訳訓練 理論と実践)II(2) 中国語専門セミナー(文学作品)I(2) 中国語専門セミナー(文学作品)II(2) 中国語専門セミナー(討論のための中国語)I(2) 中国語専門セミナー(討論のための中国語)II(2) 中国語専門セミナー(聴解)I(2) 中国語専門セミナー(聴解)II(2)				8単位以上			
韓国文学・文化概論I(2) 韓国文学・文化概論II(2) 韓国文学A(2) 韓国文学B(2) 韓国文化論A(2) 韓国文化論B(2)				12単位以上			
捜査通訳演習(韓国語)(2) 法廷通訳・翻訳演習(韓国語)(2)							
韓国語専門セミナー(時事韓国語)I(2) 韓国語専門セミナー(時事韓国語)II(2) 韓国語専門セミナー(映画・ドラマ)I(2) 韓国語専門セミナー(映画・ドラマ)II(2) 韓国語専門セミナー(文学作品)I(2) 韓国語専門セミナー(文学作品)II(2) 韓国語専門セミナー(通訳・翻訳理論と訓練)I(2) 韓国語専門セミナー(通訳・翻訳理論と訓練)II(2)				8単位以上			
インドネシア語学B(2) インドネシア文学・文化概論I(2) インドネシア文学・文化概論II(2) インドネシア文学A(2) インドネシア文学B(2)				12単位以上			
インドネシア語専門セミナー(比較文化論)I(2) インドネシア語専門セミナー(比較文化論)II(2) インドネシア語専門セミナー(現代社会論)I(2) インドネシア語専門セミナー(現代社会論)II(2) インドネシア語専門セミナー(民族文化論)I(2) インドネシア語専門セミナー(民族文化論)II(2) インドネシア語専門セミナー(異文化コミュニケーション論)I(2) インドネシア語専門セミナー(異文化コミュニケーション論)II(2)				8単位以上			
日本語教育概論I(2) 日本語教育概論II(2) 日本語教授法I(2) 日本語教授法II(2) 日本語文法I(2) 日本語文法II(2) 日本語教育史(2) 対照言語学(2)				12単位以上			
共生のための日本語演習(2)							
日本語教育実習(2)							
日本語・コミュニケーション専門セミナー(現代日本語論)I(2) 日本語・コミュニケーション専門セミナー(現代日本語論)II(2) 日本語・コミュニケーション専門セミナー(異文化コミュニケーション論)I(2) 日本語・コミュニケーション専門セミナー(異文化コミュニケーション論)II(2) 日本語・コミュニケーション専門セミナー(日本語教育方法論)I(2) 日本語・コミュニケーション専門セミナー(日本語教育方法論)II(2) 日本語・コミュニケーション専門セミナー(手話コミュニケーション論)I(2) 日本語・コミュニケーション専門セミナー(手話コミュニケーション論)II(2) 日本語・コミュニケーション専門セミナー(留学生対象:日本語スキル)I(2) 日本語・コミュニケーション専門セミナー(留学生対象:日本語スキル)II(2)				留学生は16単位 留学生は12単位			
アジア言語研究演習I(2)		アジア言語研究演習II(2)		アジア言語研究演習III(2) アジア言語研究演習IV(2)			
特別英語(ディベート英語上級II)(1) 特別英語(英語プレゼンテーションII)(1) 特別英語(ニュース英語II)(1) 特別英語(英語の構造中級II)(1) 特別英語(発音クリニックII)(1) 特別英語(アクティブ・リスニング初級II)(1) 特別英語(英語基礎ルールII)(1) 特別英語(留学英語PBTII)(1) 特別英語(英語圏スタディーズD)(1) 特別英語(アカデミックリーディング・人文系II)(2) 特別英語(人文系リーディングII)(2) 特別英語(長期留学後総括)(2) 特別英語(アジア・スタディーズII)(2) 特別英語(多読多聴II)(2) 特別英語(インタラクティブ・イングリッシュ初級IB)(1) 特別英語(ロールプレイ初級II)(1) 特別英語(Politics and HistoryII)(2)				特別英語(英語の構造上級I)(1) 特別英語(ビジネスプレゼンテーションI)(1) 特別英語(アクティブ・リスニングI)(1) 特別英語(留学英語iBTI)(1) 特別英語(アクティブ・スピーキング初級I)(1) 特別英語(SNS英語I)(1) 特別英語(英語基礎訓練I)(1) 特別英語(短期留学前準備)(1) 特別英語(英語圏スタディーズE)(1) 特別英語(アカデミックリーディング・社会系I)(2) 特別英語(社会系リーディングI)(2) 特別英語(北米スタディーズI)(2) 特別英語(英国スタディーズI)(2) 特別英語(インタラクティブ・イングリッシュI)(2) 特別英語(アクティブ・スピーキングI)(1) 特別英語(地域スタディーズ・ヨーロッパI)(1) 特別英語(Gender StudiesI)(2)		特別英語(英語の構造上級II)(1) 特別英語(ビジネスプレゼンテーションII)(1) 特別英語(アクティブ・リスニングII)(1) 特別英語(留学英語iBTII)(1) 特別英語(アクティブ・スピーキング初級II)(1) 特別英語(SNS英語II)(1) 特別英語(英語基礎訓練II)(1) 特別英語(短期留学後総括)(1) 特別英語(英語圏スタディーズF)(1) 特別英語(アカデミックリーディング・社会系II)(2) 特別英語(社会系リーディングII)(2) 特別英語(北米スタディーズII)(2) 特別英語(英国スタディーズII)(2) 特別英語(インタラクティブ・イングリッシュII)(2) 特別英語(アクティブ・スピーキングII)(1) 特別英語(地域スタディーズ・ヨーロッパII)(1) 特別英語(Gender StudiesII)(2)	
中国語科教育法1(2) 中国語科教育法2(2) 中国語科教育法3(2) 中国語科教育法4(2)							

80単位以上

共通教育科目21単位・融合教育科目・専門教育科目80単位を含め、124単位以上

履 修 方 法

国 際 関 係 学 科

履修規定

1. 卒業に必要な最低修得単位数

卒業するためには、4年以上在学し、次の科目区分に従って、124単位以上修得しなければなりません。

科目区分			最低修得単位数			
共通教育科目	人間科学教育科目	選択必修	人文科学(注1)	4単位	24単位以上	
			自然科学(注1)	4単位		
		選択				
	言語教育科目	選択必修	(注2)	4単位		
		選択				
体育教育科目	選択					
キャリア形成支援教育科目	選択必修		2単位以上			
	選択					
融合教育科目		選択	(注3)		124単位	
専門教育科目	専攻科目	必修	基礎演習	2単位		80単位以上
			国際関係基礎演習、国際関係演習	6単位		
			海外フィールド・リサーチ	3単位		
		選択必修	国際関係科目(注4)	10単位以上		
			トランスナショナル科目	2単位以上		
			地域科目	2単位以上		
			国際関係研究演習	4単位以上		
選択						
英語科目	必修	インテンシブ国際関係英語	20単位			
		情報国際関係英語	2単位			
		国際関係英語	12単位			
	選択必修	特別英語(注5)	4単位以上			
	選択					
関連科目	選択	教科教育法科目 他学科・専攻専門教育科目				

(注1) 人文科学領域・自然科学領域の2領域から、4単位ずつ合計8単位を修得しなければならない。詳細は、b-63ページを参照

(注2) 英語以外の外国語から1言語を選択し4単位を修得しなければならない。詳細は、b-64・b-65ページを参照

(注3) 融合教育科目には、外国語学部履修可とする他学部専門教育科目を算入することができる。

(注4) 国際関係科目のうち、「国際関係論Ⅰ」「国際関係論Ⅱ」「国際関係史Ⅰ」「国際関係史Ⅱ」「国際法概論Ⅰ」「国際法外論Ⅱ」「国際経済論Ⅰ」「国際経済論Ⅱ」(各2単位)のうちいずれか4科目(8単位)を含めて、10単位以上を修得しなければならない。

(注5) 1単位科目を2科目以上修得しなければならない。

2. 各セメスターの履修登録上限単位数

各セメスターの履修登録上限単位数は下表のとおりです。

セメスター	第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター
単位数	24	24	24	24	24	24	24	24

ただし、次の科目は上記の単位数には含まれません。

- ①卒業要件とならない自由(随意)科目
- ②単位互換科目(大学コンソーシアム京都科目等)
- ③共通教育科目
インターンシップ、O/OCF-PBL、「キャリア・Reデザイン」、「スタートアップ・インターンシップ」、「企業人と学生のハイブリッド」、「就業力総合実習」、「熊本・山鹿フィールド」
- ④共通教育科目〈教育・教職科目群〉における教職課程登録者のみ履修可とする科目
- ⑤海外語学実習
- ⑥外国語学部専門教育科目
「海外フィールド・リサーチ」、「国内フィールド・リサーチ」、「〇〇語海外実習」(〇〇には、英語・ドイツ語・フランス語・スペイン語・イタリア語・ロシア語・中国語・韓国語・インドネシア語が入る)、集中講義形態で開講する特別英語科目
- ⑦経済学部専門教育科目「国際経済研修」
- ⑧法学部専門教育科目
「司法における外国語の役割」、「人事・労務インターンシップ」、「知的財産実習」、「地域多文化共生実習」
- ⑨文化学部専門教育科目「国際文化研修」

共通教育科目

京都産業大学では、教学の理念に掲げる「自らを厳しく律しつつ、創造力に富み、社会的な義務を怠ることなく、国内外を問わず活躍できる人材」の育成のために、学生が自らの専門分野を深く学ぶだけでなく、幅広い教養を身につけることができるよう、「人間科学教育科目」「言語教育科目」「体育教育科目」「キャリア形成支援教育科目」の区分を設けて、すべての学生に開講しています。

入学年度ごとに定められている履修規定を十分に把握したうえで履修してください。

1. 人間科学教育科目

人間科学教育科目は、「人文科学」「社会科学」「自然科学」「総合」の4つの領域にわかれます。

このうち、「総合」以外の3領域は、「基本科目」と「展開科目」から構成されています。自らの専門以外の学問分野を学ぶにあたって、まず基本科目でその学問分野の大まかな全体像を得て基本的な考え方をつかみ、そこで興味を感じた内容を展開科目でさらに深く学ぶことで、体系的に学習できるよう工夫しています。

(1) 各領域の特徴

【人文科学領域】

この領域は、古今東西の人類の文化を対象とします。これには、「哲学」「心理学」「歴史学」「文学・芸術学」といった分野が含まれます。この領域の科目は、文化の多様性を認識し、柔軟に思考できるようになることを目的としています。

【社会科学領域】

この領域は、意見や利害が多種多様で、価値観の異なる人々が構成する社会とそのような社会で生じる諸現象とを対象とします。これには、「経済学」「経営学」「法学・政治学」「社会学」といった分野が含まれます。この領域の科目は、多種多様な人々の共存や協力を図るしくみを理解することを目的としています。

【自然科学領域】

この領域は、ミクロ（素粒子）からマクロ（宇宙）までの様々なスケールの自然現象を対象とします。これには、京都産業大学の特色といえる「天文・物理科学」「生命・環境科学」「情報科学」それに、自然科学の基盤である「数学」といった分野が含まれます。この領域の科目は、自然法則や生命の営みへの見方を養うことを目的としています。

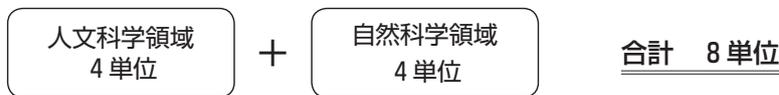
【総合領域】

この領域は、次の科目群に区分されます。

- ・ K S U 科目群：本学の特色ある科目と本学で学ぶための基礎となる科目
- ・ 教育・教職科目群：教員免許取得などに関わる科目
- ・ 人権科目群：人権に関わる諸問題や歴史などを学ぶ科目
- ・ 情報科目群：情報に関する科目

(2) 履修方法について

人文科学領域および自然科学領域の2領域から4単位ずつ修得しなければなりません。



※ 人文科学領域および自然科学領域の2領域から「基本科目」と、それに関連する「展開科目」を修得することを推奨します。

2. 言語教育科目

言語教育科目は、英語教育科目と英語以外の外国語教育科目から構成されています。

英語教育科目

グローバル社会の中で活躍し社会に貢献するためには、実用的な英語運用能力の獲得が必須となります。本学では、全学部1・2年次に英語授業を必修とし「読む・書く・話す・聞く」の英語学習に加えて、就職活動の入口やビジネス場面で有用とされるTOEIC対応の学習も行います。また、その達成度合いを測るために年数回TOEICを受験します。英語が苦手な方には基礎から学ぶ授業を開講し、基礎から英語能力の向上を図ります。

外国語教育科目

外国語教育科目は、国際社会で求められる高度な語学力を身に付けて国際的視野を磨く科目で、9言語から学びたい言語を選択できます。また、ネイティブスピーカーの教員が現地の文化を教える授業や、CALL教室で語学教材ソフトを用いた授業など、目的に合わせて語学力を鍛えることができます

(1) 履修方法について

英語以外の外国語教育科目を1言語選択し、以下の科目において、4単位を修得しなければなりません。

科目区分	科目名	単位数	最低修得単位数
英語以外	たのしく学ぶ○○語ⅠA※ ¹	各1	4
	たのしく学ぶ○○語ⅠB※ ¹		
	たのしく学ぶ○○語ⅡA※ ¹		
	たのしく学ぶ○○語ⅡB※ ¹		

※1 科目名の○○には、ドイツ・フランス・中国・ロシア・スペイン・インドネシア・イタリア・韓国朝鮮・ベトナムの各言語名が入ります。

【履修上の注意】

- ・言語および科目は、入学時に申請した希望の言語・科目から、コンピュータ抽選により決定されます。1 Semester 終了時点における言語変更および科目変更は原則として認められません。
- ・1年次春学期に「たのしく学ぶ○○語ⅠA」、「たのしく学ぶ○○語ⅠB」を、1年次秋学期に「たのしく学ぶ○○語ⅡA」、「たのしく学ぶ○○語ⅡB」を履修します。
- ・司法外国語プログラム登録者は「中国語エキスパートⅠ」、「中国語エキスパートⅡ」、または、「韓国語エキスパートⅠ」、「韓国語エキスパートⅡ」で履修することができるため、教学センターに申し出てください。

【TOEIC受験について】

- ◇1・2年次終了時に、TOEIC IP (学内受験) を全員が受験します。[受験料は大学負担]
 - ◇春学期終了時にも、TOEIC IP (学内受験) を希望者に実施します。[受験料は個人負担]
- 受験方法などの詳細については、電子掲示板POST等でお知らせします。

(2) 各種検定試験のスコアによる単位認定について (b-66～b-67ページ参照)

◇英語教育科目

TOEIC IP (学内受験)、TOEIC (公開テスト) やTOEFL及び実用英語技能検定などのスコアに基づき、英語選択科目として認定する制度があります。

◇外国語教育科目

指定された各種検定試験のスコアに基づき、言語教育科目の選択科目として単位認定します。

(3) 余剰単位の取り扱いについて

言語教育科目で定める単位数を超えて修得した単位は、卒業要件単位に算入します。

◇英語資格試験等の単位認定制度（編・転入学生および英語を母語とする外国人留学生を除く）◇

この制度は、TOEIC、TOEFL、実用英語技能検定において下表に示す基準を満たしている場合、その学修に対して、単位を認定する制度です。

【共通教育科目（英語教育科目）の選択科目での認定】

①認定基準及び単位数

TOEICはTOEIC IP（学内受験）またはTOEIC（公開テスト）（国内受験）に限ります。

【認定科目・単位数一覧表】

種類	2単位	4単位	6単位	8単位	認定科目
TOEIC	520～595点	600～695点	700～795点	800点～	英語選択科目
TOEFL-ITP	477～500点	503～537点	540～570点	573点～	英語選択科目
TOEFL-iBT	53～61点	62～75点	76～88点	89点～	英語選択科目
実用英語技能検定	2級	準1級	—	1級	英語選択科目

②認定科目の取扱い

- a. TOEIC IP（学内受験）、TOEIC（公開テスト）、TOEFLまたは実用英語技能検定のスコアに基づき、共通教育科目「英語認定科目（選択科目）」として認定します。
- b. 認定は、所定の申請をした学期末に認定します。
- c. 認定した科目の成績評価は、認定を表す「N」と表記して認定します。認定された科目はGPA算出の対象外とします。
- d. 同一基準でのスコアの重複認定はできませんが、上位基準のスコアによる追加認定は、既認定単位数を差し引いて認定します。

例	1年次	TOEIC IP（学内受験）	550点	2単位認定
	2年次	TOEIC（公開テスト）	600点	4単位該当
				差し引き2単位追加認定
- e. 認定単位は、8単位を限度に卒業要件単位として算入します。
- f. 一旦認定された内容の変更・取消しはできません。

③申請期間

申請手続きおよび申請の受付期間は、電子掲示板POSTにてお知らせします。なお、TOEIC IP（学内受験）を受験された場合については、大学側でスコアを確認して単位認定を行います（本人申請不要）。

④提出書類

- a. 英語資格試験等に対する単位認定申請書
 - b. TOEIC（公開テスト）のスコアカードの原本とそのコピー
 - c. 最新の学業成績表のコピー（1年次春学期以外）
- ※TOEIC IP（学内受験）を受験された場合は、申請は不要です。

⑤有効期限

TOEIC（公開テスト）のスコアの有効期限は、取得後2年以内とします（入学前に取得したTOEIC（公開テスト）のスコアは単位認定の対象外）

◇英語以外の外国語検定試験合格者の単位認定制度（編・転入学生および各言語を母語とする外国人留学生を除く）◇

この制度は、下記表の検定試験において一定の基準を満たしている場合、その学修に対して、単位を認定する制度です。

①認定基準及び単位数

検定試験の種類	2単位	4単位	6単位	8単位
ドイツ語技能検定試験	4級	3級	2級	準1級 1級
実用フランス語技能検定試験	4級	3級	準2級	2級 準1級 1級
中国語検定試験	4級	3級	2級	準1級 1級
ロシア語能力検定試験	4級	3級	2級	1級
スペイン語技能検定試験	5級	4級	3級	2級 1級
インドネシア語技能検定試験	E級	D級	C級	B級 A級
実用イタリア語検定試験	5級	4級	3級	準2級 2級 1級
ハンゲル能力検定試験	4級	3級	準2級	2級 1級

②認定科目の取扱

- 共通教育科目の「〇〇語認定科目」（選択科目）として認定します。
（〇〇の中には、各言語の名前が入ります。）
- 認定した科目の成績評価は、認定を表す「N」と表記して認定します。
- 認定単位は、最低修得単位数124単位のうち、8単位を限度に卒業要件単位として算入します。
（履修登録上限単位数には、含まれません。）
- 異なる言語の検定試験に合格した場合も認定単位の上限は8単位とします。
異なる言語で資格を取得しても同一基準での資格・スコアの重複認定はできませんが、上位基準の資格やスコアによる追加認定は、既認定単位数を差し引いて認定することができます。
例) 1年次 ドイツ語技能検定試験 4級 2単位申請・認定
3年次 中国語検定試験 3級 4単位該当
差し引き2単位追加認定
- 一旦認定した単位の取消しはできません。
- 外国語学部の学生は、専攻語の検定試験に関しては認定申請できません。

③申請期間

申請手続きおよび申請の受付期間は、電子掲示板POSTにてお知らせします。なお、申請した科目の単位認定は、各学期末とします。

④提出書類

- 検定試験合格者等に対する単位認定申請書
- 各検定試験合格証書の原本とコピー
- 最新の学業成績表のコピー（1年次春学期以外）

⑤有効期限

入学前に取得した資格も認定することができますが、有効期限が設定されている検定試験は、届け出日以前に失効している場合対象外とします。

※「中国語検定試験」において定められている「能力保証期間」は「有効期限」とは異なります。

3. 体育教育科目

体育教育科目は、「講義科目」「実習科目」「演習科目」に区分しています。

(1) 「健康科学実習」

登録はコンピュータ抽選により教職希望者を優先して決定します。

医師の指導等により運動が制限されている学生と、そのサポートを中心としたボランティア学習を希望する学生を対象としたクラス（Hクラス）を設けています。Hクラスの履修希望者は、所属事務室に申し出て登録の手続きをしてください。

(2) 「スポーツ科学実習A」「スポーツ科学実習B」

科目名に競技名を表す副題がついています。

副題が異なっても「スポーツ科学実習A」「スポーツ科学実習B」は、それぞれ1科目しか履修できません。

(3) 「健康科学演習A」「健康科学演習B」

科目名に副題がついています。

副題が異なっても「健康科学演習A」「健康科学演習B」は、それぞれ1科目しか履修できません。

(4) 「スポーツ科学演習A」「スポーツ科学演習B」

科目名に副題がついています。

副題が異なっても「スポーツ科学演習A」「スポーツ科学演習B」は、それぞれ1科目しか履修できません。

(5) スポーツ指導者育成科目

日本体育協会ではスポーツ振興の一環として、各種指導者認定を行い競技スポーツや地域スポーツの指導者育成事業を行っています。この資格を取得した者は、将来地域のスポーツクラブの指導者として、また特定競技の基礎的・専門的指導者として活動できることとなります。

将来地域スポーツ指導者としての資格を取得するため、日本体育協会が認定するスポーツリーダー、指導員、上級指導員、ジュニアスポーツ指導者、スポーツプログラマー、コーチ、教師およびアスレティックトレーナー養成のための科目を開設しております。

これらの資格を取得するためには、日本体育協会が定めた「共通科目」と「専門科目」を修了する必要があります。

ただし、スポーツリーダーは、「共通科目」のみ修了すれば資格が得られます。

本学では、日本体育協会との協定により次表○印の8科目すべてを卒業までに単位取得し、日本体育協会へ申請（卒業年度に申請）すれば、「スポーツリーダー」「指導員」「上級指導員」「ジュニアスポーツ指導員」または「スポーツプログラマー」の「共通科目」の講習と試験免除が受けられ、修了証明書が発行（要審査料）されます。

また、○と◎印の10科目すべてを卒業までに単位取得し、日本体育協会へ申請（卒業年度に申請）すれば、上記の資格の他に「コーチ」「教師」および「アスレティックトレーナー」の「共通科目」の講習と試験免除が受けられ、修了証明書が発行（要審査料）されます。

そして、卒業後、各都道府県が実施する「指導員」「上級指導員」「ジュニアスポーツ指導員」「スポーツプログラマー」「コーチ」「教員」および「アスレティックトレーナー」の「専門科目」（競技種目・都道府県により設定が異なる）を受講し修了すれば、それぞれの資格が得られます。

■スポーツリーダー

地域におけるスポーツグループやサークルなどのリーダーとして、基礎的なスポーツ指導や運営にあたる。

■指導員（旧C級スポーツ指導員）

地域スポーツクラブ等において、スポーツに初めて出会う子供たちや初心者を対象に、競技別の専門的知識を活かし、個々人の年齢や性別などの対象に合わせた指導にあたる。

特に発育発達期の子供に対しては、総合的な動き作りに主眼を置き、遊びの要素を取り入れた指導や地域スポーツクラブ等が実施するスポーツ教室の指導にあたる。

■上級指導員（旧B級スポーツ指導員）

地域スポーツクラブ等において、年齢、競技レベルに応じた指導にあたる。

事業計画の立案などクラブ内指導者の中心的な役割や地域スポーツクラブ等が実施するスポーツ教室の指導において中心的な役割を担う。

広域スポーツセンターや市町村エリアにおいて競技別指導にもあたる。

■ジュニアスポーツ指導員

地域スポーツクラブ等において、幼・少年期の子どもたちに遊びを通した身体づくり、動き作りの指導を行う。

■スポーツプログラマー

主として青年期以降のすべての人に対し、地域スポーツクラブなどにおいて、フィットネスの維持や向上のための指導・助言を行う。

■コーチ

地域や広域スポーツセンターにおいて、有望な競技者育成のため、より高いレベルの実技指導を行う。

■教師

商業スポーツ施設等において、競技別の専門的指導者として質の高い実技指導を行う。

会員（顧客）が満足できるよう、個々人の年齢や性別、技能レベルやニーズなどに合わせたサービスを提供する。

※この教師は、教育職員免許法に定められた保健体育の教員とは異なります。

■アスレティックトレーナー

スポーツドクターおよびコーチと緊密な協力のもとに、競技者の健康管理、障害予防、スポーツ外傷・傷害の救急措置、アスレティックリハビリテーション及びトレーニング、コンディショニング等にあたる。

※詳細については、春学期及び秋学期の履修登録期間中に説明会を開催いたします。

スポーツ指導者育成科目

本学の開設科目（体育教育科目）		日本体育協会講習科目	
○	スポーツの心理	共通Ⅱ	スポーツの心理Ⅰ
		共通Ⅲ	スポーツの心理Ⅱ
○	スポーツ指導論	共通Ⅰ	指導者の役割Ⅰ
			指導計画と安全管理
		共通Ⅲ	指導者の役割Ⅱ
			競技者育成のための指導法
○	スポーツ医学Ⅰ	共通Ⅰ	スポーツ指導者に必要な医学的知識Ⅰ
○	スポーツマネジメント	共通Ⅰ	文化としてのスポーツ
		共通Ⅱ	スポーツと法
			スポーツ組織の運営と事業
○	スポーツと栄養	共通Ⅰ	スポーツと栄養
		共通Ⅲ	アスリートの栄養・食事
○	スポーツのスキル	共通Ⅰ	ジュニア期のスポーツ
		共通Ⅱ	対象に合わせたスポーツ指導
		共通Ⅲ	身体のしくみと働き
○	スポーツ社会学	共通Ⅰ	地域におけるスポーツ振興
		共通Ⅱ	社会の中のスポーツ
○	ウェイトトレーニングの理論と実際	共通Ⅰ	トレーニング論Ⅰ
◎	スポーツ医学Ⅱ	共通Ⅲ	スポーツ指導者に必要な医学的知識Ⅱ
◎	スポーツのトレーニング論	共通Ⅲ	トレーニング論Ⅱ

4. キャリア形成支援教育科目

キャリア形成支援教育科目では、社会で通用する根幹的実力の養成を目指して、豊かな人間の能力（ヒューマンスキル）、概念的・論理的能力（コンセプチュアルスキル）、技術的・実践的能力（テクニカルスキル）を総合的に育成していきます。

低学年次から発展的・体験的に受講することにより、理想の将来像を明らかにし、職業観・人生観を明確に定め、社会で実践する力をつけていくことができます。

● キャリア形成支援教育科目一覧

領域	科目群	1年次	2年次	3年次	4年次	
キャリア・プランニング領域	キャリア-デザイン系		大学生生活と進路選択	自己発見とキャリア・プラン		
			21世紀と企業の課題			
コワーキング領域	プロジェクト系	O/OCF-PBL 1	O/OCF-PBL 2	O/OCF-PBL 3		
		企業人と学生のハイブリッド				
	インターンシップ系	スタートアップ・インターンシップ				
				インターンシップ1(大学コンソーシアム京都主催科目)		
				インターンシップ2(大学コンソーシアム京都主催科目)		
				インターンシップ3(国内)		
フィールドワーク系			インターンシップ4(海外)			
			インターンシップ5(自己開拓型)			
			インターンシップ6(地域コ-オプ)			
		実践フィールドワーク				
リフレッシュ領域	Re-デザイン系		キャリア・Re-デザイン			

※表内の科目は平成29年度開講科目です。

キャリア形成支援教育科目の中から、2単位以上を修得しなければなりません。

「自己発見と大学生活」は、大学生活、その後の社会や仕事、働くことについて、受講生同士、担当教員と一緒に考える授業です。グループワーク等の「協働」を通じて、大学を自分の「Home」とする友人関係を築くこともできます。1年次の春学期しか受講することができません。ぜひ履修してください。

「自己発見と大学生活」以外にも多種多様な科目を展開しています。科目は、キャリア・プランニング領域、コワーキング領域、リフレッシュ領域の3領域に分類され、更に以下の5つの科目群に分かれます。

① キャリア-デザイン系科目群

自分の将来を考え、進路選択につなげたい学生のための科目群。

② プロジェクト系科目群

プロジェクト方式での課題解決でチームワークを極めたい学生のための科目群。

③ インターンシップ系科目群

就業体験で自分の社会性を高めたい学生のための科目群。

④ フィールドワーク系科目群

フィールドワークで地域社会を学びの場にしたい学生のための科目群。

⑤ Re-デザイン系科目群

今の自分を客観視し、新たな第一歩を踏み出したい学生のための科目群。

※各科目には、様々な履修条件があります。卒業まで計画的に履修するようにしてください。

※各科目を履修する場合は、履修要項別冊ガイドおよびシラバスを必ず参照し、詳細を確認してください。

専門教育科目

1. 授業科目の概要について

(1) 学科の専門教育としての英語科目

【インテンシブ国際関係英語】

英語を専門科目として学び、総合的なコミュニケーション能力を段階的に身に付けていくための科目です。1年次春学期にⅠ、同秋学期にⅡ、2年次春学期にⅢ、同秋学期にⅣと段階を追って内容が発展していきます。

【情報国際関係英語】

インターネットで情報を検索したり、コンピュータを活用したプレゼンテーションを行なうなど、英語を用いた情報処理能力を身に付けます。

【リーディング／ライティング／ディスカッション国際関係英語】

国際関係の歴史・理論・現代的諸問題に関する専門的な内容を英語で読み、書き、論じるという、高度な英語力を育成するための科目です。

【特別英語】

高度な英語運用能力を身に付けることを目的とし、様々なテーマ・方法による授業を選択することができます。

(2) 国際関係について学ぶ科目

【国際関係科目】

国際政治、国際法、国際経済など、国家間関係を基本とする国際関係の諸側面について、分野ごとの歴史・理論・現代的諸問題について学びます

【トランスナショナル科目】

民族、文化、人権、環境など、国家だけでなく企業や個人等様々な主体が関わる国際関係の諸側面について、分野ごとの歴史・理論・現代的諸問題について学びます

【地域科目】

北米、東アジア、ヨーロッパ、ロシア、中東、アフリカなど、世界の諸地域の政治・経済・社会の、国際関係の中での位置付けや特色について学びます。

(3) 演習系の科目

【基礎演習】

大学で学んでいくための基礎的な力を養成する授業です。具体的には、講義の聴き方、文献の読み方、情報収集の方法、レポートの書き方、効果的なプレゼンテーションの方法等を実践的に身に付けていきます。

【国際関係基礎演習・国際関係演習】

国際関係について専門的に学んでいくための基礎的な力を育成する授業です。具体的には、国際関係の歴史、理論、現代的諸問題に関する基礎知識を学ぶとともに、専門的な文献・資料の内容を正確に理解した上で自分なりの判断・意見を形成しそれを表現するための能力を身に付けていきます。

【国際関係研究演習】

4年間にわたる学びの集大成として、これまで学んできた広範な専門的知識や語学力、多様なコミュニケーション技能を活用し、個々の専門的関心を掘り下げまとめあげます。3年次春学期にⅠ、同秋学期にⅡ、4年次春学期にⅢ、同秋学期にⅣと段階を追って学びを深めていきます。

(4) 実習系の科目

【海外フィールド・リサーチ】

英語圏の提携先大学で約3週間学ぶことにより、英語運用能力、国際関係に関する知識・理解力を実地で試し、2年次以降の学修へつなぐことを目的とする科目です。教室での周到な事前事後学習(1単位)と現地実習(英語学習およびテーマに沿った見学・調査・インタビューなど2単位)を組み合わせ実施します。全員が必ず参加・履修しなければならない必修科目です。

【国内フィールド・リサーチ】

日本国内において政治・経済・社会・文化・歴史の様々な側面で国際的連関が形成されている状況を理解することを目的として、公共機関・民間企業・NPOなどの現場での見学・調査・インタビューなどを自ら企画・立案して実施し、その結果をレポートにまとめて発表するという、一連の参加型学習を行います。

2. 専攻科目について

(1) 必修科目

以下の科目を必修とします。

開講期	1年次配当		2年次配当	
	科目名	単位	科目名	単位
春	基礎演習	2	国際関係演習Ⅰ	2
秋	国際関係基礎演習	2	国際関係演習Ⅱ	2
	海外フィールド・リサーチ ※	3		

「基礎演習」、「国際関係基礎演習」、「国際関係演習Ⅰ」、「国際関係演習Ⅱ」はあらかじめクラスが指定されています。自分が属するクラスはWeb履修登録画面で確認してください。

「海外フィールド・リサーチ」は、約3週間外国に滞在することによって、実体験を通じて、その国の政治・経済・社会・文化・歴史の一端を学ぶものです。現地では英語の授業と並行して、各国のリサーチテーマに沿った参加型の実習プログラム（見学、調査、インタビューなど）が組まれています。入学後の早い時期に国際社会への関心を一層高め、国際関係学の学びを深めていくために、1年次末の春に実施され、帰国後のレポート作成等を経て1年次に必修単位（3単位）として認定されます。

履修にあたっては、春学期に実施する説明会に必ず出席してください。

◎注意事項

「海外フィールド・リサーチ」は国際関係学科の必修科目ですから、これを履修し、単位を修得しないと卒業できません。ただし、外国語学部が特にやむを得ないと認め、所定の手続を経た上で、国際関係学科により指定された担当教員の「国内フィールド・リサーチ」を履修し、単位を修得した場合、当該年度末に必修科目の「海外フィールド・リサーチ」の単位を修得したものとみなすことができます。

(2) 選択必修科目

【国際関係科目】

「国際関係科目」のなかから、以下の8科目のうちいずれか4科目（8単位）を含めて、10単位以上を修得しなければなりません。

科目名		単位数	配当年次
国際関係論Ⅰ	国際関係論Ⅱ	各2単位	1
国際関係史Ⅰ	国際関係史Ⅱ		
国際法概論Ⅰ	国際法概論Ⅱ		
国際経済論Ⅰ	国際経済論Ⅱ		

【トランスナショナル科目】

「トランスナショナル科目」のなかから、2単位以上を修得しなければなりません。

【地域科目】

「地域科目」のなかから、2単位以上を修得しなければなりません。

【国際関係研究演習】

以下の「国際関係研究演習」は、4単位以上を修得しなければなりません。

科目名	単位	配当年次	開講期	備考
国際関係研究演習Ⅰ	2	3	春	研究演習は、あらかじめ希望するクラスの応募を行い、選考により決定します。募集案内については2年次の秋学期に電子掲示板POSTにて発表します。 原則同一教員で、研究演習Ⅳまでの履修を推奨します（研究演習Ⅰを修得後は、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳと自動登録されます）。
国際関係研究演習Ⅱ	2	3	秋	
国際関係研究演習Ⅲ	2	4	春	
国際関係研究演習Ⅳ	2	4	秋	

履修にあたり、次の条件が設定されています。

- ・研究演習の選択必修4単位修得にあたっては、所属学科の研究演習を履修しなければなりません。
- ・研究演習はⅠからⅣへと段階を追って学ぶため、Ⅰが修得できなかった場合、それに続く秋学期のⅡを履修することはできません(在学留学を除く)。同じく、Ⅱが修得できなかった場合、Ⅲを履修することはできません。
- ・同一教員のクラスを連続で履修していきますが、在学留学・休学等の理由で、連続履修ができない場合は、事前に外国語学部事務室で相談してください。
- ・所属学科の研究演習ⅠとⅢを同時に履修することはできません。
- ・所属学科以外の研究演習Ⅰ～Ⅳは選択科目として履修することができます。ただし、各セメスターに履修できる研究演習は最大2つまでです。

(3) 選択科目

「海外フィールド・リサーチ」を履修したうえで、さらにフィールド・リサーチを履修したい学生のために、「国内フィールド・リサーチ」(3単位)が開講されています。

3. 英語科目について

(1) 必修科目

次の科目を必修とします。不合格となった場合は、その不合格科目が開講される学期で優先的に履修してください。

これらはすべて、あらかじめクラスが指定されています。自分が所属するクラスはWeb履修登録画面で確認してください。

開講期	1年次配当		2年次配当		3年次配当	
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位
春	インテンシブ国際関係英語AⅠ	2	インテンシブ国際関係英語AⅢ	2	リーディング国際関係英語Ⅰ	2
	インテンシブ国際関係英語BⅠ	1	インテンシブ国際関係英語BⅢ	1	ディスカッション国際関係英語Ⅰ	2
	インテンシブ国際関係英語CⅠ	2	インテンシブ国際関係英語CⅢ	2	ライティング国際関係英語Ⅰ	2
	情報国際関係英語Ⅰ	1				
秋	インテンシブ国際関係英語AⅡ	2	インテンシブ国際関係英語AⅣ	2	リーディング国際関係英語Ⅱ	2
	インテンシブ国際関係英語BⅡ	1	インテンシブ国際関係英語BⅣ	1	ディスカッション国際関係英語Ⅱ	2
	インテンシブ国際関係英語CⅡ	2	インテンシブ国際関係英語CⅣ	2	ライティング国際関係英語Ⅱ	2
	情報国際関係英語Ⅱ	1				

(2) 選択必修科目

【特別英語】

「特別英語」のなかから、4単位以上を修得しなければなりません。「特別英語」には1単位科目と2単位科目があります。単位の修得にあたっては、1単位科目を2科目以上修得しなければなりません。

また、科目により履修条件(クラス定員やレベル)が指定されています。詳しくは、履修要項別冊ガイド、シラバス等で確認してください。

4. 関連科目について

関連科目は、選択科目です。「教科教育法科目」のほか、他学科・専攻の「専門教育科目」を履修し修得した場合は、関連科目に区分されます。ただし、他学科・専攻の必修科目を履修することはできません。

カリキュラムの概要

※当該年度における各授業科目の休講等は、履修要項別冊ガイドの授業科目一覧で確認してください。

年次 区分	1 年 次		2 年 次		
専 攻 科 目	基礎演習	基礎演習(2)			
	必修 国際関係 演習	国際関係基礎演習(2)		国際関係演習Ⅰ(2) 国際関係演習Ⅱ(2)	
	フィールド・ リサーチ	海外フィールド・リサーチ(3)			
	国際関係 科目	国際関係論Ⅰ(2) 国際関係論Ⅱ(2) 国際関係史Ⅰ(2) 国際関係史Ⅱ(2) 国際法概論Ⅰ(2) 国際法概論Ⅱ(2) 国際経済論Ⅰ(2) 国際経済論Ⅱ(2)		国際連合論Ⅰ(2) 国際連合論Ⅱ(2) 国際法特論Ⅰ(2) 国際法特論Ⅱ(2) 国際金融概論Ⅰ(2) 国際金融概論Ⅱ(2) 国際貿易概論Ⅰ(2) 国際貿易概論Ⅱ(2)	
	トランス ナショナル 地域科目			国際社会学Ⅰ(2) 国際社会学Ⅱ(2) 国際開発論Ⅰ(2) 国際開発論Ⅱ(2) 国際コミュニケーション論Ⅰ(2) 国際コミュニケーション論Ⅱ(2)	
研究演習			北米論Ⅰ(2) 北米論Ⅱ(2) 中南米論Ⅰ(2) 中南米論Ⅱ(2) ロシア・東欧論Ⅰ(2) 東南アジア論Ⅰ(2) 東南アジア論Ⅱ(2) 南アジア論Ⅰ(2) 南アジア論Ⅱ(2)		
選択			国内フィールド・リサーチ(3)		
必 修	インテンシブ	インテンシブ国際関係英語 AⅠ(2) インテンシブ国際関係英語 BⅠ(1) インテンシブ国際関係英語 CⅠ(2)	インテンシブ国際関係英語 AⅡ(2) インテンシブ国際関係英語 BⅡ(1) インテンシブ国際関係英語 CⅡ(2)	インテンシブ国際関係英語 AⅢ(2) インテンシブ国際関係英語 BⅢ(1) インテンシブ国際関係英語 CⅢ(2)	インテンシブ国際関係英語 AⅣ(2) インテンシブ国際関係英語 BⅣ(1) インテンシブ国際関係英語 CⅣ(2)
	情報	情報国際関係英語Ⅰ(1)	情報国際関係英語Ⅱ(1)		
	国際関係 英語				
英 語 科 目	選択 必修 特別英語	特別英語(ディスカッション英語上級Ⅰ)(1)	特別英語(ディスカッション英語上級Ⅱ)(1)	特別英語(ディベート英語上級Ⅰ)(1)	
		特別英語(ディスカッション英語中級Ⅰ)(1)	特別英語(ディスカッション英語中級Ⅱ)(1)	特別英語(英語プレゼンテーションⅠ)(1)	特別英語(英語プレゼンテーションⅠ)(1)
		特別英語(サイエンスプレゼンテーションⅠ)(1)	特別英語(サイエンスプレゼンテーションⅡ)(1)	特別英語(ニュース英語Ⅰ)(1)	特別英語(ニュース英語Ⅰ)(1)
		特別英語(英語エッセイチャレンジⅠ)(1)	特別英語(英語エッセイチャレンジⅡ)(1)	特別英語(英語の構造中級Ⅰ)(1)	特別英語(英語の構造中級Ⅰ)(1)
		特別英語(留学英語IELTSⅠ)(1)	特別英語(留学英語IELTSⅡ)(1)	特別英語(発音クリニックⅠ)(1)	特別英語(発音クリニックⅠ)(1)
		特別英語(多読入門Ⅰ)(1)	特別英語(多読入門Ⅱ)(1)	特別英語(アクティブ・リスニング初級Ⅰ)(1)	特別英語(アクティブ・リスニング初級Ⅰ)(1)
		特別英語(メール英語Ⅰ)(1)	特別英語(メール英語Ⅱ)(1)	特別英語(英語基礎ルールⅠ)(1)	特別英語(英語基礎ルールⅠ)(1)
		特別英語(教室英語Ⅰ)(1)	特別英語(教室英語Ⅱ)(1)	特別英語(留学英語PBTⅠ)(1)	特別英語(留学英語PBTⅠ)(1)
		特別英語(英語圏スタディーズA)(1)	特別英語(英語圏スタディーズB)(1)	特別英語(英語圏スタディーズC)(1)	特別英語(英語圏スタディーズC)(1)
		特別英語(アカデミックライティングⅠ)(2)	特別英語(アカデミックライティングⅡ)(2)	特別英語(アカデミックライティング・人文系Ⅰ)(2)	特別英語(アカデミックライティング・人文系Ⅰ)(2)
		特別英語(アカデミックリーディング・自然系Ⅰ)(2)	特別英語(アカデミックリーディング・自然系Ⅱ)(2)	特別英語(人文系リーディングⅠ)(2)	特別英語(人文系リーディングⅠ)(2)
		特別英語(自然系リーディングⅠ)(2)	特別英語(自然系リーディングⅡ)(2)	特別英語(長期留学前準備)(2)	特別英語(長期留学前準備)(2)
		特別英語(オセアニア・スタディーズⅠ)(2)	特別英語(オセアニア・スタディーズⅡ)(2)	特別英語(アジア・スタディーズⅠ)(2)	特別英語(アジア・スタディーズⅠ)(2)
		特別英語(ヨーロッパ・スタディーズⅠ)(2)	特別英語(ヨーロッパ・スタディーズⅡ)(2)	特別英語(多読多聴Ⅰ)(2)	特別英語(多読多聴Ⅰ)(2)
		特別英語(インタラクティブ・イングリッシュ初級ⅠA)(1)	特別英語(インタラクティブ・イングリッシュ初級ⅡA)(1)	特別英語(インタラクティブ・イングリッシュ初級ⅠB)(1)	特別英語(インタラクティブ・イングリッシュ初級ⅠB)(1)
特別英語(アクティブ・リスニング初級(音楽)Ⅰ)(1)	特別英語(アクティブ・リスニング初級(音楽)Ⅱ)(1)	特別英語(ロールプレイ初級Ⅰ)(1)	特別英語(ロールプレイ初級Ⅰ)(1)		
特別英語(地域スタディーズ・アジアⅠ)(1)	特別英語(地域スタディーズ・アジアⅡ)(1)	特別英語(Politics and HistoryⅠ)(2)	特別英語(Politics and HistoryⅠ)(2)		
特別英語(Creative Writing and StorytellingⅠ)(2)	特別英語(Creative Writing and StorytellingⅡ)(2)	特別英語(英語サマーキャンプ)(1)	特別英語(英語サマーキャンプ)(1)		
関連科目	選択		英語科教育法Ⅰ(2)	英語科教育法Ⅱ(2)	

の科目は、英語による授業科目です。

()内は単位数

3 年 次		4 年 次		卒業要件単位数	
				2単位	80単位以上 共通教育科目24単位・融合教育科目・専門教育科目80単位を含む、124単位以上
				6単位	
				3単位	
国際情勢論Ⅰ(2) 国際情勢論Ⅱ(2) 安全保障論Ⅰ(2) 安全保障論Ⅱ(2) 国際資源エネルギー論Ⅰ(2) 国際資源エネルギー論Ⅱ(2) 国際経営論Ⅰ(2) 国際経営論Ⅱ(2)				10単位以上	
国際社会と人権Ⅰ(2) 国際社会と人権Ⅱ(2) 国際社会と環境Ⅰ(2) 国際社会と環境Ⅱ(2) 国際社会と女性Ⅰ(2) 国際社会と女性Ⅱ(2) 国際NGO論Ⅰ(2) 国際NGO論Ⅱ(2) 比較文化論Ⅰ(2) 比較文化論Ⅱ(2) グローバル・ガバナンス論Ⅰ(2) グローバル・ガバナンス論Ⅱ(2)				2単位以上	
ロシア・東欧論Ⅱ(2) ヨーロッパ論Ⅰ(2) ヨーロッパ論Ⅱ(2) EU論Ⅰ(2) EU論Ⅱ(2) 東アジア論Ⅰ(2) 東アジア論Ⅱ(2) 中東論Ⅰ(2) 中東論Ⅱ(2) アフリカ論Ⅰ(2) アフリカ論Ⅱ(2) 日本と国際社会Ⅰ(2) 日本と国際社会Ⅱ(2)				2単位以上	
国際関係研究演習Ⅰ(2)	国際関係研究演習Ⅱ(2)	国際関係研究演習Ⅲ(2)	国際関係研究演習Ⅳ(2)	4単位以上	
				20単位	
				2単位	
リーディング国際関係英語Ⅰ(2) ディスカッション国際関係英語Ⅰ(2) ライティング国際関係英語Ⅰ(2)	リーディング国際関係英語Ⅱ(2) ディスカッション国際関係英語Ⅱ(2) ライティング国際関係英語Ⅱ(2)			12単位	
特別英語(ディベート英語上級Ⅱ)(1) 特別英語(英語プレゼンテーションⅡ)(1) 特別英語(ニュース英語Ⅱ)(1) 特別英語(英語の構造中級Ⅱ)(1) 特別英語(発音クリニックⅡ)(1) 特別英語(アクティブ・リスニング初級Ⅱ)(1) 特別英語(英語基礎ルールⅡ)(1) 特別英語(留学英語PBTⅡ)(1) 特別英語(英語圏スタディーズD)(1) 特別英語(アカデミックリーディング・人文系Ⅱ)(2) 特別英語(人文系リーディングⅡ)(2) 特別英語(長期留学後総括)(2) 特別英語(アジア・スタディーズⅡ)(2) 特別英語(多読多聴Ⅱ)(2) 特別英語(インタラクティブ・イングリッシュ初級ⅡB)(1) 特別英語(ロールプレイ初級Ⅱ)(1) 特別英語(Politics and HistoryⅡ)(2)	特別英語(英語の構造上級Ⅰ)(1) 特別英語(ビジネスプレゼンテーションⅠ)(1) 特別英語(アクティブ・リスニングⅠ)(1) 特別英語(留学英語iBTⅠ)(1) 特別英語(アクティブ・スピーキング初級Ⅰ)(1) 特別英語(SNS英語Ⅰ)(1) 特別英語(英語基礎訓練Ⅰ)(1) 特別英語(短期留学前準備)(1) 特別英語(英語圏スタディーズE)(1) 特別英語(アカデミックリーディング・社会系Ⅰ)(2) 特別英語(社会系リーディングⅠ)(2) 特別英語(北米スタディーズⅠ)(2) 特別英語(英国スタディーズⅠ)(2) 特別英語(インタラクティブ・イングリッシュⅠ)(2) 特別英語(アクティブ・スピーキングⅠ)(1) 特別英語(地域スタディーズ・ヨーロッパⅠ)(1) 特別英語(Gender StudiesⅠ)(2)	特別英語(英語の構造上級Ⅱ)(1) 特別英語(ビジネスプレゼンテーションⅡ)(1) 特別英語(アクティブ・リスニングⅡ)(1) 特別英語(留学英語iBTⅡ)(1) 特別英語(アクティブ・スピーキング初級Ⅱ)(1) 特別英語(SNS英語Ⅱ)(1) 特別英語(英語基礎訓練Ⅱ)(1) 特別英語(短期留学後総括)(1) 特別英語(英語圏スタディーズF)(1) 特別英語(アカデミックリーディング・社会系Ⅱ)(2) 特別英語(社会系リーディングⅡ)(2) 特別英語(北米スタディーズⅡ)(2) 特別英語(英国スタディーズⅡ)(2) 特別英語(インタラクティブ・イングリッシュⅡ)(2) 特別英語(アクティブ・スピーキングⅡ)(1) 特別英語(地域スタディーズ・ヨーロッパⅡ)(1) 特別英語(Gender StudiesⅡ)(2)		4単位以上	
英語科教育法3(2)	英語科教育法4(2)				

外国語検定試験合格等の 単 位 認 定 制 度

外国語検定試験合格等の単位認定制度（専攻言語の試験等に限る）

この制度は、語学力向上意欲を高め、自ら学修するための指標とするために設けられた制度です。専攻言語における検定試験合格等のための学修に対して、下表の基準をクリアしている場合に外国語学部専門教育科目として単位を認定します。（編転入学生および各言語を母語とする外国人留学生を除く）

※英語検定試験等の単位認定制度については、共通教育科目◇英語資格試験等の単位認定制度◇参照のこと

1. 認定基準及び単位数

ドイツ語

試験種類 \ 単位数	2単位	4単位	6単位	8単位
ドイツ語技能検定試験 (独検)	2級	-	準1級	1級
Goethe Institutの 検定試験 Prüfungen im Goethe-Institut	ZD	Goethe-Zertifikat B2 ZDfB	C1	Goethe-Zertifikat C2 : GDS
オーストリア政府公認 ドイツ語能力検定試験 Österreichisches Sprachdiplom Deutsch (ÖSD)	ZD	MD	OD	WD
外国語としての ドイツ語検定試験 Test Deutsch als Fremdsprache	-	TDN3	TDN4	TDN5
大学入学に必要な ドイツ語能力検定試験 Prüfungen für Hochschulzugang	-	DSH-1	DSH-2	DSH-3

フランス語

試験種類 \ 単位数	2単位	4単位	6単位	8単位
仏検 ¹⁾	準2級	2級	準1級	1級
DELF ²⁾ DALF ³⁾	DELF A2	DELF B1	DELF B2	DALF C1/C2
TCF ⁴⁾	200～299点	300～399点	400～499点	500～699点
TEF ⁵⁾	204～360点	361～540点	541～698点	699～900点

1) 実用フランス語技能検定試験

2) Diplôme d'études en langue française

3) Diplôme approfondi de langue française

4) Test de Connaissance du Français

5) Test d'Évaluation du Français

スペイン語

試験種類 \ 単位数	2単位	4単位	6単位	8単位
スペイン語技能検定	-	3級	2級	1級
DELE	B 1	B 2	C 1	C 2

イタリア語

試験種類 \ 単位数	2単位	4単位	6単位	8単位
実用イタリア語検定	3級	準2級	2級	1級
CILS ¹⁾	-	Livello UNO	Livello DUE	Livello TRE/QUATTRO
CELI ²⁾	CELI 1	CELI 2	CELI 3	CELI 4/5

1) Certificazione di Italiano come Lingua Straniera

2) Certificato di Conoscenza della Lingua Italiana

ロシア語

試験種類 \ 単位数	2単位	4単位	6単位	8単位
ロシア語能力検定試験	3級	-	2級	1級
TRKI ¹⁾	Баз. ур.	Iсерт. ур.	IIсерт. ур.	III, IVсерт. ур.
TRKI-ИРЯП ²⁾	Пред. ур.	Порог. ур.	Пост. ур.	-

1)TRKI：ロシア連邦教育省認定ロシア語検定試験

Баз.ур.：Базовыйуровень

Iсерт.ур.：Iсертификационныйуровень

IIсерт.ур.：IIсертификационныйуровень

IIIсерт.ур.：IIIсертификационныйуровень

IVсерт.ур.：IVсертификационныйуровень

2)TRKI-ИРЯП：ロシア連邦教育省認定のもと国立プーシキン記念ロシア語大学で行われるロシア語検定試験

Пред.ур.：Предпороговыйуровень

Порог.ур.：Пороговыйуровень

Пост.ур.：Постпороговыйуровень

中国語

試験種類 \ 単位数	2単位	4単位	6単位	8単位
中国語検定	-	2級	準1級	1級
HSK漢語水平考試	5級	6級	7級	8級
新HSK漢語水平考試	新4級	新5級	新6級	—

韓国語

試験種類 \ 単位数	2単位	4単位	6単位	8単位
ハングル能力検定試験	-	準2級	2級	1級
韓国語能力試験(TOPIK)	3級	4級	5級	6級

インドネシア語

試験種類 \ 単位数	2単位	4単位	6単位	8単位
インドネシア語技能検定試験	C級	-	B級	A級

2. 認定科目の取扱い

- ①外国語学部専門教育科目に算入します。科目名は、「資格〇〇語認定科目」（選択科目）とし、成績評価は「N」で表わします。
- ②同一言語について同一基準での資格・スコアの重複認定はできません。
- ③上位基準での資格やスコアによる追加認定はできますが、既に認定した単位数は差し引くものとします。
- ④有効期限が設定されている検定試験等に関しては、申請時以前に失効している場合は認定の対象外とします。
- ⑤専攻言語以外の単位認定はできません。

3. 申請書類

- ①外国語検定試験等合格に関する単位認定申請書（用紙はPOSTキャビネットからダウンロード）
- ②各検定試験等の合格証書及びスコア表の原本と写し
- ③学業成績表（写し）又は成績証明書（但し、1 Semesterは除く）

4. 申請方法

- ①春学期授業期間内に申請書類を外国語学部事務室に提出してください。（春学期末の認定）
- ②秋学期授業期間内に申請書類を外国語学部事務室に提出してください。（秋学期末の認定）

融合教育(フレキシブルカリキュラム)

融合教育（フレキシブルカリキュラム）

融合教育（フレキシブルカリキュラム）とは

社会の高度化・複雑化・専門化等が進む現代ではとりわけ、社会が直面するさまざまな課題に柔軟に対応していくことが不可欠です。そのうえで将来の課題を探求し、その課題に対して幅広い視野で、総合的な判断を下すことのできる能力を養っていかねばなりません。

本学では、建学の精神と、文系・理系の全学部がワンキャンパスに集中している総合大学の特色を活かした**融合教育（フレキシブルカリキュラム）**を実現しています。専門分野を問わず、学部の枠を越えて学びを広げ、自らの専門とは異なる分野との融合による学びを推進する、本学独自のカリキュラムです。

プログラム

融合教育（フレキシブルカリキュラム）をわかり易く具体化して、体系立てた学びのプログラムです。

これらのプログラムは、学部を問わず履修が可能です。

プログラム修了者には、修了証を発行します。

【学部融合プログラム】

現代社会が持つ様々な課題を解決するためには、専門的かつ複合的な思考力が必要です。複数の学部の専門教育を効率よく融合させることで、専門的な知識を多面的に修得し、深い理解へと導くプログラムです。

具体的には、次のプログラムを用意しています。

- 司法外国語プログラム
- 知財エキスパートプログラム
- 人事・労務プログラム
- 会計・税務プログラム
- 多文化共生の地域づくりプログラム

【テーマプログラム】

達成すべき目標を設定し、そこまでの明確な道筋を示すプログラムです。体系的に段階を踏んで学び進めることで、専門性の高い能力の開花を促します。

具体的には、次のプログラムを用意しています。

- 外国語ステップアッププログラム

ドイツ語 フランス語 中国語 ロシア語 スペイン語 インドネシア語 イタリア語 韓国朝鮮語

プログラムを履修するためには、プログラム登録が必要です。プログラム登録方法をはじめ、履修方法、修了要件、修了証の発行などの詳細については、各プログラムの説明会（日程等詳細は電子掲示板POSTにて案内予定）で確認してください。

各プログラムの構成科目については、電子掲示板POSTの学生用キャビネットに掲示していますので、確認してください。

POSTトップページ → キャビネット一覧 → 学生用キャビネット → 01 履修登録, 授業, 成績 等
→ 00 全学部生対象 → 08 融合教育（フレキシブルカリキュラム）

他学部の専門教育科目

プログラム以外でも、他学部の専門教育科目を主体的に履修することで、自らの専門領域を越えて学ぶことができます。複眼的思考を身につけるため、自らの専門領域との関連性にも留意しながら履修してください。

他学部の専門教育科目を履修・修得した場合、原則として融合教育科目区分に単位算入されますが、算入可能な単位数は学部・学科の履修規定により異なるため、各自で履修規定を確認してください。

また、他学部生は履修できない科目や履修者数を制限している科目もあります。履修要項別冊ガイドで確認してください。

司法外国語プログラム

◇目的

日本社会の国際化に伴って、残念ながら、外国人による犯罪も増加しました。外国人犯罪を適正に捜査・裁判し、被疑者・被告人や被害者となる外国人の人権を守るためには、捜査や裁判において警察官・検察官・弁護士・裁判官などの円滑なコミュニケーションが欠かせません。このようなコミュニケーションの仲介となる役割を果たせる人材を育成するのが、司法外国語プログラムの目的です。

このプログラムを修了することによって、司法通訳人や外国人犯罪捜査にあたる警察官となるための基礎的な能力(高度な語学力、犯罪や司法に関する知識や理解力、通訳人としての自己トレーニング方法)を養成することができます。

さらに、法曹・行政書士・入国管理局職員・海上保安官などとして、外国人を対象とする司法や行政に関わりたいと考えている方にも、有用なプログラムです。

外国人司法の場で需要が多い、中国語と韓国語を対象とします。

◇履修条件

このプログラムを履修できるのは、次のいずれかに該当する方です。

- (1)アジア言語学科中国語専攻の学生
- (2)アジア言語学科韓国語専攻の学生
- (3)アジア言語学科日本語・コミュニケーション専攻で、中国語または韓国語を専攻する学生
- (4)国際関係学科の学生
- (5)中国語または韓国語を母語とする外国人留学生

必須科目「司法における外国語の役割」、「捜査通訳演習」、「法廷通訳・翻訳演習」の履修登録をするには、プログラム登録が必要です。1年次春学期(6月頃)に実施する説明会に出席し、プログラム登録申請をしてください。登録定員は各言語25名です。申請者多数の場合には、申請書と授業への出席状況などで選抜します。

このプログラムと「多文化共生の地域づくりプログラム」の双方にプログラム登録をすることができます。

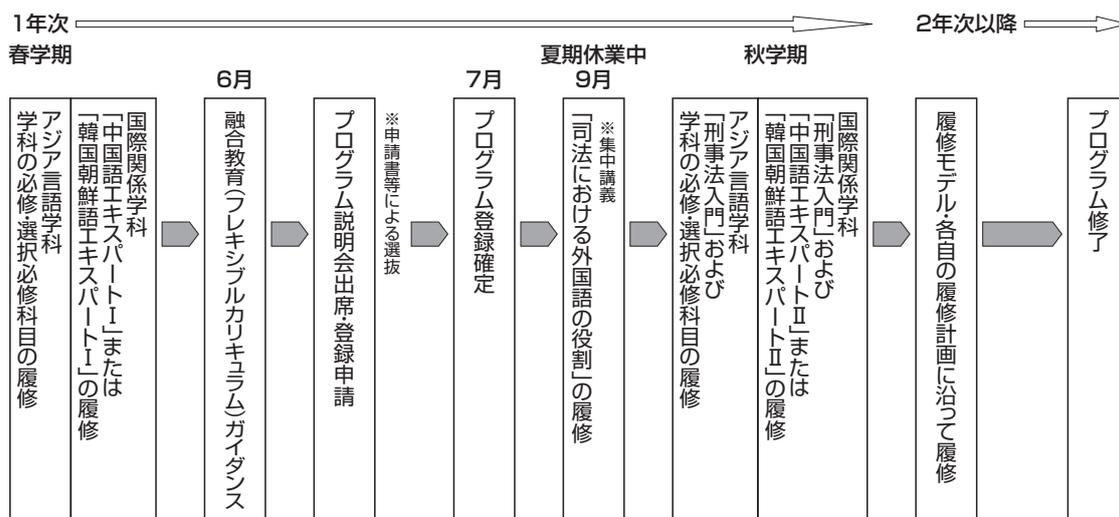
語学力養成のためには留学するのが一番です。中国・台湾・韓国への留学を強く勧めます。

【国際関係学科】

「中国語エキスパートI」と「韓国朝鮮語エキスパートI」のいずれかを、1年次春学期から履修してください。

必須科目「中国語専門セミナー」「韓国語専門セミナー」の履修登録をするには、中国語検定3級以上またはハンゲル能力検定3級以上を取得しているか、それに相当する語学力が必要です。

◇プログラム修了までのスケジュール



◇修了証の発行

【アジア言語学科】

必須科目すべてを修得した者に、修了証を発行します。関連科目は、より深く、より幅広く学びたいときに、履修してください。修得した関連科目は、修了証に記載します。

【国際関係学科】

必須科目すべてと、選択必須科目のうち2単位以上を修得した者に、修了証を発行します。関連科目は、より深く、より幅広く学びたいときに、履修してください。修得した関連科目は、修了証に記載します。

◇履修モデル【中国語】

*履修モデルは段階的に学修をすすめるための目安です。実際の配当年次と異なる場合があります。

〔アジア言語学科で中国語を専攻する学生〕

	1年次	2年次	3～4年次	プログラム 修了要件
科 必 目 須	〔J〕 司法における外国語の役割 〔共〕 刑事法入門	〔J〕 刑事司法と外国人	〔L〕 捜査通訳演習（中国語） 〔L〕 法廷通訳・翻訳演習（中国語） 〔L〕 中国語専門セミナー（通訳訓練 理論と実践）I、II	すべて修得
関 連 科 目	〔共〕 法学と政治学の世界	〔J〕 刑法I（総論） 〔J〕 刑法II（各論） 〔J〕 刑事訴訟法 〔J〕 刑事政策 〔J〕 社会安全政策I（総論）、II（各論） 〔J〕 警察学概論 〔J〕 警察政策論 〔J〕 犯罪社会学 〔J〕 法学中書講読 〔L〕 中国文化論AI、AII 〔L〕 中国文化論CI、CII	〔L〕 検定中国語（上級）I、II 〔J〕 警察行政法	修了要件外 修得科目を 修了証に記載

〔共〕 共通教育科目 〔J〕 法学部専門教育科目 〔L〕 外国語学部専門教育科目

〔アジア言語学科日本語・コミュニケーション専攻の中国人留学生〕

	1年次	2年次	3～4年次	プログラム 修了要件
科 必 目 須	〔J〕 司法における外国語の役割 〔共〕 刑事法入門	〔J〕 刑事司法と外国人	〔L〕 捜査通訳演習（中国語） 〔L〕 法廷通訳・翻訳演習（中国語） 〔L〕 中国語専門セミナー（通訳訓練 理論と実践）I、II	すべて修得
関 連 科 目	〔共〕 法学と政治学の世界	〔J〕 刑法I（総論） 〔J〕 刑法II（各論） 〔J〕 刑事訴訟法 〔J〕 刑事政策 〔J〕 社会安全政策I（総論）、II（各論） 〔J〕 警察学概論 〔J〕 警察政策論 〔J〕 犯罪社会学 〔J〕 法学中書講読	〔J〕 警察行政法	修了要件外 修得科目を 修了証に記載

〔共〕 共通教育科目 〔J〕 法学部専門教育科目 〔L〕 外国語学部専門教育科目

〔国際関係学科生〕

	1年次	2年次	3～4年次	プログラム 修了要件
科 必 目 須	〔共〕 中国語エキスパートI、II 〔J〕 司法における外国語の役割 〔共〕 刑事法入門	〔共〕 中国語エキスパート発展IA、IB 〔共〕 中国語エキスパート発展IIA、IIB 〔J〕 刑事司法と外国人	〔L〕 捜査通訳演習（中国語） 〔L〕 法廷通訳・翻訳演習（中国語） 〔L〕 中国語専門セミナー（通訳訓練 理論と実践）I、II	すべて修得
須 選 科 目 必	〔共〕 検定で学ぶ中国語（初級）I、II 〔共〕 海外実習科目（中国語） 〔L〕 中国語海外実習	〔共〕 検定で学ぶ中国語（中級）I、II	〔L〕 検定中国語（上級）I、II	2単位以上 選択修得
関 連 科 目	〔共〕 法学と政治学の世界	〔J〕 刑法I（総論） 〔J〕 刑法II（各論） 〔J〕 刑事訴訟法 〔J〕 刑事政策 〔J〕 社会安全政策I（総論）、II（各論） 〔J〕 警察学概論 〔J〕 警察政策論 〔J〕 犯罪社会学 〔J〕 法学中書講読 〔L〕 中国文化論AI、AII 〔L〕 中国文化論CI、CII	〔共〕 中国語会話（上級）I、II 〔J〕 警察行政法	修了要件外 修得科目を 修了証に記載

〔共〕 共通教育科目 〔J〕 法学部専門教育科目 〔L〕 外国語学部専門教育科目

◇履修モデル【韓国語】

*履修モデルは段階的に学修をすすめるための目安です。実際の配当年次と異なる場合があります。

【アジア言語学科で韓国語を専攻する学生】

	1年次	2年次	3～4年次	プログラム 修了要件
科 必 目 須	〔J〕 司法における外国語の役割 〔共〕 刑事法入門	〔J〕 刑事司法と外国人	〔L〕 捜査通訳演習（韓国語） 〔L〕 法廷通訳・翻訳演習（韓国語） 〔L〕 韓国語専門セミナー（通訳・翻訳理論と訓練）I、II	すべて修得
関 連 科 目	〔共〕 法学と政治学の世界	〔J〕 刑法I（総論） 〔J〕 刑法II（各論） 〔J〕 刑事訴訟法 〔J〕 刑事政策 〔J〕 社会安全政策I（総論）、II（各論） 〔J〕 警察学概論 〔J〕 警察政策論 〔J〕 犯罪社会学 〔L〕 韓国文化論A、B	〔L〕 検定韓国語（上級）I、II 〔J〕 警察行政法	修了要件外 修得科目を 修了証に記載

〔共〕 共通教育科目 〔J〕 法学部専門教育科目 〔L〕 外国語学部専門教育科目

【アジア言語学科日本語・コミュニケーション専攻の韓国人留学生】

	1年次	2年次	3～4年次	プログラム 修了要件
科 必 目 須	〔J〕 司法における外国語の役割 〔共〕 刑事法入門	〔J〕 刑事司法と外国人	〔L〕 捜査通訳演習（韓国語） 〔L〕 法廷通訳・翻訳演習（韓国語） 〔L〕 韓国語専門セミナー（通訳・翻訳理論と訓練）I、II	すべて修得
関 連 科 目	〔共〕 法学と政治学の世界	〔J〕 刑法I（総論） 〔J〕 刑法II（各論） 〔J〕 刑事訴訟法 〔J〕 刑事政策 〔J〕 社会安全政策I（総論）、II（各論） 〔J〕 警察学概論 〔J〕 警察政策論 〔J〕 犯罪社会学	〔J〕 警察行政法	修了要件外 修得科目を 修了証に記載

〔共〕 共通教育科目 〔J〕 法学部専門教育科目 〔L〕 外国語学部専門教育科目

【国際関係学科生】

	1年次	2年次	3～4年次	プログラム 修了要件
科 必 目 須	〔共〕 韓国朝鮮語エキスパートI、II 〔J〕 司法における外国語の役割 〔共〕 刑事法入門	〔共〕 韓国朝鮮語エキスパート発展IA、IB 〔共〕 韓国朝鮮語エキスパート発展IIA、IIB 〔J〕 刑事司法と外国人	〔L〕 捜査通訳演習（韓国語） 〔L〕 法廷通訳・翻訳演習（韓国語） 〔L〕 韓国語専門セミナー（通訳・翻訳理論と訓練）I、II	すべて修得
選 択 科 目	〔共〕 検定で学ぶ韓国朝鮮語（初級）I、II 〔共〕 海外実習科目（韓国語） 〔L〕 韓国語海外実習		〔L〕 検定韓国語（上級）I、II	2単位以上 選択修得
関 連 科 目	〔共〕 法学と政治学の世界	〔J〕 刑法I（総論） 〔J〕 刑法II（各論） 〔J〕 刑事訴訟法 〔J〕 刑事政策 〔J〕 社会安全政策I（総論）、II（各論） 〔J〕 警察学概論 〔J〕 警察政策論 〔J〕 犯罪社会学 〔L〕 韓国文化論A、B	〔J〕 警察行政法	修了要件外 修得科目を 修了証に記載

〔共〕 共通教育科目 〔J〕 法学部専門教育科目 〔L〕 外国語学部専門教育科目

履修一般

学 籍

単 位 互 換 制 度

英 語 学 科

ヨ ー ロ ッ 科

ア ジ ア 学

国 際 関 係 科

外 国 語 検 定 試 験 合 格 制 度

融 合 教 育

グ ロー バ ル な 学 び

教 職 課 程

学 校 図 書 館 司 書 課 課 程

規 程

知財エキスパートプログラム

◇目的

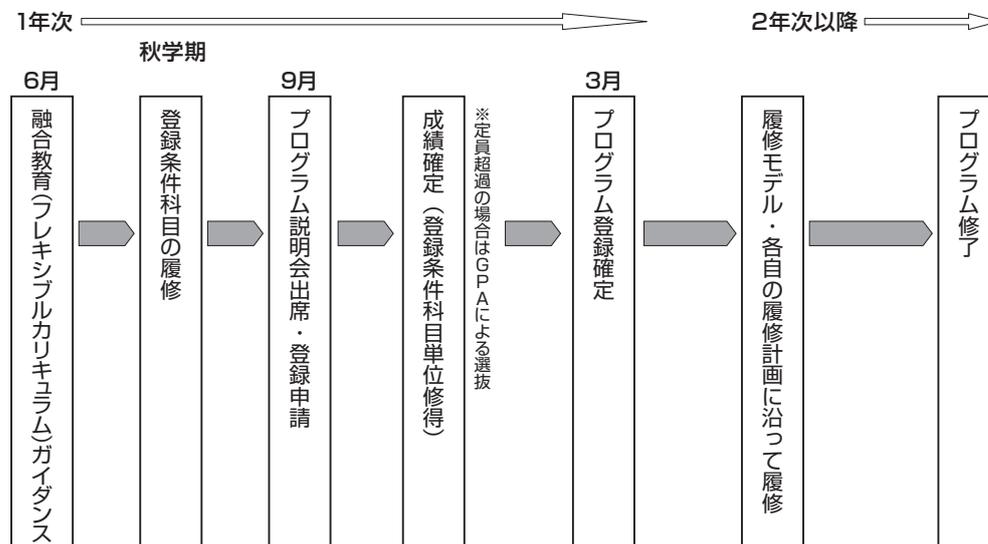
弁理士という職種を知っていますか。もし知らなくても、特許権（更に商標権や著作権などをも含めて知的財産権（知財）と呼ばれます）という言葉は聞かれたことはあるでしょう。特許権は特許庁に出願・登録することによって有効になりますが、弁理士はその事務を発明者に代わって行う仕事です。それだけでなく、特許権侵害訴訟などにおいて弁護士とともに代理人としても活躍します。このように、弁理士は特許のエキスパートなのですが、特許を扱う仕事は弁理士だけが行っているわけではありません。企業、特にメーカーにとって、自社内で行われた発明について特許をとり、それを管理することが、近年非常に重要になってきています。企業へ就職後、そのような部署に配属されることになれば、当然に特許・知財分野の知識が必要とされます。そしてその知識は、文系・理系両面にわたるものであることが要求されます。特許の取得やその管理は法律分野の仕事ですが、それを行うためには、対象となる発明そのものに対する理解が必要となってくるからです。

本プログラムは、弁理士の資格取得を念頭に置きつつ、知財関連の基礎知識を提供し、実務演習を加えて、弁理士を中心とする知財関連職種にかかわる職業観を養成することを目的としています。上記のように、この分野では文系・理系両面の知識が要求されますから、本プログラムも、文系・理系双方の学部にかかれたものとなります。一拠点総合大学という本学の利点を生かして、文理両系の学生がともに学び、学習・研究の上で交流を深めるというのも、本プログラムの目的の一つです。

◇履修条件

本プログラムを履修するには、プログラム登録が必要です。1年次秋学期（9月頃）に実施する説明会に出席し、プログラム登録申請をしてください。ただし、本プログラムを履修するにあたり、民法の基礎的な知識を修得していることを必要とするため、登録条件科目である「融合教育のための民法（概論・総則）」（秋学期開講）の単位を修得できた者のみプログラム登録を認めます。したがって、登録申請を行うためには、「融合教育のための民法（概論・総則）」の履修登録をすることが必要です。また、登録の可否決定は「融合教育のための民法（概論・総則）」の成績確定後となります。登録定員は50名です。登録条件を満たした申請者が50名を超える場合には、秋学期終了時点でのGPAの順で選抜する予定です。

◇プログラム修了までのスケジュール



◇修了証の発行

次頁の履修モデルの中に記載されている「基幹科目」のうち、「知的財産実務演習」を含む10単位以上を修得し、かつ「重点科目」と併せて20単位以上を修得した者に、修了証を発行します。

◇履修モデル

*履修モデルは、段階的に学修をすすめるための目安です。実際の配当年次と異なる場合があります。

	1年次	2年次	3～4年次	プログラム 修了要件		
登録 科目 条件	[共] 融合教育のための民法(概論・総則)			1科目2単位 修得		
基幹 科目		[J] 知的財産法Ⅰ(特許法・実用新案法) [J] 知的財産法Ⅱ(商標法・意匠法) [J] 知的財産法Ⅲ(著作権法・不正競争防止法・その他) [J] 産業社会と知的財産	[J] 知的財産実務演習 [J] 知的財産実習	必修	10単位 以上 修得	20単位 以上 修得
重点 科目	[共] 情報の知財と倫理入門	[共] 融合教育のための民法(総則・物権) [J] 民法Ⅱ(債権各論) [J] 民事訴訟法 [J] 民法Ⅲ(債権総論・担保物権) [J] 契約法発展 [J] 不法行為法発展 [J] 民事紛争処理論 [J] 行政法総論A、B [J] 経済法 [J] 国際私法 [J] 英文契約書作成 [S] 大学数学の基礎	[J] 行政救済法			

[共] 共通教育科目 [J] 法学部専門教育科目 [S] 理学部専門教育科目

事項
履修
一般

学
籍

単
位
互
換
制
度

英
語
学
科

ヨ
ー
ロ
ッ
パ
学
科

ア
メ
リ
カ
学
科

学
際
関
係
学
科

外
国
語
検
定
試
験
合
格
制
度

融
合
教
育
カ
リ
キ
ュ
ー
ラ
ム

グ
ロ
ー
バ
ル
な
学
び
(G
E
T)

教
職
課
程

学
校
図
書
館
司
書
教
諭
課
程

規
程

人事・労務プログラム

◇目的

企業や団体を経営するには、4つの要素（ヒト・モノ・カネ・情報）が必要だといわれます。そのうち、「ヒト」に関する業務すなわち人事業務を扱う人材を養成することが、人事・労務プログラムの目的です。

本プログラムは、働くことや人々の生活にまつわる法、「ヒト」にかかわる経営学を中心に、企業の人事部長や社会保険労務士、労働基準監督官らによるリレー講義、社会保険労務士事務所でのインターンシップなどで構成されています。本プログラムで学べば、労働法・社会保障法についての法的知識、人事制度にまつわる経営学の知識、さらには少人数のアクティブ・ラーニングを通じてコミュニケーション能力や主体的に学ぶ能力も身に付けられます。

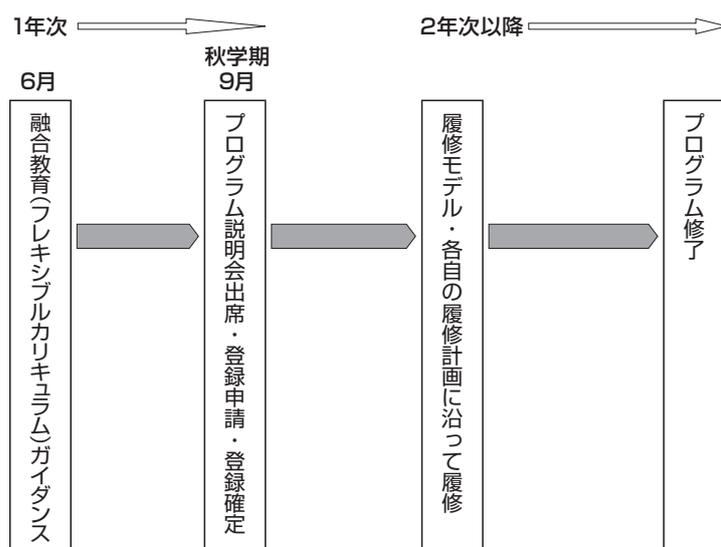
人事業務の国家資格である社会保険労務士、国家公務員である労働基準監督官、企業の人事・総務部門、人材育成や人材派遣などの人材業界で働きたいと考える人に有用なプログラムです。

◇履修条件

本プログラムのいくつかの主要科目を履修し、プログラム修了証を得るには、プログラム登録が必要です。1年次秋学期に実施する説明会に出席し、プログラム登録申請をしてください。

基幹科目のうち「雇用関係法」「労使関係法」「社会保険法」は、プログラム登録者のみ履修登録ができます。また、実務家によるリレー講義「人事・労務の実務」と「実践労働法演習」は、プログラム登録者を優先します。「人事・労務インターンシップ」と「3年次演習A、B」は、プログラム登録者に限定され、かつ、定員が設けられています。履修希望者多数の場合には、成績などで選抜します。

◇プログラム修了までのスケジュール



◇修了証の発行

プログラム登録をした上で、次の科目の単位を修得した者に、プログラム修了証を発行します。

- ① 基礎科目・基幹科目すべて
- ② 演習科目のうち1科目2単位以上
- ③ 関連科目のうち5科目10単位以上

◇履修モデル

*履修モデルは、段階的に学修をすすめるための目安です。実際の配当年次と異なる場合があります。

	1年次	2年次	3～4年次	プログラム 修了要件
基礎科目	[共] 融合教育のための民法(概論・総則) [共] 経営学の世界 [共] 経営学入門			すべて 修得
基幹科目		[B] 経営管理論 [J] 雇用関係法 [J] 労使関係法 [J] 社会保険法 [J] 人事・労務の実務	[B] 人的資源管理基礎 [B] 人的資源管理応用	すべて 修得
演習科目		[J] 人事・労務インターンシップ [J] 実践労働法演習	[J] 3年次演習A、B	1科目2単位 以上修得
関連科目	[共] 融合教育のための商法	[共] 融合教育のための民法(総則・物権) [E] 労働経済学A、B [E] 企業経済論A、B [J] 格差と雇用政策 [J] 社会福祉法 [J] 行政法総論A、B [J] 民法Ⅱ(債権各論) [J] 会社法Ⅰ、Ⅱ [J] 税法Ⅰ(所得税法) [J] 税法Ⅲ(法人税法)	[E] 中小企業論A、B [E] 不平等の経済学 [E] 家計の経済学A、B [E] 社会保障論 [B] 経営組織論(マクロ) [B] 経営組織論(ミクロ) [B] 組織におけるメンタルヘルス [B] 産業組織心理学 [J] 契約法発展 [J] 不法行為法発展 [J] 企業組織法 [J] 行政救済法	5科目10単位 以上修得

[共] 共通教育科目 [E] 経済学部専門教育科目 [B] 経営学部専門教育科目 [J] 法学部専門教育科目

履修
一般

学
籍

単
位
互
換
制
度

英
語
学
科

ヨ
ー
ロ
ッ
パ
語
学
科

ア
ジ
ア
語
学
科

国
際
関
係
学
科

外
国
語
検
定
試
験
合
格
制
度

融
合
教
育
カ
リ
キ
ュ
ラ
ム

グ
ロ
ー
バ
ル
な
学
び
(G
E
T)

教
職
課
程

学
校
図
書
館
司
書
教
諭
課
程

規
程

会計・税務プログラム

◇目的

このプログラムは、将来、会計・税務の専門家となるために必要な会計や法律の知識を、学部間の垣根を越えて効果的に修得し、会計・税務領域で幅広く活躍できる人材の育成を目的としています。具体的には、会計や税務の専門家である公認会計士（監査業務を行う）、税理士（申告書類の作成などを行う）、あるいは、税務署の専門職員である国税専門官などを目指す方に有用なプログラムです。

さらに、税理士試験の一部科目免除申請が可能となる大学院進学（ジョイントプログラム：税務エキスパート）の基礎段階として必要な知識の修得にも役立ちます。

◇履修条件

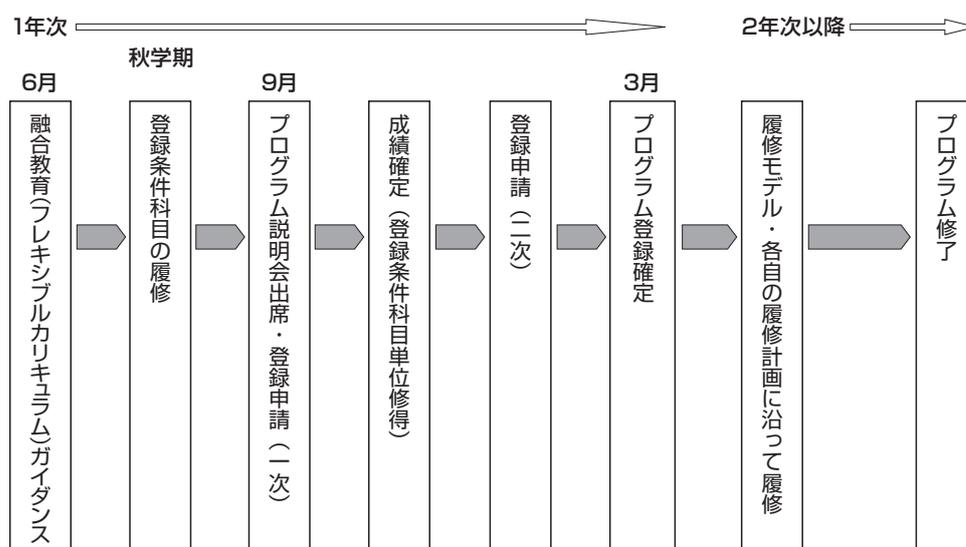
このプログラムに参加するためには、まず1年次春学期に融合教育（フレキシブルカリキュラム）ガイダンス（6月実施予定）に出席し、プログラムの内容を理解したうえで、秋学期に「登録条件科目」の履修を行ってください。

次に、秋学期に実施するプログラム説明会に出席し、登録申請（一次）を必ず行ってください。申請と登録条件科目の単位修得ができ、別に定める基準を満たした者が、2年次以降の登録申請（二次）を認められます。登録定員は100名です。

申請が認められた者は、次頁履修モデルの基礎科目・基幹科目・関連科目を参考にしながら履修を行ってください。

また、このプログラムとは直接リンクはしていませんが、本プログラムの学修効果をより上げるために、課外講座の「簿記検定講座」など、並行して受講することを強く勧めます。

◇プログラム修了までのスケジュール



◇修了証の発行

プログラム登録をした上で、次の科目の単位を修得した者に、プログラム修了証を発行します。

- ① 登録条件科目1科目2単位
- ② 基礎科目から8科目16単位以上
- ③ 基幹科目A群から1科目2単位以上、基幹科目B群から1科目2単位以上、計3科目6単位以上
- ④ 関連科目から1科目2単位以上
- ⑤ 上記の修得単位が合計26単位以上

◇履修モデル

*履修モデルは、段階的に学修をすすめるための目安です。実際の配当年次と異なる場合があります。

		1年次	2年次	3～4年次	プログラム 修了要件	
登録 科目 条件		[共]簿記入門			1科目2単位 修得	
基礎 科目 必修		[共]融合教育のための民法(概論・総則) [共]融合教育のための商法 [共]会計学入門 [共]経営学の世界 [共]経営学入門	[共]融合教育のための民法(総則・物権)	[J]税法I(所得税法)	7科目 14単位	8科目 16単位 以上 修得
			[B]商業簿記Ⅲ [B]商業簿記Ⅳ		1科目 2単位 以上	
基礎 科目 A群 B群	A群		[B]財務会計基礎 [B]財務会計応用 [B]所得税会計	[B]法人税会計	1科目 2単位 以上	計3科目 6単位 以上 修得
	B群	[J]憲法初級A(統治機構論) [J]民法Ⅱ(債権各論)	[J]税法Ⅱ(相続税法) [J]税法Ⅲ(法人税法) [J]行政法総論A、B [J]商法概論 [J]会社法Ⅰ		1科目 2単位 以上	
関連 科目			[E]マクロ経済学A、B [E]ミクロ経済学A、B [E]財政学A、B [B]工業簿記 [B]原価計算 [B]会計史 [J]憲法初級B(基本的人権論) [J]行政組織法 [J]民法Ⅲ(債権総論・担保物権) [J]民法Ⅳ(親族・相続) [J]会社法Ⅱ	[E]公共政策A、B [E]社会保障論 [E]地方財政論 [B]原価管理 [B]監査論 [B]管理会計 [B]国際会計 [B]財務諸表分析 [B]公会計 [B]NPO会計 [J]企業組織法 [J]企業ファイナンス法	1科目2単位 以上修得	

[共] 共通教育科目 [E] 経済学部専門教育科目 [B] 経営学部専門教育科目 [J] 法学部専門教育科目

◇その他

プログラム履修状況のチェックや履修生同士の親睦を目的として、年度末に集会等を企画しますので必ず参加してください。

履修
一般

学
籍

単
位
互
換
制
度

英
語
学
科

ヨ
ー
ロ
ッ
パ
語
学
科

ア
ジ
ア
語
学
科

国
際
関
係
学
科

外
国
語
検
定
試
験
合
格
制
度

融
合
教
育
カ
リ
キ
ュ
ラ
ム

グ
ロ
ー
バ
ル
な
学
び
(G
E
T)

教
職
課
程

学
校
図
書
館
司
書
教
諭
課
程

規
程

多文化共生の地域づくりプログラム

◇目的

現在の日本社会には、200万人を超える外国人が暮らしています。日本に住む人の60人に1人は在留外国人です。日本はすでに多文化社会になったといっても、過言ではありません。文化の違う人々が共に生活すると、さまざまなトラブルが生じたり、特別な支援が必要になったりします。しかし、トラブルをうまく解決し適切な支援が行えると、異文化との交流によって日本社会がさらに豊かな文化を形成していくことができるでしょう。

このプログラムは、外国人住民が日常生活を送る地域社会において、日本人と外国人住民との円滑なコミュニケーションを図り、豊かな多文化共生のまちづくり・むらづくりのリーダーやコーディネーターとなることができる人材を育成します。地方公務員、国際交流協会や国際交流・外国人支援・まちづくりなどの分野のNPOの職員、行政書士、入国管理局職員、弁護士、コミュニティー通訳など、外国人を支援する業務のある職業をめざす人や、ボランティア、地域のリーダーなどとして地域社会に貢献したい人に勧めます。

日本在住外国人で話者が多い中国語と韓国語を対象とします。

◇履修条件

このプログラムを履修できるのは、次のいずれかに該当する方です。

- (1) アジア言語学科中国語専攻の学生
- (2) アジア言語学科韓国語専攻の学生
- (3) アジア言語学科日本語・コミュニケーション専攻で、中国語または韓国語を専攻する学生
- (4) 国際関係学科の学生
- (5) 外国人留学生（所属学科・母語を問わない）

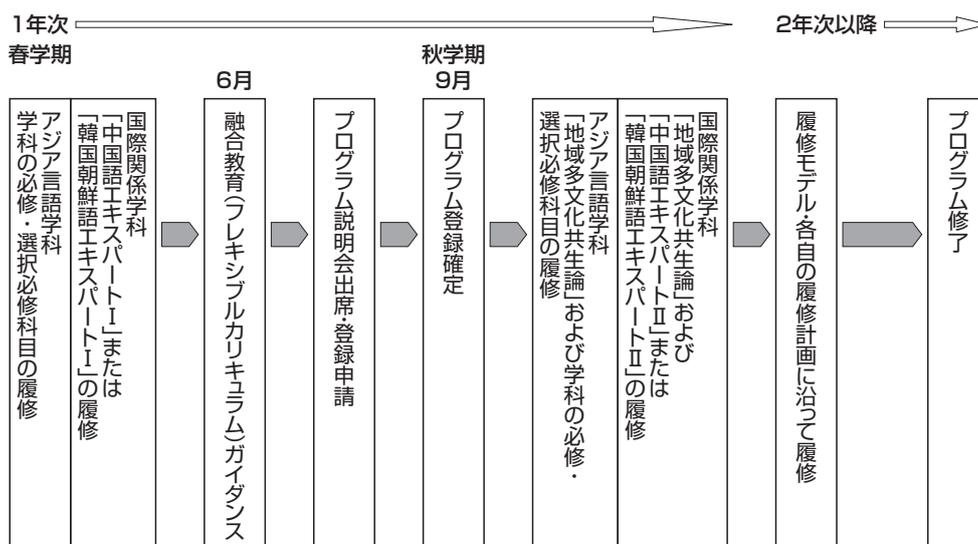
必須科目「地域多文化共生論」「外国人と法」と選択必須科目「地域多文化共生実習」「共生のための日本語演習」の履修登録をするには、プログラム登録が必要です。1年次春学期（6月頃）に実施する説明会に出席し、プログラム登録申請をしてください。1年次春学期配当の専門教育科目の必修科目すべてを修得した者に、プログラム登録を認めます。

語学力養成のためには、留学するのが一番です。中国・台湾・韓国への留学を強く勧めます。

【国際関係学科】

「中国語エキスパートⅠ」と「韓国朝鮮語エキスパートⅠ」のいずれかを、1年次春学期から履修してください。1年次春学期配当の専門教育科目の必修科目すべてと、「中国語エキスパートⅠ」または「韓国朝鮮語エキスパートⅠ」を修得した者に、プログラム登録を認めます。

◇プログラム修了までのスケジュール



◇修了証の発行

必須科目すべてと、選択必須科目「地域多文化共生実習」「共生のための日本語演習」のうち1科目2単位以上を修得した者に、プログラム修了証を発行します。関連科目は、より深く、より幅広く学びたいときに、履修してください。修得した関連科目は、修了証に記載します。

【国際関係学科】

次の①～③の科目を修得した者に、プログラム修了証を発行します。

- ①必須科目すべて
- ②「地域多文化共生実習」「共生のための日本語演習」のうち1科目2単位以上
- ③「〇〇語会話」「検定で学ぶ〇〇語」「検定〇〇語」「検定試験認定単位」「海外実習科目」「〇〇語海外実習」「〇〇文化論」から8単位以上（ただし、「〇〇文化論」は6単位までに限る）

関連科目は、より深く、より幅広く学びたいときに、履修してください。修得した関連科目は、修了証に記載します。（国際関係学科生の履修モデルを参照してください。）

◇履修モデル【アジア言語学科生、外国人留学生】

*履修モデルは段階的に学修をすすめるための目安です。実際の配当年次と異なる場合があります。

	1年次	2年次	3～4年次	プログラム修了要件
科目必須	〔J〕 地域多文化共生論	〔J〕 外国人と法		すべて修得
科目選択必須		〔J〕 地域多文化共生実習	〔L〕 共生のための日本語演習	1科目2単位以上選択修得
関連科目	〔共〕 法学と政治学の世界	〔J〕 行政法総論A、B 〔J〕 地方自治法 〔J〕 雇用関係法 〔J〕 社会保険法 〔J〕 社会福祉法 〔J〕 民法Ⅳ（親族・相続） 〔J〕 国際私法 〔J〕 刑事司法と外国人 〔J〕 ジェンダーと法 〔J〕 公共政策概論 〔J〕 公共政策と市民社会 〔J〕 地域ガバナンス論	〔J〕 行政救済法 〔J〕 地方自治未来論	修了要件外 修得科目を修了証に記載

〔共〕 共通教育科目 〔J〕 法学部専門教育科目 〔L〕 外国語学部専門教育科目

◇履修モデル【国際関係学科生】

*履修モデルは段階的に学修をすすめるための目安です。実際の配当年次と異なる場合があります。

中国語

	1年次	2年次	3～4年次	プログラム 修了要件
必須科目	〔J〕 地域多文化共生論	〔J〕 外国人と法		すべて修得
	〔共〕 中国語エキスパート I、II	〔共〕 中国語エキスパート発展 IA、IB 〔共〕 中国語エキスパート発展 IIA、IIB		すべて修得
選択科目 必須		〔J〕 地域多文化共生実習	〔L〕 共生のための日本語演習	1科目2単位 以上選択修得
	〔共〕 中国語会話（初級）I、II 〔共〕 検定で学ぶ中国語（初級）I、II 〔共〕 海外実習科目（中国語） 〔L〕 中国語海外実習	〔共〕 中国語会話（中級）I、II 〔共〕 検定で学ぶ中国語（中級）I、II 〔L〕 中国文化論 AI、AII 〔L〕 中国文化論 CI、CII	〔共〕 中国語会話（上級）I、II 〔L〕 検定中国語（上級）I、II	8単位以上 選択修得 (うち中国文化論は6単位 まで)
関連科目	〔共〕 法学と政治学の世界	〔J〕 行政法総論A、B 〔J〕 地方自治法 〔J〕 雇用関係法 〔J〕 社会保険法 〔J〕 社会福祉法 〔J〕 民法Ⅳ（親族・相続） 〔J〕 国際私法 〔J〕 刑事司法と外国人 〔J〕 ジェンダーと法 〔J〕 公共政策概論 〔J〕 公共政策と市民社会 〔J〕 地域ガバナンス論 〔J〕 法学中書講読	〔J〕 行政救済法 〔J〕 地方自治未来論	修了要件外 修得科目を 修了証に記載

〔共〕 共通教育科目 〔J〕 法学部専門教育科目 〔L〕 外国語学部専門教育科目

韓国語

	1年次	2年次	3～4年次	プログラム 修了要件
必須科目	〔J〕 地域多文化共生論	〔J〕 外国人と法		すべて修得
	〔共〕 韓国朝鮮語エキスパート I、II	〔共〕 韓国朝鮮語エキスパート発展 IA、IB 〔共〕 韓国朝鮮語エキスパート発展 IIA、IIB		すべて修得
選択科目 必須		〔J〕 地域多文化共生実習	〔L〕 共生のための日本語演習	1科目2単位 以上選択修得
	〔共〕 韓国朝鮮語会話（初級）I、II 〔共〕 検定で学ぶ韓国朝鮮語（初級）I、II 〔共〕 海外実習科目（韓国語） 〔L〕 韓国語海外実習	〔共〕 韓国朝鮮語会話（中級）I、II 〔L〕 韓国文化論A、B	〔L〕 検定韓国語（上級）I、II	8単位以上 選択修得
関連科目	〔共〕 法学と政治学の世界	〔J〕 行政法総論A、B 〔J〕 地方自治法 〔J〕 雇用関係法 〔J〕 社会保険法 〔J〕 社会福祉法 〔J〕 民法Ⅳ（親族・相続） 〔J〕 国際私法 〔J〕 刑事司法と外国人 〔J〕 ジェンダーと法 〔J〕 公共政策概論 〔J〕 公共政策と市民社会 〔J〕 地域ガバナンス論	〔J〕 行政救済法 〔J〕 地方自治未来論	修了要件外 修得科目を 修了証に記載

〔共〕 共通教育科目 〔J〕 法学部専門教育科目 〔L〕 外国語学部専門教育科目

外国語ステップアッププログラム

◇目的

外国語ステップアッププログラムでは、最初に週4回の「エキスパート」科目で新たに学ぶ外国語の基礎をしっかりと固めたあと、2年次以降、様々な選択科目を履修して語学力を磨き、ハイレベルな語学運用能力を身につけていきます。1年間エキスパート科目で勉強した人をさらにのばす「エキスパート発展」科目、各言語の検定試験を準備する授業、ネイティブ教員も担当する会話やLL機器による授業、語学力を専門分野で活かすための準備となる講読の授業などがあります。各人のレベルにあった科目を選択できるように、初級・中級・上級のクラスを設け、在学期間を通して計画的な外国語学習が可能になるように配慮しています。

また、最初は週2回の「たのしく学ぶ〇〇語」の授業で、基礎的な語学力を身につけることから出発して、2年目以降、自分のペースで選択した科目を履修していくこともできます。

選択できる外国語はドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、スペイン語、インドネシア語、イタリア語、韓国朝鮮語の8言語です。経済・法・外国語・文化学部にはこれらの外国語を使う専門教育科目もあり、一定のレベルに到達したら、そうした専門教育科目を積極的に履修して実践的な語学力をいっそう高めることができます。さらに、在学留学などの制度を活かして、海外での学習をつめば、各人の専門分野での知識と合わせて、国際機関、NGO、商社等、海外で活躍する語学スペシャリストとなることも可能になってくるでしょう。

◇履修条件

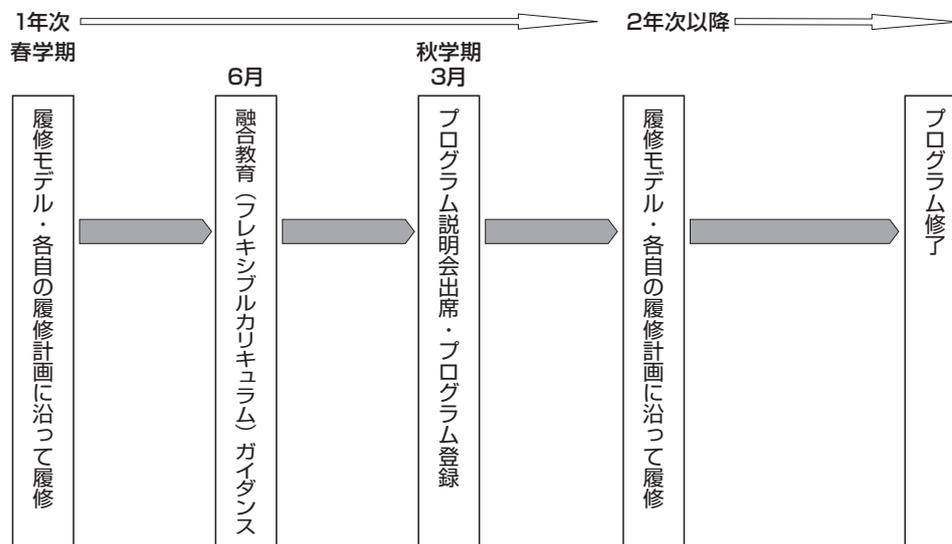
講義要項で講義目的、授業の到達目標等を確認し、自分のレベルに適した科目から履修することが重要です。

外国語学部専門教育科目「〇〇語専門セミナー」は、習得した語学力を応用して実力をさらに高める内容です。履修にはハイレベルの語学力が必要です。

経済学部専門教育科目のドイツ語・フランス語・中国語・韓国朝鮮語の「経済書セミナー」の科目を履修するためには、該当する言語の科目を4単位以上修得しているか、あるいはそれと同等レベルの語学力が必要です。

プログラム修了証を得るには、プログラム説明会に出席し、プログラム登録をする必要があります。プログラム説明会の日程については、電子掲示板POSTでお知らせします。

◇プログラム修了までのスケジュール



◇修了証の発行

各言語の科目一覧の中から同一言語で中心科目を14単位以上含んで、合計20単位以上修得した者には、本学から外国語ステップアッププログラムの修了証明書を卒業時に発行します。

◇履修モデル

*履修モデルは段階的に学修をすすめるための目安です。実際の配当年次と異なる場合があります。

		1 年 次	2～4 年次	プログラム修了要件		
ドイツ語	中心科目	〔共〕 たのしく学ぶドイツ語ⅠA 〔共〕 たのしく学ぶドイツ語ⅡA 〔共〕 たのしく学ぶドイツ語ⅠB 〔共〕 たのしく学ぶドイツ語ⅡB 〔共〕 ドイツ語エキスパートⅠ 〔共〕 ドイツ語エキスパートⅡ 〔共〕 ドイツ語会話（初級）Ⅰ 〔共〕 ドイツ語会話（初級）Ⅱ 〔共〕 ドイツ語LL（初級）Ⅰ 〔共〕 ドイツ語LL（初級）Ⅱ 〔共〕 検定試験認定科目 〔L〕 ドイツ語海外実習 （2年次以降に選択することも可能）	（各自のレベルに合った科目を選択する） 〔共〕 ドイツ語エキスパート発展ⅠA 〔共〕 ドイツ語エキスパート発展ⅠB 〔共〕 検定で学ぶドイツ語（初級）Ⅰ 〔共〕 ドイツ語会話（中級）Ⅰ 〔共〕 ドイツ語LL（中級）Ⅰ 〔共〕 ドイツ語講読Ⅰ 〔L〕 ドイツ語専門セミナー 〔L〕 検定ドイツ語（上級）Ⅰ 〔C〕 ドイツ文化講読ⅠA 〔C〕 ドイツ文化講読ⅠB 《在学留学》	〔共〕 ドイツ語エキスパート発展ⅡA 〔共〕 ドイツ語エキスパート発展ⅡB 〔共〕 検定で学ぶドイツ語（初級）Ⅱ 〔共〕 ドイツ語会話（中級）Ⅱ 〔共〕 ドイツ語LL（中級）Ⅱ 〔共〕 ドイツ語講読Ⅱ 〔L〕 検定ドイツ語（上級）Ⅱ 〔C〕 ドイツ文化講読ⅡA 〔C〕 ドイツ文化講読ⅡB	14単位以上	20単位以上修得
	関係科目		（各自のレベルに合った科目を選択する） 〔E〕 独語経済書セミナーⅠ-A 〔E〕 独語経済書セミナーⅡ-A 〔J〕 政治学独書講読	〔E〕 独語経済書セミナーⅠ-B 〔E〕 独語経済書セミナーⅡ-B 〔J〕 法学独書講読		

〔共〕 共通教育科目 〔E〕 経済学部専門教育科目 〔J〕 法学部専門教育科目 〔L〕 外国語学部専門教育科目
〔C〕 文化学部専門教育科目

		1 年 次	2～4 年次	プログラム修了要件		
フランス語	中心科目	〔共〕 たのしく学ぶフランス語ⅠA 〔共〕 たのしく学ぶフランス語ⅡA 〔共〕 たのしく学ぶフランス語ⅠB 〔共〕 たのしく学ぶフランス語ⅡB 〔共〕 フランス語エキスパートⅠ 〔共〕 フランス語エキスパートⅡ 〔共〕 フランス語会話（初級）Ⅰ 〔共〕 フランス語会話（初級）Ⅱ 〔共〕 フランス語LL（初級）Ⅰ 〔共〕 フランス語LL（初級）Ⅱ 〔共〕 検定試験認定科目 〔L〕 フランス語海外実習 （2年次以降に選択することも可能）	（各自のレベルに合った科目を選択する） 〔共〕 フランス語エキスパート発展ⅠA 〔共〕 フランス語エキスパート発展ⅠB 〔共〕 検定で学ぶフランス語（初級）Ⅰ 〔共〕 検定で学ぶフランス語（中級）Ⅰ 〔共〕 フランス語会話（中級）Ⅰ 〔共〕 フランス語会話（上級）Ⅰ 〔共〕 フランス語LL（中級）Ⅰ 〔共〕 フランス語講読Ⅰ 〔L〕 フランス語専門セミナー 〔L〕 検定フランス語（上級）Ⅰ 〔C〕 フランス文化講読ⅠA 〔C〕 フランス文化講読ⅠB 《在学留学》	〔共〕 フランス語エキスパート発展ⅡA 〔共〕 フランス語エキスパート発展ⅡB 〔共〕 検定で学ぶフランス語（初級）Ⅱ 〔共〕 検定で学ぶフランス語（中級）Ⅱ 〔共〕 フランス語会話（中級）Ⅱ 〔共〕 フランス語会話（上級）Ⅱ 〔共〕 フランス語LL（中級）Ⅱ 〔共〕 フランス語講読Ⅱ 〔L〕 検定フランス語（上級）Ⅱ 〔C〕 フランス文化講読ⅡA 〔C〕 フランス文化講読ⅡB	14単位以上	20単位以上修得
	関係科目		（各自のレベルに合った科目を選択する） 〔E〕 仏語経済書セミナーⅠ-A 〔E〕 仏語経済書セミナーⅡ-A 〔J〕 政治学仏書講読 〔L〕 フランス語学概論Ⅰ 〔L〕 フランス語学A（音声学・音韻論）Ⅰ 〔L〕 フランス語学B（統語・意味論）Ⅰ 〔L〕 フランス文化概論Ⅰ 〔L〕 フランス文化論AⅠ 〔L〕 フランス文化論BⅠ 〔L〕 フランス文化論CⅠ	〔E〕 仏語経済書セミナーⅠ-B 〔E〕 仏語経済書セミナーⅡ-B 〔J〕 法学仏書講読 〔L〕 フランス語学概論Ⅱ 〔L〕 フランス語学A（音声学・音韻論）Ⅱ 〔L〕 フランス語学B（統語・意味論）Ⅱ 〔L〕 フランス文化概論Ⅱ 〔L〕 フランス文化論AⅡ 〔L〕 フランス文化論BⅡ 〔L〕 フランス文化論CⅡ		

〔共〕 共通教育科目 〔E〕 経済学部専門教育科目 〔J〕 法学部専門教育科目 〔L〕 外国語学部専門教育科目
〔C〕 文化学部専門教育科目

		1 年 次	2～4 年次	プログラム修了要件		
中 国 語	中心科目	〔共〕 たのしく学ぶ中国語ⅠA 〔共〕 たのしく学ぶ中国語ⅡA 〔共〕 たのしく学ぶ中国語ⅠB 〔共〕 たのしく学ぶ中国語ⅡB 〔共〕 中国語エキスパートⅠ 〔共〕 中国語エキスパートⅡ 〔共〕 中国語会話(初級)Ⅰ 〔共〕 中国語会話(初級)Ⅱ 〔共〕 中国語LL(初級)Ⅰ 〔共〕 中国語LL(初級)Ⅱ 〔共〕 検定試験認定科目 〔L〕 中国語海外実習 (2年次以降に選択することも可能)	(各自のレベルに合った科目を選択する) 〔共〕 中国語エキスパート発展ⅠA 〔共〕 中国語エキスパート発展ⅠB 〔共〕 検定で学ぶ中国語(初級)Ⅰ 〔共〕 検定で学ぶ中国語(中級)Ⅰ 〔共〕 中国語会話(中級)Ⅰ 〔共〕 中国語会話(上級)Ⅰ 〔共〕 中国語LL(中級)Ⅰ 〔共〕 中国語講読Ⅰ 〔L〕 中国語専門セミナー 〔L〕 検定中国語(上級)Ⅰ 〔C〕 中国文化講読ⅠA 〔C〕 中国文化講読ⅠB 《在学留学》	〔共〕 中国語エキスパート発展ⅡA 〔共〕 中国語エキスパート発展ⅡB 〔共〕 検定で学ぶ中国語(初級)Ⅱ 〔共〕 検定で学ぶ中国語(中級)Ⅱ 〔共〕 中国語会話(中級)Ⅱ 〔共〕 中国語会話(上級)Ⅱ 〔共〕 中国語LL(中級)Ⅱ 〔共〕 中国語講読Ⅱ 〔L〕 検定中国語(上級)Ⅱ 〔C〕 中国文化講読ⅡA 〔C〕 中国文化講読ⅡB	14単位以上	20単位以上修得
	関係科目		(各自のレベルに合った科目を選択する) 〔E〕 中国語経済書セミナー 〔J〕 政治学中書講読 〔L〕 中国語学概論Ⅰ 〔L〕 中国語学AⅠ 〔L〕 中国語学BⅠ 〔L〕 中国文化概論Ⅰ 〔L〕 中国文化論AⅠ 〔L〕 中国文化論BⅠ 〔L〕 中国文化論CⅠ 〔L〕 中国文学概論Ⅰ 〔L〕 中国文学AⅠ 〔L〕 中国文学BⅠ 〔L〕 広東語とその言語社会Ⅰ 〔C〕 中国の歴史と文化	〔J〕 法学中書講読 〔L〕 中国語学概論Ⅱ 〔L〕 中国語学AⅡ 〔L〕 中国語学BⅡ 〔L〕 中国文化概論Ⅱ 〔L〕 中国文化論AⅡ 〔L〕 中国文化論BⅡ 〔L〕 中国文化論CⅡ 〔L〕 中国文学概論Ⅱ 〔L〕 中国文学AⅡ 〔L〕 中国文学BⅡ 〔L〕 広東語とその言語社会Ⅱ		

〔共〕 共通教育科目 〔E〕 経済学部専門教育科目 〔J〕 法学部専門教育科目 〔L〕 外国語学部専門教育科目
〔C〕 文化学部専門教育科目

		1 年 次	2～4 年次	プログラム修了要件		
ロ シ ア 語	中心科目	〔共〕 たのしく学ぶロシア語ⅠA 〔共〕 たのしく学ぶロシア語ⅡA 〔共〕 たのしく学ぶロシア語ⅠB 〔共〕 たのしく学ぶロシア語ⅡB 〔共〕 ロシア語会話(初級)Ⅰ 〔共〕 ロシア語会話(初級)Ⅱ 〔共〕 検定試験認定科目 〔L〕 ロシア語海外実習 (2年次以降に選択することも可能)	(各自のレベルに合った科目を選択する) 〔共〕 検定で学ぶロシア語(初級)Ⅰ 〔共〕 ロシア語会話(中級)Ⅰ 〔共〕 ロシア語講読Ⅰ 〔L〕 ロシア語専門セミナー 〔L〕 検定ロシア語(上級)Ⅰ	〔共〕 検定で学ぶロシア語(初級)Ⅱ 〔共〕 ロシア語会話(中級)Ⅱ 〔共〕 ロシア語講読Ⅱ 〔L〕 検定ロシア語(上級)Ⅱ	14単位以上	20単位以上修得
	関係科目		(各自のレベルに合った科目を選択する) 〔J〕 政治学露書講読 〔L〕 ロシア語学概論Ⅰ 〔L〕 ロシア語学A 〔L〕 ロシア文学・文化概論Ⅰ 〔L〕 ロシア文化論A	〔J〕 法学露書講読 〔L〕 ロシア語学概論Ⅱ 〔L〕 ロシア語学B 〔L〕 ロシア文学・文化概論Ⅱ 〔L〕 ロシア文化論B		

〔共〕 共通教育科目 〔J〕 法学部専門教育科目 〔L〕 外国語学部専門教育科目

		1 年 次	2～4 年次	プログラム修了要件		
ス ペ イ ン 語	中心科目	〔共〕 たのしく学ぶスペイン語ⅠA 〔共〕 たのしく学ぶスペイン語ⅡA 〔共〕 たのしく学ぶスペイン語ⅠB 〔共〕 たのしく学ぶスペイン語ⅡB 〔共〕 スペイン語エキスパートⅠ 〔共〕 スペイン語エキスパートⅡ 〔共〕 スペイン語会話(初級)Ⅰ 〔共〕 スペイン語会話(初級)Ⅱ 〔共〕 スペイン語LL(初級)Ⅰ 〔共〕 スペイン語LL(初級)Ⅱ 〔共〕 検定試験認定科目 〔L〕 スペイン語海外実習 (2年次以降に選択することも可能)	(各自のレベルに合った科目を選択する) 〔共〕 スペイン語エキスパート発展ⅠA 〔共〕 スペイン語エキスパート発展ⅠB 〔共〕 検定で学ぶスペイン語(初級)Ⅰ 〔共〕 スペイン語LL(中級)Ⅰ 〔共〕 スペイン語講読Ⅰ 〔L〕 スペイン語専門セミナー 〔L〕 検定スペイン語(上級)Ⅰ 〔C〕 スペイン文化講読ⅠA 〔C〕 スペイン文化講読ⅠB 《在学留学》	〔共〕 スペイン語エキスパート発展ⅡA 〔共〕 スペイン語エキスパート発展ⅡB 〔共〕 検定で学ぶスペイン語(初級)Ⅱ 〔共〕 スペイン語LL(中級)Ⅱ 〔共〕 スペイン語講読Ⅱ 〔L〕 検定スペイン語(上級)Ⅱ 〔C〕 スペイン文化講読ⅡA 〔C〕 スペイン文化講読ⅡB	14単位以上	20単位以上修得
	関係科目		(各自のレベルに合った科目を選択する) 〔L〕 スペイン語学概論Ⅰ 〔L〕 スペイン語学A 〔L〕 スペイン文学・文化概論Ⅰ 〔L〕 スペイン文化論A 〔C〕 アメリカ文化の基礎	〔L〕 スペイン語学概論Ⅱ 〔L〕 スペイン語学B 〔L〕 スペイン文学・文化概論Ⅱ 〔L〕 スペイン文化論B		

〔共〕 共通教育科目 〔L〕 外国語学部専門教育科目 〔C〕 文化学部専門教育科目

履修一般

学籍

単位互換制度

英語学科

言語学

言語学

国際関係

外国語検定試験合格

融合教育

グローバルな学び

教職課程

図書館司書課程

規程

		1 年 次	2～4 年次	プログラム修了要件		
インドネシア語	中心科目	〔共〕 たのしく学ぶインドネシア語ⅠA 〔共〕 たのしく学ぶインドネシア語ⅡA 〔共〕 たのしく学ぶインドネシア語ⅠB 〔共〕 たのしく学ぶインドネシア語ⅡB 〔共〕 インドネシア語エキスパートⅠ 〔共〕 インドネシア語エキスパートⅡ 〔共〕 インドネシア語会話(初級)Ⅰ 〔共〕 インドネシア語会話(初級)Ⅱ 〔共〕 検定試験認定科目 〔L〕 インドネシア語海外実習 (2年次以降に選択することも可能)	(各自のレベルに合った科目を選択する) 〔共〕 インドネシア語エキスパート発展ⅠA 〔共〕 インドネシア語エキスパート発展ⅠB 〔L〕 インドネシア語専門セミナー 〔L〕 検定インドネシア語(上級)Ⅰ	〔共〕 インドネシア語エキスパート発展ⅡA 〔共〕 インドネシア語エキスパート発展ⅡB 〔共〕 インドネシア語会話(中級)Ⅰ 〔L〕 検定インドネシア語(上級)Ⅱ	14単位以上	20単位以上修得
	関係科目		《在学留学》 (各自のレベルに合った科目を選択する) 〔L〕 インドネシア語学概論Ⅰ 〔L〕 インドネシア語学A 〔L〕 インドネシア文学・文化概論Ⅰ 〔L〕 インドネシア文化論A 〔L〕 インドネシア文学A	〔L〕 インドネシア語学概論Ⅱ 〔L〕 インドネシア語学B 〔L〕 インドネシア文学・文化概論Ⅱ 〔L〕 インドネシア文化論B 〔L〕 インドネシア文学B		

〔共〕 共通教育科目 〔L〕 外国語学部専門教育科目

		1 年 次	2～4 年次	プログラム修了要件		
イタリア語	中心科目	〔共〕 たのしく学ぶイタリア語ⅠA 〔共〕 たのしく学ぶイタリア語ⅡA 〔共〕 たのしく学ぶイタリア語ⅠB 〔共〕 たのしく学ぶイタリア語ⅡB 〔共〕 イタリア語エキスパートⅠ 〔共〕 イタリア語エキスパートⅡ 〔共〕 イタリア語会話(初級)Ⅰ 〔共〕 イタリア語会話(初級)Ⅱ 〔共〕 イタリア語LL(初級)Ⅰ 〔共〕 イタリア語LL(初級)Ⅱ 〔共〕 検定試験認定科目 〔L〕 イタリア語海外実習 (2年次以降に選択することも可能)	(各自のレベルに合った科目を選択する) 〔共〕 イタリア語エキスパート発展ⅠA 〔共〕 イタリア語エキスパート発展ⅠB 〔共〕 検定で学ぶイタリア語(初級)Ⅰ 〔共〕 イタリア語会話(中級)Ⅰ 〔共〕 イタリア語LL(中級)Ⅰ 〔共〕 イタリア語講読Ⅰ 〔L〕 イタリア語専門セミナー 〔L〕 検定イタリア語(上級)Ⅰ 〔C〕 イタリア文化講読ⅠA 〔C〕 イタリア文化講読ⅠB	〔共〕 イタリア語エキスパート発展ⅡA 〔共〕 イタリア語エキスパート発展ⅡB 〔共〕 検定で学ぶイタリア語(初級)Ⅱ 〔共〕 イタリア語会話(中級)Ⅱ 〔共〕 イタリア語LL(中級)Ⅱ 〔共〕 イタリア語講読Ⅱ	14単位以上	20単位以上修得
	関係科目		《在学留学》 (各自のレベルに合った科目を選択する) 〔J〕 政治学伊書講読 〔L〕 イタリア語学概論Ⅰ 〔L〕 イタリア語学A 〔L〕 イタリア文学・文化概論Ⅰ 〔L〕 イタリア文化論A 〔L〕 イタリア文学A	〔J〕 法学伊書講読 〔L〕 イタリア語学概論Ⅱ 〔L〕 イタリア語学B 〔L〕 イタリア文学・文化概論Ⅱ 〔L〕 イタリア文化論B 〔L〕 イタリア文学B		

〔共〕 共通教育科目 〔J〕 法学部専門教育科目 〔L〕 外国語学部専門教育科目 〔C〕 文化学部専門教育科目

		1 年 次	2～4 年次	プログラム修了要件		
韓国朝鮮語	中心科目	〔共〕 たのしく学ぶ韓国朝鮮語ⅠA 〔共〕 たのしく学ぶ韓国朝鮮語ⅡA 〔共〕 たのしく学ぶ韓国朝鮮語ⅠB 〔共〕 たのしく学ぶ韓国朝鮮語ⅡB 〔共〕 韓国朝鮮語エキスパートⅠ 〔共〕 韓国朝鮮語エキスパートⅡ 〔共〕 韓国朝鮮語会話(初級)Ⅰ 〔共〕 韓国朝鮮語会話(初級)Ⅱ 〔共〕 韓国朝鮮語LL(初級)Ⅰ 〔共〕 韓国朝鮮語LL(初級)Ⅱ 〔共〕 検定試験認定科目 〔L〕 韓国語海外実習 (2年次以降に選択することも可能)	(各自のレベルに合った科目を選択する) 〔共〕 韓国朝鮮語エキスパート発展ⅠA 〔共〕 韓国朝鮮語エキスパート発展ⅠB 〔共〕 検定で学ぶ韓国朝鮮語(初級)Ⅰ 〔共〕 韓国朝鮮語会話(中級)Ⅰ 〔共〕 韓国朝鮮語講読Ⅰ 〔L〕 検定韓国語(上級)Ⅰ	〔共〕 韓国朝鮮語エキスパート発展ⅡA 〔共〕 韓国朝鮮語エキスパート発展ⅡB 〔共〕 検定で学ぶ韓国朝鮮語(初級)Ⅱ 〔共〕 韓国朝鮮語会話(中級)Ⅱ 〔共〕 韓国朝鮮語講読Ⅱ 〔L〕 検定韓国語(上級)Ⅱ	14単位以上	20単位以上修得
	関係科目		《在学留学》 (各自のレベルに合った科目を選択する) 〔共〕 韓国朝鮮の歴史A 〔共〕 韓国の文化と社会A 〔E〕 韓国朝鮮語経済書セミナー 〔L〕 韓国語学概論Ⅰ 〔L〕 韓国文化論A	〔共〕 韓国朝鮮の歴史B 〔共〕 韓国の文化と社会B 〔L〕 韓国語学概論Ⅱ 〔L〕 韓国文化論B		

〔共〕 共通教育科目 〔E〕 経済学部専門教育科目 〔L〕 外国語学部専門教育科目

グローバルな学び

(GET : Global Studies, Education and Training)

GET (Global Studies, Education and Training) とは

国内外で活躍できる人材の育成を建学の精神に謳う本学は、グローバルな学びを積極的に推進しています。グローバル人材には「国際対話能力」「豊かな教養」「確かな専門性」が求められます。本学では、この3つの資質を体系的に修得できるように、GETと呼ばれるグローバルな教育プログラムを用意しています。

GETの中には、高度な英語力に加えて豊かな教養と専門知識を同時に修得できる「英語による科目」、「在学留学制度」、「海外インターンシップ制度」などのプログラムが整備されています。卒業後、グローバルに活躍することを希望する学生は、積極的に英語による科目を履修し、在学中に海外留学や海外インターンシップを体験してください。

【GETを構成する教育プログラム】

共通教育の必修英語科目

英語による科目

- ・ 英語講義 (共通教育科目 人間科学教育科目)
- ・ 特別英語 (外国語学部専門教育科目)
- ・ 学部専門英語講義

在学留学

海外インターンシップ

共通教育の必修英語科目

グローバル社会の中で活躍し、社会に貢献するためには、実用的な英語運用能力の獲得が必須です。本学の英語教育科目は、従来の「読む」「書く」「話す」「聞く」中心の学習に加えて、より実用的な英語運用能力を向上させる学習手段として、就職活動の入口やビジネス場面で有用とされるTOEIC対応の学習内容を授業に組み込んでいます。さらに、英語コミュニケーション能力を身に付けるための授業も設け、TOEICと英語コミュニケーションの授業を通して「社会人が必要とする英語運用能力に応えられる人材」を育成するプログラムとなっています。また、英語が苦手な人には基礎から学ぶ授業を開講し、基礎から英語運用能力の向上を図るなど、個々のレベルが上がる環境を整えています。

※外国語学部 英語学科、国際関係学科の学生は共通教育の必修英語科目履修対象外となります。

英語による科目

本学は、「英語を学ぶ科目」だけでなく「英語を使って学ぶ科目」が豊富に開講されており、海外からの交換留学生も英語による科目を多く受講しています。これらの科目を履修し単位を取得するためには、一定水準以上の英語力が必要となります。科目ごとに要求される履修条件を確認し、自らの知的好奇心と英語力に合った授業を積極的に履修してください。

【英語講義 (共通教育科目 人間科学教育科目)】

人間科学教育科目の各領域には、英語で宗教学、歴史、経済、政治学、生態学や科学技術などを学ぶ科目を開講しています。これらの講義では、英語でさまざまな国の留学生とともに授業を受けることで、英語力を向上させることのみならず、異文化理解も深めることができます。講義によっては頻繁にグループワークが行われ、積極的にディスカッションへの参加が求められます。また、英語による討論、プレゼンテーション、レポート作成などのアカデミックスキルの修得を通して実践的英語運用能力を学ぶ科目も開講しています。これらの科目は海外留学を考えている学生にはその準備として、留学から帰国した学生には語学力のさらなる向上のための科目として活用することができます。

URL:<http://www.kyoto-su.ac.jp/kokusai/get/program/index.html>

(上記URLの「科目区分別／共通教育科目」をクリック)

【特別英語（外国語学部専門教育科目）】

◇目的

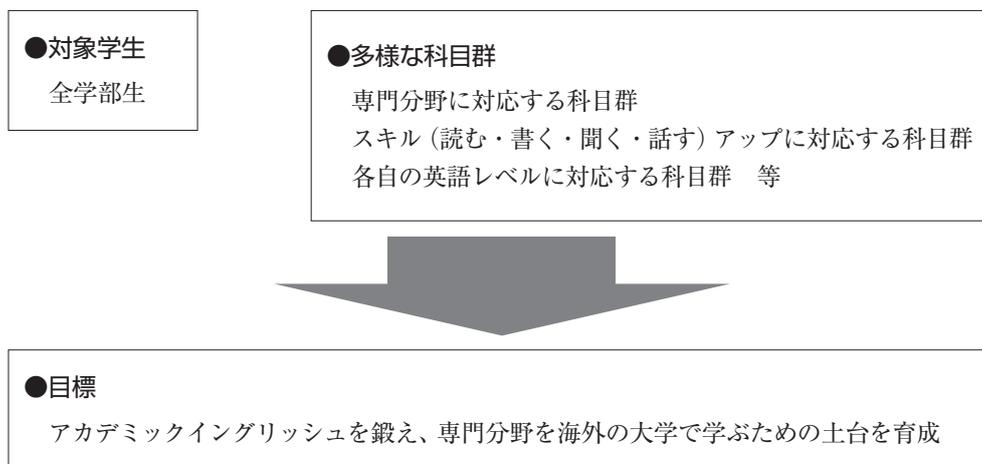
「特別英語」の目的は2つあります。第1は、学部で学んでいる専門分野について、基本的な内容を英語で説明したりディスカッションする能力を育成することです。第2の目的は、海外の大学へ短期・長期留学するために必要な英語力（TOEFL, IELTS）を磨き、帰国後の英語力を発展させることです。この2つの目的を本学学生が達成するサポートをするために開講されるのが「特別英語」です。

URL:<http://www.kyoto-su.ac.jp/kokusai/get/program/index.html>

(☑上記URLの「科目区分別／特別英語プログラム」をクリック)

◇特色

「特別英語」は、在学中に長期留学を考えている学生、大学院へ進学し研究者を目指そうとする学生、専門を活かしグローバル企業で活躍しようと考えている学生などのニーズに応えるために多様な科目を開講し、また、学生の個々の目的・レベルに応じた科目を提供しています。



◇履修条件

「特別英語」は外国語学部の専門教育科目ですが、全学部生が履修できます。

ただし、各科目にはレベルが指定されているため、履修するためには、IELTSもしくはTOEFL iBTのスコアが必要になります。これら英語検定のスコアを所有していない場合は、外国語学部が実施するレベル分けライティングテストとスピーキングテストを受験しなければなりません。(レベル分けテストは学期ごとに定期的実施しています)

なお、各科目のレベルや詳しい授業内容は、シラバス等で確認してください。

また、「特別英語」の履修登録方法は、通常と異なります。詳細は、特別英語履修説明会で説明します。説明会及びライティング・スピーキングテストの開催については、電子掲示板POSTで案内します。

※各レベルの目安

初級：IELTS ～ 4.0 / TOEFL iBT ～ 39

中級：IELTS 4.5～5.0 / TOEFL iBT 40～53

上級：IELTS 5.5～ / TOEFL iBT 54～

【学部専門英語講義】

学部によっては、専門教育科目の一部を英語で開講しています。

URL:<http://www.kyoto-su.ac.jp/kokusai/get/program/index.html>

(☑上記URLの「科目区分別／学部専門科目」をクリック)

※GJP (グローバル・ジャパン・プログラム)

英語による科目(英語講義、特別英語、学部専門英語講義)のうち、日本の文化、歴史、経済などを英語で学ぶ科目を集めたものをGJPと呼んでいます。GJP科目の授業には、様々な国の協定校から来た交換留学生も多く履修しています。海外留学を考えている学生の準備科目として、また、留学から帰国した学生の語学力維持のための科目として活用することができます。

【科目一覧】 ※科目によって履修制限があります。

科目名	単位数	科目区分
GJP Introductory Seminar	2	共通教育科目(総合領域)
Religion in Japan	2	共通教育科目(人文科学領域)
Historical Origins of Modern Japan	2	共通教育科目(人文科学領域)
Japanese Culture in Historical Perspective	2	共通教育科目(人文科学領域)
World Heritage Sites in Japan	2	共通教育科目(人文科学領域)
Introduction to Japanese Literature	2	共通教育科目(人文科学領域)
Modern Japanese Literature	2	共通教育科目(人文科学領域)
Japanese Management and Business	2	共通教育科目(社会科学領域)
Introduction to Japanese Politics	2	共通教育科目(社会科学領域)
Modern Japanese Government	2	共通教育科目(社会科学領域)
Issues in Japanese Society	2	共通教育科目(社会科学領域)
Japanese Science & Technology	2	共通教育科目(自然科学領域)
KSU特別講義(Japan's Foreign Policy)	2	共通教育科目(総合領域)
経済学英語講義A	2	経済学部専門教育科目
経済学英語講義B	2	経済学部専門教育科目
法学英書講読(日本の法律と司法制度)	2	法学部専門教育科目
日本の法律	2	法学部専門教育科目
日本の社会学Ⅰ	2	外国語学部専門教育科目
日本の社会学Ⅱ	2	外国語学部専門教育科目
国際開発学Ⅰ	2	外国語学部専門教育科目
国際開発学Ⅱ	2	外国語学部専門教育科目
英語で京都文化ⅠA	2	文化学部専門教育科目
英語で京都文化ⅠB	2	文化学部専門教育科目
英語で京都文化ⅡA	2	文化学部専門教育科目
英語で京都文化ⅡB	2	文化学部専門教育科目
英語で京都文化実習ⅠA	1	文化学部専門教育科目
英語で京都文化実習ⅠB	1	文化学部専門教育科目
英語で京都文化実習ⅡA	1	文化学部専門教育科目
英語で京都文化実習ⅡB	1	文化学部専門教育科目
英語で読む日本社会(上級)A	1	文化学部専門教育科目
英語で読む日本社会(上級)B	1	文化学部専門教育科目

在学留学

1. 在学留学制度

「在学留学」とは、在学の状態で行う外国の大学へ留学することを言い、「休学」による留学は該当しません。

2. 留学の種類

在学留学には、次の3種類があります。

- (1) 交換留学……本学と交流協定を締結している海外の大学との間で、留学生を相互に派遣または受け入れるを言います。
- (2) 派遣留学……本学の交流協定校へ本学学生を派遣することを言います。
- (3) 認定留学……自分で留学したい大学(学位授与権のある大学)の入学許可書を取り寄せ、本学の許可を得て留学することを言います。

本学の協定校一覧は、HPから確認できます(27ヶ国75大学1研究所/2016年9月時点)。

3. 在学留学の資格要件

在学留学を申請する場合は、次の条件を満たしていなければなりません。また、留学に際し不適切な危険地帯等への留学は認められません。

- (1) 本学に1年以上在学し、かつ所属学部の定める所定の単位を修得している者。

留学(出発)セメ	基 準	
3セメ～	1セメ終了時	インテンシブ科目もしくは専攻○○語5単位を含む卒業要件単位15単位以上修得している者
4セメ～	2 〃	インテンシブ科目もしくは専攻○○語10単位を含む卒業要件単位30単位以上修得している者
5セメ～	3 〃	インテンシブ科目もしくは専攻○○語15単位を含む卒業要件単位45単位以上修得している者
6セメ～	4 〃	インテンシブ科目もしくは専攻○○語20単位を含む卒業要件単位60単位以上修得している者
7セメ～	5 〃	インテンシブ科目もしくは専攻○○語20単位を含む卒業要件単位75単位以上修得している者
8セメ～	6 〃	インテンシブ科目もしくは専攻○○語20単位を含む卒業要件単位94単位以上修得している者

- (2) 心身共に留学に耐え得る健康状態である者。
- (3) 留学先の大学等の要件を満たす者。
- (4) 保証人の承諾が得られる者。
- (5) 留学目的および留学計画が明確で適切であること。
- (6) 留学に必要な経済力を十分に有していること。

※交換・派遣留学を希望する場合は、上記に加えて各プログラムで必要とされる学力・語学力要件を満たしていること。

詳しくは、該当時期の募集要項を確認してください。

※認定留学の場合は、上記に加えて留学先の入学許可書を取得していること。

4. 申請手続

(1) 交換・派遣留学

交換・派遣留学は、毎年4月及び10月に募集します。募集説明会の開催は電子掲示板POSTで案内します。応募希望者は、応募書類の提出期限を厳守のうえ、国際交流センター事務室へ申し込んでください。書類受付後は、面接を実施のうえ、学業成績、語学力等総合的に判定し、留学生を決定します。

在学留学生の資格は、前述(3. 在学留学の資格要件)のとおりです。

(2) 認定留学

認定留学は、自分が留学したい大学(学位授与権のある大学)の入学許可書を各自が取り寄せ、本学の許可を得て留学する制度です。まずは留学計画や受講するコース、単位認定等について留学アドバイザーと十分相談したうえで、申請手続を行ってください。申請のためには、「認定留学希望届」を提出した後、留学先の入学許可書を取り寄せ、「認定留学願書」等の必要書類を期日までに提出する必要があります。提出されたすべての書類は、各学部の在学留学資格要件等を考慮のうえ、認定留学の可否を決定します。

- 認定留学申請書類
「認定留学希望届」、「認定留学願書」、「入学許可書の写し(和訳添付)」、「誓約書」、「留学届」
提出先：外国語学部事務室
- 提出期限(厳守)
春学期から出発する場合 1月末まで(「認定留学希望届」は、11月末まで)
秋学期から出発する場合 6月末まで(「認定留学希望届」は、4月末まで)

在学留学希望者は、学期始めに行われる外国語学部在学留学説明会に参加して、留学制度をよく理解し、留学アドバイザーから充分指導を受けたうえで申請してください。

5. 留学期間の取扱い

- (1) 留学期間は1学期間(一部の交換留学・EBJ派遣留学プログラム・認定留学)または1年間(交換・派遣・認定留学)とし、本学の修業年限及び在学年数に算入します。
- (2) 上述の留学期間はあくまでも学籍上の期間であり、実際の留学(渡航)期間を意味するものではありません。原則、春学期末は、7月末までに、秋学期は1月末までに帰国し、単位認定手続きを行わねばなりません。(「12. 単位認定の手続き」参照)なお、留学先での滞在期間は、原則として、1学期間の場合は3ヶ月以上、また、1年間の場合は9ヶ月以上の滞在を要します。
- (3) 留学期間を延長する場合は休学扱いとなり、「休学願」及び「渡航計画書」を外国語学部事務室へ提出のうえ許可を得なければなりません。

6. 留学期間の始期及び終期

留学期間の始期及び終期は次のとおりですが、留学先での授業の都合上、これらの日付の前後に出国または帰国した場合でも、いずれかの日付に読み替えます。

- <始期 春学期始業日 または 秋学期始業日>
「留学届」をもって学籍を「在学」から「留学」へ変更します。
- <終期 春学期終了日 または 秋学期終了日>
「帰学届」をもって学籍を「留学」から「在学」へ変更します。

7. 留学終了の手続

留学を終えて帰国した学生は、電子掲示板POSTより「帰学届」を打ち出し、速やかに外国語学部事務室へ提出してください。

8. 留学中における本学学費

本学の学費は、在学留学中であっても、学則第43条に定めるとおり全額を納入していただくこととなりますが、本学の学費及び留学先の授業料や滞在費用等、かなりの留学費用がかさむことから、留学への経済的支援を後述(9. 外国留学支援金)のとおり行っています。

9. 外国留学支援金

在学留学する際の経済的支援として、次の外国留学支援金を支給します。なお、支給方法は、本学授業料から外国留学支援金額を差し引くことにより行います。

- (1) 交換留学生及び派遣留学生
経済・経営・法・現代社会・外国語・文化学部…55万円(年額)
理・コンピュータ理工・総合生命科学部…75万円(年額)
- (2) 認定留学生
経済・経営・法・現代社会・外国語・文化学部…45万円(年額)
理・コンピュータ理工・総合生命科学部…55万円(年額)

※上記金額は1年間留学した場合の金額です。1学期間の場合は半額となります。

※他の学費減免制度、奨学金制度等の適用を受けている場合は、授業料相当額を限度として併給調整して支給します。

※諸事情により上記金額を変更する場合があります。

10. 継続履修制度

「継続履修」とは、秋学期から翌年度の春学期まで1年間の留学期間の場合、留学前の春学期に履修している学期連結科目および通年科目を帰国後の秋学期に継続して履修することができることをいいます。継続履修を希望する場合は、留学前に必ず外国語学部事務室に「継続履修願」を提出し、承認を得ておかなければなりません。なお、帰国後、承認を得た科目であっても不開講その他の理由により継続履修できない場合があります。

11. 留学許可の取消

次のいずれかに該当した場合は、留学の許可を取り消すことがあります。また、留学が取り消された場合は、外国留学支援金は返還しなければなりません。

- (1) 学生査証が認められない者
- (2) 法令に違反した者又は学則その他の本学の規程等に違反した者
- (3) 本学への学費等の納入を怠った者
- (4) 留学先において成業の見込みがないと認められた者
- (5) 病気その他やむを得ない事由により留学を続けることができなくなった者

※募集要項記載の条件等の基準を満たすことが出来なかった場合も留学許可が取り消される場合があります。

12. 単位認定の手続

在学留学の場合、留学先の大学で修得した単位の単位認定申請手続をしなければなりません。

留学先の大学で修得した単位のうち、適当と認められたものは、1年間留学した場合、48単位、1学期間留学した場合、24単位を限度として本学の卒業に必要な単位の単位に認定することができます。ただし、1年間留学すれば48単位（1学期間24単位）が修得できるのではなく、あくまでも認定される最大限の単位であって、留学先での学習内容・学習量等によって認定される単位は変わります。なお、この留学での限度単位には後述（13. 夏季短期語学実習及び春季短期語学実習）の短期語学実習で認定された単位を含みます。

専門教育科目として単位認定するものは「外国留学特殊科目」、共通教育科目として単位認定するものは「外国留学科目」の科目名で、それぞれ認定されます。

単位認定に係わる必要書類としては、「単位認定申請書」の他、成績証明書、履修科目の時間数及び単位数を証明する書類、授業細目（シラバス）等の書類が求められますので、留学前に必ず学部の留学アドバイザーまたは外国語学部事務室で確認しておいてください。

なお、単位認定書類は、春学期から1年間留学の場合は翌年1月末までに、秋学期から1年間留学の場合は翌年7月末までに外国語学部事務室に提出してください。春学期から1学期間留学の場合は7月末までに、秋学期から1学期間留学の場合は翌年1月末までに留学アドバイザーの教員に提出してください。

13. 夏季短期語学実習及び春季短期語学実習

夏季・春季短期語学実習は、引率者がつかない「自立型」のプログラムです。学部・年次を問わず参加できます。語学要件はプログラムによって異なりますが、事前の学習経験が必須となります。

募集説明会の開催は電子掲示板POSTで案内します。応募希望者は期間内に申請してください。（「夏季短期語学実習」の公募は4月、「春季短期語学実習」の公募は10月を予定）※春季短期語学実習については、8 Semester生は応募できません。

なお、実習終了後、実習大学で交付された修了書等をもって単位認定の申請をした場合は、授業時間数に応じて共通科目の「海外実習科目」として、2～4単位が認定されます。

※定員に満たない場合は、中止することがあります。

14. 留学相談

留学全般的な相談については国際交流センター事務室が、また、単位認定に係わる相談は留学アドバイザー及び外国語学部事務室が担当しています。

なお、留学を希望される方は、在学中の履修計画や将来の進路も熟慮のうえ、早期から十分な計画を立てることが望まれます。また、海外に留学するのですから、日本では当たり前のことがそれぞれの国によってさまざまな法律、規則や慣習があり異なることが多々ありますので、留学してから戸惑うことのないよう、留学前には必ず留学先の歴史、文化、慣習等を理解しておくことが肝要です。

15. 危機管理

(1) 海外プログラム実施についての基本的な考え方

本学では、海外渡航の準備と海外プログラム実施期間中、学生の安全を守るための配慮と方策、そしてそれに基づく指導を可能な限り行いますが、海外プログラムに参加する学生は、各自が自主的に自覚と責任を持ち、適切な判断と行動をとらなければなりません。

原則として、本学の海外プログラムに参加する学生は、本学からの指示、連絡に従わなければなりません。

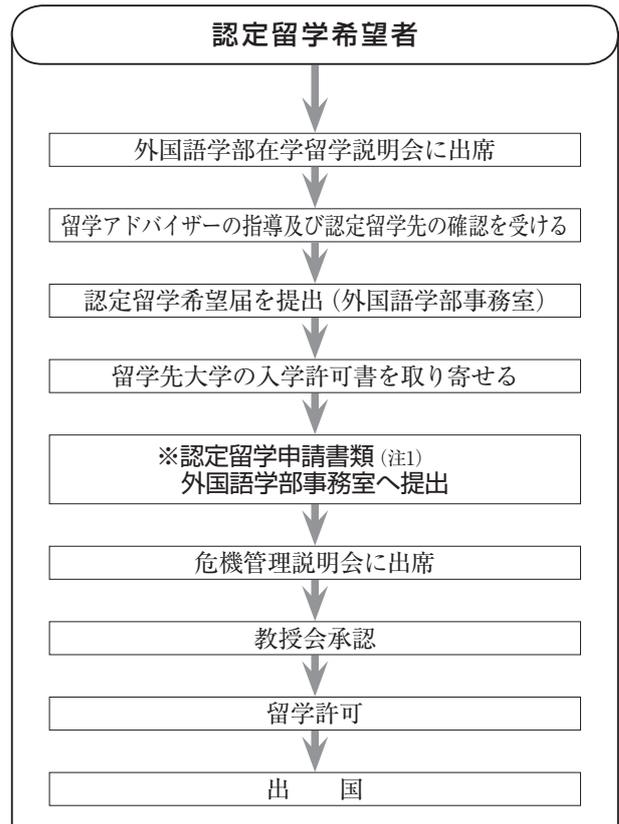
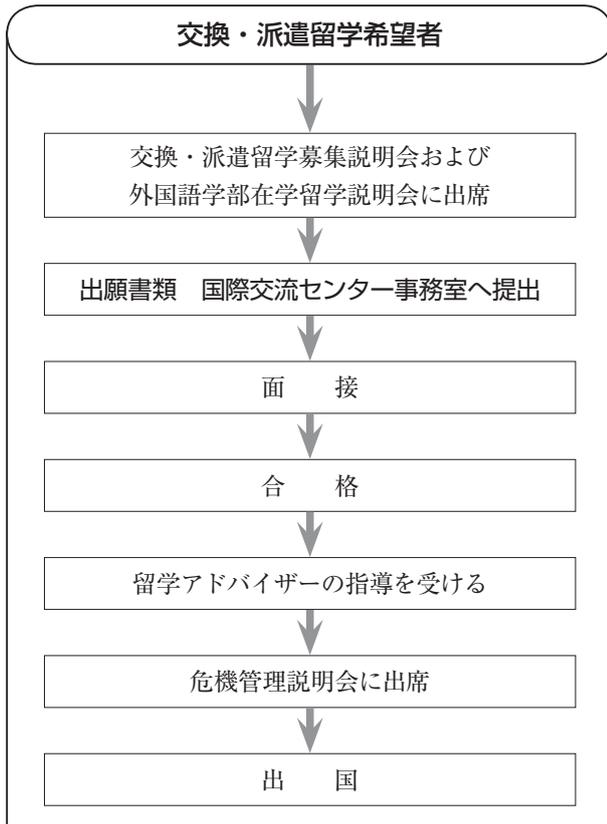
(2) 海外プログラム実施の判断基準（中止、延期、継続）

本学の海外プログラムの実施判断は以下3点の基準によって行います。

- ①渡航先国の事情（危険情報が出た場合等）
- ②プログラム実施機関等の事情
- ③個人的事情（病気等）

※上記事情により発生する費用はすべて自己負担となります。

出国までの流れ

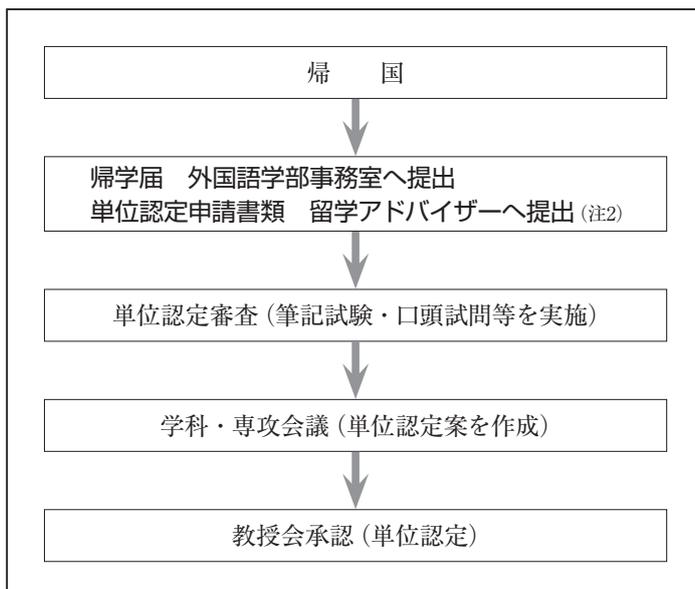


注1) 認定留学申請書類

- ・認定留学願 (所定用紙)
- ・留学先大学の入学許可書写し (訳文添付)
- ・誓約書 (所定用紙)
- ・留学届 (所定用紙)

※所定用紙は外国語学部事務室にあります。

帰国後の単位認定までの流れ



注2) 単位認定申請書類

- ・留学科目単位認定申請書 (所定用紙)
- ・履修報告書 (所定用紙)
- ・授業時間割 (所定用紙)
- ・留学先大学での成績証明書・修了書 (写し)
- ・履修科目の受講時間数及び単位数の証明書 (写し)
- ・受講した科目の内容を説明した授業細目 (シラバス)

※所定用紙は電子掲示板POSTのキャビネットにあります。

履修一般

学籍

単位互換制度

英語学科

ヨーロッパ学

言語学

国際関係科

外国語検定試験合格

融合教育

グローバルな学び

就職課程

図書館司書課程

規程

海外インターンシップ

■概要

海外インターンシップ(科目名「インターンシップ4」)は、夏期休暇を利用して、海外の企業や団体で約1ヶ月の就業体験(インターンシップ)に参加する、正課科目です。プログラムは、インターンシップに加えて、業界研究やマナー講座などの事前授業、実習の振り返りや成果報告などの事後授業で構成され、皆さんの実習での学びをサポートするよう、設計されています。

渡航先は、オーストラリア、ニュージーランド、マレーシア、台湾などアジア・オセアニア地域が中心です。また就業先は、日本語教師アシスタント、旅行業、コンサルティング業などが用意されています。

インターンシップは、仕事内容や職場の状況を深く知ることができ、自分の適性や今後の進路選択について考えるきっかけになります。特に、海外でのインターンシップは、語学力や主体性など、異文化コミュニケーションにおいて必要となるスキルを養うことができる絶好の機会です。グローバル化した社会の中で、海外を視野に入れた将来の進路について、実体験をもとに真剣に考えることができます。

URL: <http://www.kyoto-su.ac.jp/kokusai/get/internship/>

■目的

- ・海外での就業体験を通じて、語学力や主体性など日本語以外でのコミュニケーション能力を養い、異文化への適応力を高める。
- ・国内だけではなく海外も含めて、より広い視点で自分の職業適性を考える。

■履修方法

配当年次：2年次生、3年次生

対象学部：全学部学科

単位数：4単位

履修方法：書類選考と面接選考を実施し、履修者を決定します。

※募集説明会を実施しますので、履修希望者は募集説明会に必ず参加してください。(募集説明会の詳細は電子掲示板POST等で告知します。)

履修上の注意：「インターンシップ3」(国内インターンシップ)と同時に履修はできません。また、2年次に海外インターンシップを履修した場合、3年次に「インターンシップ3」を履修することはできません。

※その他の同時履修不可科目については、履修要項別冊ガイドを参照してください。

■参考：過去の就業先(実績)

渡航先	就業先
アメリカ(サンフランシスコ、ニューヨーク、ハワイ、ロサンゼルス)	運輸業、金融機関、不動産会社、貿易会社、ホテル、旅行業、NPO法人
イギリス(オックスフォード)	大学事務
イタリア(ペルージャ)	大学事務
オーストラリア(ゴールドコースト、シドニー、ブリスベン、メルボルン)	介護福祉施設、航空会社、政府機関、出版、職業訓練学校、政府系航空訓練施設、小学校、中学校、高等学校、大学、日本語学校、不動産、ホテル業、旅行業
カナダ(ヴィクトリア、バンクーバー)	大学事務、旅行業
シンガポール	旅行業
台湾(台北)	コンサルティング業
中国(上海、西安、香港)	旅行業、商社
ニュージーランド(オークランド、クライストチャーチ、パーマストンノース)	カーオークション会社、高等学校、公認会計士事務所、小売業、スポーツウェアメーカー、大学、ホテル業、旅行業
フィリピン(マニラ)	建設業
マレーシア(ペナン)	ホテル業
メキシコ(メキシコシティ)	モータサイクルメーカー
ロシア(モスクワ)	旅行業

教 職 課 程

教職課程

外国語学部で中学校及び高等学校の教員を志望する人のために、以下に示す教職課程が設けられています。専攻の専門教育科目など卒業に要する単位を修得するとともに、教職課程で「教職に関する科目」及び「教科に関する科目」など所定の単位を修得した人は、教育職員免許法によって教員免許状が取得できます。また、佛教大学又は聖徳大学の通信教育課程を併修することにより、小学校教諭免許状を取得することも可能です。ただし、計画的に履修しないと教育実習の履修資格を得られず、免許状授与の要件を満たすことができなくなりますので注意してください。

1. 取得できる免許状の種類及び教科

学 科	免許状の種類・教科	
	中学校教諭 一種免許状	高等学校教諭 一種免許状
英 語 学 科	英 語	英 語
ヨーロッパ言語学科	英 語	英 語
	ドイツ語 フランス語	ドイツ語 フランス語
アジア言語学科	英 語	英 語
	中国語	中国語
国際関係学科	英 語	英 語

※英語の教員免許状はすべての学科で取得可能です。ドイツ語・フランス語・中国語の教員免許状については、該当の学科で各言語を専攻している場合に限りです。

2. 免許状取得に必要な基礎資格と最低修得単位数

必要な基礎資格	学士の学位を有すること (学部の履修規定をよく読んで 卒業要件単位数を満たすこと)
---------	---

必要な区分 (法定単位)	本学における最低修得単位数		
	中学校	高校	
教育職員免許法施行規則第9条の6に定め る科目	日本国憲法(2)	各免許状共通	2
	体 育(2)	各免許状共通	3
	外国語コミュニケーション(2)	英語学科	4
		ヨーロッパ言語学科	2
		アジア言語学科	2
情報機器の操作(2)	各免許状共通	2	
教職に関する科目 (中学校31)(高校23)	英語 ドイツ語 フランス語 中国語	35	
	英語 ドイツ語 フランス語 中国語	31	
教科に関する科目 (中学校20)(高校20) *取得希望教科ごとに修得 すること	英語 ドイツ語 フランス語 中国語	27	
	英語 ドイツ語 フランス語 中国語	20	
教科又は教職に 関する科目 (中学校8)(高校16) *取得希望教科ごとに修得 すること	英語 ドイツ語 フランス語 中国語	20	
	英語 ドイツ語 フランス語 中国語	8	
	英語 ドイツ語 フランス語 中国語	16	

()内に示す単位数は、教育職員免許法に定める単位数であり、本学では上記「本学における最低修得単位数」をすべて修得しなければ、卒業と同時に免許状を取得することはできません。

教職課程に関する相談

教職課程の履修相談及び教員免許状取得に関する質問等がある場合は、教職課程教育センター(10号館1階)へ来室してください。

教職に関する資料

教職課程教育センターの書架に、教員採用試験問題集、中学校及び高等学校の教科書等を置いています(貸出可)。また、図書館の資格・就職コーナー、雑誌コーナーにも教職に関する資料があります。積極的に活用してください。

教職課程に関する掲示

教職課程に関する重要なお知らせは、電子掲示板POST及び教職課程掲示板(10号館1階)にて掲示します。必ず1日に1回は確認するようにしてください。

教職課程の詳細は、教職課程オリエンテーションにて配付される「教職課程履修要項」で確認してください。

履修一般

学 籍

単位互換制度

英語学科

ヨーロッパ言語学科

アジア言語学科

国際関係科

外国語検定試験合格

融合教育カリキュラム

グローバルな学び(GEET)

教職課程

図書館司書教諭課程

規 程

圖書館司書課程
學藝員課程
學校圖書館司書教諭課程

図書館司書課程

◇目的

図書館法第2条に定められている公立図書館及び私立図書館などに専門的職員として置かれる司書の資格を取得するための課程です。司書は、地方公共団体が設置する公立図書館などで、図書館資料の選択・発注・受入から、分類・目録作成・貸出業務・レファレンスなどを行う専門的職員です。

司書となる資格については、図書館法第5条第1項第1号に「大学を卒業した者で大学において文部科学省令で定める図書館に関する科目を履修したもの」と定められています。司書資格取得に必要な科目を修得すれば、卒業と同時に資格を得ることができます。ただし、飛び級による大学院進学については、大学卒業の条件を満たしていないと見なされるため、当該資格を取得することはできません。

本課程を履修し、国際化・情報化・生涯学習時代という現代の状況下で活躍できる司書としての能力を身に付けてください。

◇履修条件

図書館で働きたいという、強い意志のある者。

本課程を履修し、資格を取得するには、課程登録をする必要があります。詳細については各学期開始前に開催される課程登録説明会に出席し確認してください。

なお、司書の資格を取れば、図書館の正職員に即採用されるというわけではありません。例えば公立図書館の場合は、各自治体が実施する採用試験に合格し、図書館に配属されることにより、司書として働くことができます。

◇修了証書の発行

卒業要件を満たし、本課程所定の必修科目28単位、選択科目3単位以上、計31単位以上を修得した者には、「図書館司書課程修了証書」を発行します。なお、証書は卒業式当日に授与します。

◇構成

	法令上の科目		本学における開講科目		配当年次 (当該年次以上は履修可能)	科目区分 (卒業要件算入等については、各学部履修規定で確認のこと)	備考
	科目名	単位	科目名	単位			
必修科目	生涯学習概論	2	生涯学習概論	2	1	文化学部専門教育科目	注)1.
	図書館概論	2	図書館概論	2	1	文化学部専門教育科目	注)1.
	図書館制度・経営論	2	図書館制度・経営論	2	1	文化学部専門教育科目	注)1.
	図書館情報技術論	2	図書館情報技術論	2	2	文化学部専門教育科目	注)1. 2.
	図書館サービス概論	2	図書館サービス概論	2	1	文化学部専門教育科目	注)1.
	情報サービス論	2	情報サービス論	2	2	文化学部専門教育科目	注)1.
	児童サービス論	2	児童サービス論	2	2	文化学部専門教育科目	注)1.
	情報サービス演習	2	情報サービス演習Ⅰ	2	2	文化学部専門教育科目	注)1. 3.
	図書館情報資源概論	2	情報サービス演習Ⅱ	2	2	文化学部専門教育科目	注)1. 3.
	情報資源組織論	2	図書館情報資源概論	2	1	文化学部専門教育科目	注)1.
	情報資源組織演習	2	情報資源組織論	2	2	文化学部専門教育科目	注)1.
	情報資源組織演習Ⅰ		情報資源組織演習Ⅰ	2	3	文化学部専門教育科目	注)1. 4.
	情報資源組織演習Ⅱ		情報資源組織演習Ⅱ	2	3	文化学部専門教育科目	注)1. 4.
必修科目の合計単位数	22						
選択科目	図書館情報資源特論	1	図書館情報資源特論	2	1	文化学部専門教育科目	注)1.
	図書館基礎特論	1	図書館基礎特論	2	2	文化学部専門教育科目	注)1.
	図書館サービス特論	1	図書館サービス特論	1	1	文化学部専門教育科目	注)1.
	図書・図書館史	1	図書及び図書館史	2	1	文化学部専門教育科目	注)1.
	図書館施設論	1	図書館施設論	1	2	文化学部専門教育科目	注)1.
	図書館総合演習	1					
	図書館実習	1					
	うち2科目以上	2	うち3単位以上	3			

- 注) 1. 本課程登録者のみ履修可能です。
 2. 「図書館概論」修得済みの者のみ履修可能です。
 3. 「情報サービス論」修得済みの者のみ履修可能です。
 4. 「情報資源組織論」修得済みの者のみ履修可能です。
 ※所属学部により履修登録の方法が異なります。詳細は説明会または教学センターで確認してください。

◇履修モデル (実状を考えて作った一例です。科目ごとの配当年次と一部異なっています。)

1年次	2年次	3年次	4年次
生涯学習概論 図書館概論 図書館制度・経営論 図書館サービス概論 図書館情報資源概論	情報サービス論★ 児童サービス論 情報サービス演習Ⅰ 情報サービス演習Ⅱ 情報資源組織論◆ 図書館情報資源特論 図書館サービス特論	図書館情報技術論 情報資源組織演習Ⅰ 情報資源組織演習Ⅱ 図書館基礎特論 図書及び図書館史	図書館施設論

- ※太字は必修科目
 ※★印は「情報サービス演習Ⅰ」及び「情報サービス演習Ⅱ」を履修するための先修要件
 ※◆印は「情報資源組織演習Ⅰ」及び「情報資源組織演習Ⅱ」を履修するための先修要件
 ※太字以外の選択科目から3単位以上修得すること

学芸員課程

◇目的

博物館に専門的職員として置かれる学芸員の資格を取得するための課程です。
 学芸員は、博物館に置かれる専門的職員で、博物館資料の収集、保管、展示、調査研究及びその他これと関連する事業について専門的な職務に従事します。また、埋蔵文化財などに関わる発掘調査員という進路が考えられます。
 学芸員の資格は、博物館法第5条第1項第1号に「学士の学位を有する者で、大学において文部科学省令で定める博物館に関する科目の単位を修得したもの」と定められており、取得に必要な科目を履修し単位を修得すれば、卒業（学士の学位授与）と同時に資格を得ることができます。
 国際化・情報化・生涯学習時代という現在の状況で活躍できる学芸員としての能力を身に付けてください。歴史資料・美術品・文化財・伝統文化などを将来に伝える意義のある仕事です。

◇履修条件

博物館で働きたいという強い意志のある者。
 大切な文化財・文化遺産を、後世まで守り伝えていこうという強い思いのある者。
 本課程を履修し、資格を取得するには、課程登録をする必要があります。詳細については各学期開始前に開催される課程登録説明会に出席し確認してください。
 なお、学芸員の資格を取れば、博物館の正職員に即採用されるというわけではありません。学芸員としての採用は、学部を卒業しただけでは厳しく、大学院修士課程修了以上もしくはそれと同等の知識及び経験を有することを求められるのが実状です。
 資格取得には実習科目の修得が必要となりますが、真面目に取り組まない者には学外館園で実習を行う「博物館実習Ⅱ」の履修を認めません。実習受け入れ先館園及び資格取得を目指す他の学生に多大な迷惑を掛けることになりますので、十分留意してください。

◇課程運用費

「博物館実習Ⅱ」における館園実習を含め、他科目における学外実習の拝観料及び課程の運用に係るその他費用を、「博物館実習Ⅰ」を履修する年度に納める必要があります。詳細については、「博物館実習Ⅰ」を履修する前年度末（3月末）の在学生対象ガイダンスに出席し確認してください。

◇修了証書の発行

卒業要件を満たし、本課程所定の必修科目21単位、選択科目8単位以上、計29単位以上を修得した者には、「学芸員課程修了証書」を発行します。なお、証書は卒業式当日に授与します。

◇構成

法令上の科目		
科目名	単位	
生涯学習概論	2	必修科目
博物館概論	2	
博物館経営論	2	
博物館資料論	2	
博物館資料保存論	2	
博物館展示論	2	
博物館教育論	2	
博物館情報・メディア論	2	
博物館実習	3	
必修科目の合計単位数	19	

	本学における開講科目		配当年次 (当該年次以上は履修可能)	科目区分 (卒業要件算入等については、各学部の履修規定で確認のこと)	備考
	科目名	単位			
必修科目	生涯学習概論	2	1	文化学部専門教育科目	注) 1.
	博物館概論	2	1	文化学部専門教育科目	注) 1.
	博物館経営・情報論	2	1	文化学部専門教育科目	注) 1.
	博物館資料論	2	2	文化学部専門教育科目	注) 1.
	博物館資料保存論	2	3	文化学部専門教育科目	注) 1.
	博物館展示論	2	2	文化学部専門教育科目	注) 1.
	博物館教育論	2	2	文化学部専門教育科目	注) 1.
	視聴覚メディア論	2	2	文化学部専門教育科目	注) 1.
	博物館実習Ⅰ	2	3	文化学部専門教育科目	注) 1. 2.
	博物館実習Ⅱ	1	3	文化学部専門教育科目	注) 1. 2.
文化財入門	2	1	文化学部専門教育科目	注) 3.	
必修科目の合計単位数	21				
選択科目	歴史文化概説Ⅰ(日本史)	2	2	文化学部専門教育科目	注) 3.
	歴史文化資料論Ⅰ(日本史)	2	2	文化学部専門教育科目	注) 3.
	歴史文化講読ⅠA(日本古代・中世)	2	2	文化学部専門教育科目	注) 3.
	歴史文化講読ⅠB(日本近世・近代)	2	2	文化学部専門教育科目	注) 3.
	考古学入門	2	1	文化学部専門教育科目	注) 3.
	考古学A	2	2	文化学部専門教育科目	注) 3.
	考古学B	2	2	文化学部専門教育科目	注) 3.
	文化人類学	2	1	文化学部専門教育科目	注) 3.
	芸術入門	2	2	文化学部専門教育科目	注) 3.
	美術史A	2	2	文化学部専門教育科目	注) 3.
	美術史B	2	2	文化学部専門教育科目	注) 3.
	工芸デザイン論	2	2	文化学部専門教育科目	注) 3.
	京都文化特論Ⅱ	2	3	文化学部専門教育科目	注) 3.
うち8単位以上	8				

注) 1. 本課程登録者のみ履修可能です。
 2. 「博物館概論」、「博物館資料論」及び「博物館教育論」を含む本課程必修科目10単位以上修得した者のみ履修可能です。
 3. 文化学部生以外の学生は、所定の期間内にWeb履修登録画面から申請してください。
 ※所属学部により履修登録の方法が異なります。詳細は説明会または教学センターで確認してください。

◇履修モデル（「考古学」をコアに選択科目を履修した一例です。科目ごとの配当年次と一部異なっています。）

1年次	2年次	3年次	4年次
生涯学習概論 博物館概論★ 博物館経営・情報論 文化財入門 考古学入門	博物館資料論★ 博物館展示論 博物館教育論★ 視聴覚メディア論 考古学A 考古学B	博物館資料保存論 博物館実習Ⅰ 工芸デザイン論 京都文化特論Ⅱ	博物館実習Ⅱ

※太字は必修科目
 ※★印は必修科目かつ「博物館実習Ⅰ」及び「博物館実習Ⅱ」を履修するための先修要件
 ※選択科目から8単位以上修得すること

履修一般

学籍

単位互換制度

英語学科

言語学

言語学

国際関係

外国語検定試験

単位認定制度

カリキュラム

グローバルな学び

教職課程

図書館司書課程

規程

学校図書館司書教諭課程

◇目的

学校図書館法第2条に定められている学校図書館で専門的業務を行う教員としての資格（司書教諭資格）取得を目指す課程です。

司書教諭とは、小学校（特別支援学校の小学部を含む。）、中学校（中等教育学校の前期課程及び特別支援学校の中学部を含む。）及び高等学校（中等教育学校の後期課程及び特別支援学校の高等部を含む。）の学校図書館で、その運営や読書指導、情報活用能力の育成をはじめ、図書資料などの選択・収集・整理、教員への参考資料案内などの専門的な職務を掌る教員をさします。

現在の学校教育では、児童生徒に自ら学び自ら解決する力をつけることが求められています。また、新学習指導要領においても、児童生徒の言語能力の育成や、各教科における言語活動の充実が盛り込まれており、これらの実践にも本資格は大きく寄与するものと思われま

◇履修条件

小学校・中学校・高等学校の教員として、さらに学校図書館の運営や読書指導、情報活用能力の育成、各教科における言語能力の育成にも積極的に取り組みたいという意欲のある者。

本課程を履修し、資格を取得するには、課程登録をする必要があります。また、卒業及び教員免許状の取得がないと、結果的にこの資格は取得できないので、まずは学部の授業や教職関係の授業をきちんと履修し、そのうえで計画的にこの課程の科目を履修してください。したがって登録手続きは2年次以降となります。詳細については各学期開始前に開催される課程登録説明会に出席し確認してください。

なお、司書教諭の資格をとれば、即学校図書館に就職できるわけではありません。都道府県及び政令指定都市が実施する公立学校教員採用候補者選考試験などに合格し、教員として働くことが前提となります。

◇修了証書の発行

教員免許状を取得し、本課程所定の必修科目10単位を修得した者が、卒業後に本学を通して文部科学省に申請するという手続きが必要です。文部科学省が発行した「学校図書館司書教諭講習修了証書」は、卒業から約1年後にみなさんの手元に届きます。詳細については、所定の時期に行われるガイダンスに出席し確認してください。

◇構成

	法令上の科目		本学における開講科目		配当年次 <small>(当該年次以上は履修可能)</small>	科目区分 <small>(卒業要件算入等については、各学部の履修規定で確認のこと)</small>	備考
	科目名	単位	科目名	単位			
必修科目	学校経営と学校図書館	2	学校経営と学校図書館	2	2	文化学部専門教育科目	注) 1. 2.
	学校図書館メディアの構成	2	学校図書館メディアの構成	2	2	文化学部専門教育科目	注) 1. 2.
	学習指導と学校図書館	2	学習指導と学校図書館	2	2	文化学部専門教育科目	注) 1. 2.
	読書と豊かな人間性	2	読書と豊かな人間性	2	2	文化学部専門教育科目	注) 1. 2.
	情報メディアの活用	2	視聴覚教育	2	1	共通教育科目	注) 3. 4.
			視聴覚メディア論	2	2	文化学部専門教育科目	注) 1. 4.
			必修科目の合計単位数	10			
選択科目			児童サービス論	2	2	文化学部専門教育科目	注) 1. 5.
			学校図書館演習	2	3	文化学部専門教育科目	注) 1. 5. 6.
			情報サービス論	2	2	文化学部専門教育科目	注) 1. 5.

- 注) 1. 本課程登録者のみ履修可能です。
 2. 文化学部 国際文化学科のみ、教員免許状取得のための「教科又は教職に関する科目」の単位に充当することができます。
 3. 教職課程登録者のみ履修可能です。
 4. いずれか1科目選択必修です。
 5. 選択科目は、司書教諭としてのスキルアップのために設けています。未修得の場合でも当該資格の取得は可能です。
 6. 「学校図書館メディアの構成」修得済みの者のみ履修可能です。
 ※所属学部により履修登録の方法が異なります。詳細は説明会または教学センターで確認してください。

◇履修モデル（実状を考えて作った一つのモデルです。科目ごとの配当年次と一部異なっています。）

1年次	2年次	3年次	4年次
	学校経営と学校図書館 読書と豊かな人間性 視聴覚教育★ 視聴覚メディア論★	学校図書館メディアの構成 学習指導と学校図書館 児童サービス論 情報サービス論	学校図書館演習

- ※太字は必修科目
 ※★印の選択必修科目はいずれか一方を修得すること。ただし、双方を修得することを妨げない
 ※太字以外の選択科目は資格取得要件に含まない